

熊本大学 理学部
における組織評価
自己評価書

平成 30 年 9 月 28 日
4. 理学部

目次

I 熊本大学理学部の現況及び特徴と目的	2
II 教育の領域に関する自己評価書	6
1. 教育の目的と特徴	7
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	8
3. 観点ごとの分析及び判定	9
4. 質の向上度の分析及び判定	71
IV 社会貢献の領域に関する自己評価書	72
1. 社会貢献の目的と特徴	73
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	73
3. 観点ごとの分析及び判定	74
4. 質の向上度の分析及び判定	87
V 国際化の領域に関する自己評価書	88
1. 国際化の目的と特徴	89
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	89
3. 観点ごとの分析及び判定	90
4. 質の向上度の分析及び判定	96
VI 管理運営の領域に関する自己評価書	97
1. 管理運営の目的と特徴	98
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	98
3. 観点ごとの分析及び判定	99
4. 質の向上度の分析及び判定	132
VII 男女共同参画に関する自己評価書	133
1. 男女共同参画の目的と特徴	134
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	134
3. 観点ごとの分析及び判定	135
4. 質の向上度の分析及び判定	141

I 熊本大学理学部の現況及び特徴と目的

1 現況

(1) 学部等名：熊本大学理学部

(2) 学生数及び教員数（平成30年5月1日現在）

：学生数810人、専任教員数（現員数）：76人、助手数（0人）

※教員数の中に下記の教員を含む

くまもと水循環・減災研究教育センターの理学部併任教員 5人

パルスパワー科学研究所所属の理学部併任教員 2人

大学院先端機構所属の理学部併任教員 4人

2 特徴

熊本大学理学部は、昭和24年5月に第五高等学校理科及び熊本工業専門学校の一部を母体として創設された。創設当初は、数学科、物理学科、化学科、地学科、生物学科の5学科でスタートした。その後、表I-1の沿革で示すように、改組によって、増設や拡充をおこない、平成9年4月から6学科（数理科学、物理科学、物質化学、地球科学、生物科学、環境理学）となった。

国立大学が国立大学法人に設置形態を変更する平成16年4月と同じ時期に、理学部もそれまでの6学科を理学科1学科に統合改組した。この改組の目的は、理学共通の知識や多面的な思考法などの知的な技法を修得させ、卒業後の進路の多様化と社会の急激な変化にも柔軟に対応できる人材を養成することである。また、平成18年4月の大学院重点化に伴い、教員の所属は自然科学研究科に配置換えとなった。更に、平成28年4月より教育組織（教育部）と教員の所属組織（研究部）を分離し、研究所・センターや先端機構の所属する教員以外は大学院先端科学研究部に配置換えとなった。

本学部は旧制高等学校の剛毅木訥の気風と伝統を受け継ぎ、全学教養教育（理学分野）の責任部局としての役割を果たしつつ、1学科への改組の目的である論理思考力と観察・洞察力を兼ね備えた人材育成を行っている。また、九州地域における総合的かつ高度な理学教育・研究の中心的役割を果たすべく、理学及び地域社会の発展に貢献しているところであり、ミッションの再定義でも示したように、以下の強みや特色、社会的役割を有している。

○ 学生や社会のニーズに柔軟に対応するだけでなく、熊本県をはじめとする九州全域における総合的理学教育の機会均等に資するべく、一括入試方式による一学科制を導入した。最初の2年間は理学全般の基礎的理論や実験手法を身につけさせ、3年進級時に希望する専門コースを自由に選択させることで、幅広い専門性を有する理系のジェネラリスト養成を目指す。大学院修士課程においては理学に対する俯瞰力や応用力を有する専門性の高い人材育成の役割を充実するとともに、博士課程においては最先端研究や質の高い理学研究を遂行し深化させることのできる高度な研究能力を有する先導的な人材育成の役割を果たす。

○ 理学全般を俯瞰できる教育プログラムの一層の強化を図るとともに、研究者養成を目的とした英才教育プログラム制度（Junior Research Fellow）を充実しつつ、学びの質や学士の質を保証するシステムの改善を図る。さらに、グローバルに活躍できる人材育成に向けた学部・大学院教育への取り組みを強化する。

○ 我が国の産業の基盤となり得る基礎生命科学及び化学分野については高い研究活動実績を有しており、さらに、個々の教員は理学の発展の基礎をなす質の高い研究を野心的に推進し、その成果を世界に発信していくことで、我が国の理学の発展に貢献する。

○ (1) 教育関係共同利用拠点として、八代海・有明海の沿岸海域の環境問題や生態系について、小中高生への啓発活動を通して地域社会に貢献する。(2) 地下水環境リーダー育成国際共同教育拠点として、地下水資源の持続的利用に必要な知識や技術を提供すること

で、広く社会に貢献する。(3) 過疎地域において、教育委員会の協力のもと小中高と連携した総合的教育支援を通し、地域活性化に資する事業を展開する。

○ 学部及び大学院の授業開放、社会人入試や本学の長期履修制度などを通して博士学位取得を支援し、社会人の学び直しを推進する。

表 I - 1 沿革

1949年(昭和24) 5月	理学部(数学科、物理学科、化学科、地学科、生物学科の5学科)が第五高等学校理科及び熊本工業専門学校の一部を母体として創設
1954年(昭和29) 4月	附属臨海実験所が設置
1955年(昭和30) 7月	理学専攻科が設置
1962年(昭和37) 4月	物理学科と化学科にそれぞれ1学科目増
1966年(昭和41) 4月	大学院理学研究科修士課程が設置
同 上	生物学科が拡充改組
1969年(昭和44) 5月	地学科が講座増設
同 上	生物学科が拡充改組
1976年(昭和51) 4月	地学科が講座増設
1980年(昭和55) 4月	数学科が講座増設
1984年(昭和59) 3月	学内共同利用極低温装置室が開設
1988年(昭和63) 4月	大学院自然科学研究科博士課程が設置
1990年(平成2) 4月	生物学科が生物科学科に改組
1991年(平成3) 4月	生物科学科が講座増設
1993年(平成5) 4月	地学科が地球科学科に改組、講座増設
1997年(平成9) 4月	環境理学科が新設
同 上	数学科が数理科学科に、物理学科が物理科学科に、化学科が物質化学科に改称
1999年(平成11) 4月	極低温装置室などが衝撃・極限環境研究センターに改組
2001年(平成13) 4月	附属臨海実験所が沿岸域環境科学教育研究センターに改組
2004年(平成16) 4月	6学科が理学科に統合改組
2006年(平成18) 4月	大学院重点化に伴い教員が自然科学研究科に配置換
2016年(平成28) 4月	教員所属組織である大学院先端科学研究部を設置
2017年(平成29) 4月	グローバル・リーダー・コース設置

理学部の Web ページ (<http://www.sci.kumamoto-u.ac.jp/about/history.html>) より抜粋及び修正

3 組織の目的

理学部の役割は、基礎科学の教育研究を通して、学問を深化させるとともに、未来を切り拓いていく人材を育成して、地域及び国際社会に貢献することである。

本学部においても、発足以来、理学教育研究の府として、我が国の学術、科学技術の発展並びに文化の創造に寄与してきた。加えて、産業界、教育界はじめ各界の各分野に対しても有能な人材を輩出してきた。しかし、近年の科学技術の急速な発展により、従来型の狭い学問体系では対応できない新たな課題や深刻な問題が現れ始めている。それらの諸課題に叡智をもって迅速に対応できる有為な人材を将来にわたって育成してゆくことは、我が国が科学技術立国たりうるための最優先課題であり、本学部の重要な使命である。

一方、硬直化した旧来の教育カリキュラムは、グローバル化していく社会に必要な人材育成に十分に対応できているとは言い難く、社会ニーズに応える新たな教育システムの構築は喫緊の課題であると同時に天然資源に恵まれない我国の国益にも資するものである。

このような状況のもと、平成 16 年度に従来の 6 学科から理学科（1 学科）に改組し、多様化する社会に柔軟に対応でき、総合的科学的力を有し、自ら考えることのできる人材を将来にわたって養成するための教育システムを全国に先駆けて導入した。

理学部にあつては教育と研究は表裏一体の関係にあり、以下に示す本学部の基本理念および教育研究上の目的のもと、人類の叡智あるいは文化として蓄積されるべき自然科学の基礎的成果を追及するとともに、最先端の研究成果を教育に反映させて、

- ・自然科学に関して広くバランスのとれた知識・技術・思考法を身につけた、有能な人材
 - ・社会に出てからも新しいさまざまな課題に積極的に立ち向かうことのできる人材
 - ・理学のスペシャリストをめざし、進学を志す、学修意欲の高い人材
- の育成を目指すことが、本学理学部の教育・研究の目標である。

理学部の基本理念

本学部は基礎科学を考究する学部です。この基礎科学は自然の仕組みを解明したいという人間本来の知的欲求から出発する学問であり、やがては将来の科学技術に発展するものもあり、それらの成果は人類の英知あるいは文化として蓄積されるものです。

そのために本学部では学生がいろいろなことに積極的に関与し課題を見つけ、それらを解決する方法を探求できること、また、それらの結果を人類の幸せのために利用できることを教育の目的とします。

さらに、本学部での教育は学部・学科を越えて、できるだけ幅広く履修し、大学院で研究ができる基礎を作るように指導します。

理学部の教育研究上の目的

本学部は、自然科学に対する幅広い知識と理解、および、豊かな創造性と国際性を持ち、課題探求能力を備え、科学立国及び地域文化の創造に貢献できる人材を養成することを目的とします。

上述してきた、熊本大学理学部の基本理念等に関しては、理学部の Web ページ (<http://www.sci.kumamoto-u.ac.jp/about/aim.html>) や学生便覧、学生募集要項に掲載されており、広く公表されている。

これらの基本理念や目的・目標をもとに実施された平成 26 年度以降の改組・改善との関係を以下に列挙する。

●カリキュラム改革

1 学科制への改組後も多様な学生や社会の期待に応えるべく、常に教育カリキュラムの

見直しを行ってきた。その際の指針となるものは①コースを超えた授業科目の内容の吟味、②科目間の関連性などの整理、③早い時期からの専門性への重点のシフトなどが特徴である。今後は大学運営費の削減に伴う教員数の減少においても教育の質を落とさないためにも、教育カリキュラムの見直しは必須である。

●グローバル・リーダー・コースの設置

平成 29 年度にグローバル・リーダー・コースを設置し、学生の受け入れを開始した。グローバル教育カレッジと協力し、入学前教育や課外プログラムなど特徴的な教育カリキュラムを通してグローバルに活躍できるリーダーを養成し、豊かな国際性をもった人材を育成する。

●研究者を目指す優秀な学生への対応

エリート養成のためのジュニア・リサーチ・フェロー（JRF）の規則を整備し、世界に通用する研究者の養成を目指している。

●全学共通教育への継続的貢献

これまでに教養教育や他学部を提供する専門基礎教育、さらには入試業務等を通して熊本大学全学の発展に貢献してきた。今後も、全学教育や入試制度の改善・改革に協力していく。

●教育支援を通じた社会貢献

平成 28 年度から再開した組織的な出前授業への対応、スーパー・サイエンス・スクール（SSH）への協力、熊本県高等学校教育研究会などへの協力、理学部独自の教育による地域支援策（特定地域教育支援事業）などを通して、教育支援を主とした社会貢献活動を通して、社会で活躍できる人材育成につなげている。

Ⅱ 教育の領域に関する自己評価書

1. 教育の目的と特徴

一学科制の利点である理学全般を幅広く学修する独自のカリキュラムを通し、理学分野での確かな基礎学力に裏付けられた専門知識を身に着けさせる。さらに、学生の主体的活動を通して人間力・協調性を養い国際的な視野と感性を有する人材の育成を目的とする。上記目的の達成のため、次の目標を設定している。

- 1 理学の幅広い知識を有し、豊かな創造性を併せ持つ人材の養成
- 2 理学のジェネラリストとしての特色を活かし、他の研究領域、応用分野や多様な社会環境に対応できる人材の養成
- 3 理学のスペシャリストとして、国際的に通用する能力を有し、科学立国及び地域文化の創造に貢献する人材の養成

これら目標の実現のため、以下の取組を行っている。

入学時

アドミッションポリシーを明示し、一括入試により理学科へ受け入れる。

前期学士課程（1，2年次）

理学全般の基礎を修得させ、希望する専門領域の選択に時間と情報を充分与える。1年次後期から3名の学生に対して教員1名をチューターとして配置し、コース選択も含めた履修指導を行う。3年進級時、学生は自身の希望により数学、物理学、化学、地球環境科学、生物学からコースを選択する。

後期学士課程（3，4年次）

各コースにおいて、科目相関を示した履修モデルを提示し、期待される理学士像に求められる専門の深化に向けた系統的な学修の機会を提供する。さらに4年次への進級要件をクリアした学生に卒業研究の着手を認め、理学士としての専門性と創造性のための教育プログラムを提供する。

各コースではカリキュラムポリシーに沿った到達目標を提示している。学生は履修モデルを参考に履修計画を立てる。また、関連する他コースの授業科目を配置するなど、工夫を凝らしたカリキュラムの設定がなされている。

[想定する関係者とその期待]

大学教育では、初等・中等教育における科目教育から、高い専門性を持つ学問としての最先端研究へと学生を導かなければならない。その過程において学生自身の認識・志望と専門分野の不適合が起こると、学業不振や休・退学等の問題が生じがちである。本学部は、様々な分野の基礎を学んだ後に専門を自由に選択できることが大きな利点であり、このような不適合を防ぐことができる。実際、約7割の学生が入学後に専門を決定していることや、約4割が入学時の希望とは異なる分野を選んでいる点からもそれは窺える。

自然科学各分野は有機的かつ密接に関連しており、広く自然科学の基礎の上に立つ確かな専門性によって、現代社会が直面する諸課題に向き合う能力を持つことが本学部卒業生への社会からの期待と受け止めている。理学部入学者はその約9割が九州7県出身者であり、さらに入学者の約半数が大学院に進学することから、九州地区の理数教育における機会均等を保証しつつ、ジェネラリストとして自然科学分野を俯瞰できる能力とスペシャリストとしての確かな専門性を持つ人材を輩出することが本学部の使命である。

この現状から、主たるステークホルダーとして九州地区に拠点を置く企業や公・私立学校及び自治体等が想定される。卒業生の進路は一学科制移行の後さらに多様化してきた。その背景には、社会環境、とりわけ国際社会の変化に柔軟に対応できる人間力を持つ人材

が求められている事がある。一学科制による幅広い基礎を持つ理系人材の育成は、この期待に応えるものである。加えて、前身である旧制第五高等学校以来の、学問を重んじる伝統と剛毅木訥の気風を受け継いでいるというイメージが定着しており、気骨ある人材育成への期待は高い。改組から 14 年が経過し、本学部固有の教育プログラムが広く社会に受け入れられ、卒業生の進路実績が保護者や教育関係者、地域社会に対して安心感と期待感を与えていることは、安定した入学者の確保につながっていると考えられる。

このような背景のもと、本学部の人材育成に対する期待は以下のように捉えられる。

- 1 理学のジェネラリストとして、理学全般に対する基礎学力及び教養力
- 2 理学各分野のスペシャリストとして、専門知識とその運用能力
- 3 学生主体のコース選択を経た自己実現能力
- 4 旧制五高以来の気風に加え、明朗かつ高い協調性を備えた人間力
- 5 いかなる環境においてもグローバルな視野を持ってローカルアクトできる行動力

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

全国に先駆けて平成 16 年に発足した一学科制は当初から、広い視野を持つ理学士を養成する学部教育と、広い基礎と深い専門性を併せ持つ理学修士を育てる 6 年一貫教育の両立を目指すものである。6 年間の年次進行により一学科制は完成したが、その後も不断の見直しを継続し、教育プログラムを構築してきた点は大きな特徴であり、強みである。2 年次までの共通教育とその後の各コースでの教育において、教養教育改革等に対応しつつ学士教育全体の検証と見直しが迅速かつ柔軟にできる体制を取っている。本学部では学部定員すべてを対象とする一括入試による選抜と定員を設けない自己実現型コース選択を特徴とする一学科制を堅持しており、その優れた点として以下が挙げられる。

- ① 数学・理科の各分野の基礎及び専門的教養の修得（前期学士力の涵養）
- ② 専門分野決定のミスマッチを防止する教育システム
- ③ 進級基準及び卒業要件の見直しを含む、卒業生の質保証に重点を置いたカリキュラム改革（後期学士力の深化）
- ④ 個別学生へのきめ細かい指導（学部長面談、クラス担任、チューター制等）
- ⑤ 学問分野の壁を越えた学生及び教員の人的交流

【改善を要する点】

理学科一学科制としての教育目的・目標、入学者選抜方針、教育方針及び学位授与方針は、想定される関係者の期待に応えているものと判断する。一方、理学士の質保証に関わる評価方針については、教員内の共通認識の構築や学生への周知等改善の余地がある。また、一学科発足当時と比べ国際情勢は大きく変化しつつあり、グローバルな視野を持つ人材の養成が大学に求められている。社会的要請に柔軟に応え得る人材を育成する教育システムとして理学科一学科制は最適なものであるが、更なる改善のために検討すべき点は以下の 4 点に集約される。

- 卒業生への理学士としての質保証
- 高等学校における学習指導要領改訂に則した学部教育内容の見直し
- 学部教員組織の変遷に対応した教育内容の高度化
- 学修意欲をより向上させる教育制度等の検討

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育の実施体制

(観点に係る状況)

一括入試と自由なコース選択が可能な一学科制への改組以来、教育理念・目標を達成し、理科と数学の基本的な領域を網羅する教員配置を意識した人事を行ってきた。現在、学部教育を担当する構成員の数、分野は資料 A-I-1-1-1 の通りである。前回の組織評価では教育の実施体制について「期待される水準にある」と判断されたが、その後教員数は約 10% 減少した(資料 A-I-1-1-2)。なお、大学設置基準は満たしており(資料 A-I-1-1-3)教育実施体制を維持している。さらに、学内センター等所属教員も兼任として学部教育を担っており、多様な人材の確保に努めている(資料 A-I-1-1-4)。また、実験等を伴う授業には大学院生を TA として採用し、きめ細かな指導を行っている(資料 A-I-1-1-5)。

全学教養教育においても、改革の目玉である教養科目のスリム化および高度化(平成 23 年度)、「肥後熊本学」の導入(平成 29 年度)において、本学部専任教員は大きな役割を果たしており、多くの開講数および高い比率を維持している(資料 A-I-1-1-6)。本学が担うべき教養及び専門教育に占める理学教育の重要性に鑑み、将来にわたって安定した教育を保証する陣容を維持する必要がある。

入学試験はアドミッションポリシー(資料 A-I-1-1-7)に沿って実施してきたが、実績を検討し平成 26 年度入試から推薦入試を廃止した。また、英語教育の重要性を考慮し、平成 27 年度入試より個別試験前期日程に英語を加え、全科目の配点を見直した(資料 A-I-1-1-8)。

加えて、平成 29 年度にはさらなるグローバル化に対応した教育を行うためグローバルリーダーコース(GLC)を設置した(資料 A-I-1-1-9)。GLC のアドミッションポリシーは国際化を指向したものであり(資料 A-I-1-1-10)、英語面接を含む A0 入試によって選抜している。入学した学生は、グローバル学修プログラムを含むカリキュラムに沿って学修を進める(資料 A-I-1-1-11)。

学部長室の指示のもと、FD 委員会等を中心に種々の取り組みを継続している。授業参観は独自の取り組みであり、参加者の意見を担当教員に伝えるだけでなく、終了後の意見交換会を通して教育能力の向上に努めている(資料 A-I-1-1-12)。また、FD 講演会では LMS (Learning Management System) の利用促進などを図っている(資料 A-I-1-1-13)。さらに、授業改善アンケートへのコメント入力等の取組を行っている(資料 A-I-1-1-14)。

理学科発足時は卒業研究である「特別演習」を選択科目としていたが、質保証の観点から平成 22 年度規則より「卒業研究」として必修化と履修要件の設定を行った。さらに、4 年生進級と卒業研究着手要件を一致させるため、平成 26 年度規則より 4 年次進級要件を設定し、進級判定を行っている(資料 A-I-1-1-15,16)。各コースの卒業研究履修要件は継続的に見直し及び改正が行われており(資料 A-I-1-1-17,18)、卒業研究の質の維持向上に貢献している。卒業研究については英文要旨の提出を義務付けており、英語運用能力の向上を図っている。また、FD 委員会によるシラバスチェックを継続し、修正を求める取り組みを行っている(資料 A-I-1-1-19)。学部専門教育科目は分野が多岐にわたると共に少人数クラスも多く、厳格な成績評価との関連付けについては検討課題として残っている。

(中期計画番号 1~21)

資料 A-I-1-1-1 理学部の収容定員及び教員数（平成 29 年 5 月 1 日現在）

講座	収容定員	教授	准教授	講師	助教	計
数理科学	770	6	6	0	0	12
物理科学		6	3	0	0	9
化学		5	5	0	5	15
地球環境科学		5	6	0	2	13
生命科学		8	7	0	3	18
計	770	30	27	0	10	67

※収容定員：グローバルリーダーコース 10 名を含む

[出典：収容定員－共通データ、教員数－人事データ]

資料 A-I-1-1-2

理学部の収容定員及び教員数の平成 26 年 5 月 1 日からの増減数(平成 29 年 5 月 1 日現在)

講座	収容定員	教授	准教授	講師	助教	計
数理科学	10	-1	0	-1	0	-2
物理科学		0	0	0	0	0
化学		-3	0	0	2	-1
地球環境科学		-2	0	0	0	-2
生命科学		1	0	-1	0	0
計	10	-5	0	-2	2	-5

[出典：収容定員－共通データ、教員数－人事データ、平成 26 年 5 月 1 日現在のデータは、平成 26 年の組織評価自己評価書のデータ]

資料 A-I-1-1-3

大学設置基準上の専任教員数と現員教員数（平成 29 年 5 月 1 日現在）

学部・学科	収容定員	専任教員数 (大学設置基準)	専任教員数（現員）	
			教員	うち教授
理学部・理学科	770	17	77	33

[出典：熊本大学データ集 2017]

資料 A-I-1-1-4 他部局所属の教員数（平成 29 年 5 月 1 日現在）

部局	教授	准教授	講師	助教	計
くまもと水循環・減災研究教育センター	3	2			5
パルスパワー科学研究所	1	1			2
大学院先導機構		2		1	3
計	4	5	0	1	10

[出典：理学系教員等名簿]

資料 A-I-1-1-5 TA の採用人数と時間数の推移（平成 26～29 年度）

年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
採用人数（人）	163	163	153	151
総時間数（時間）	5,603	5,544	5,480	5,417

[出典：総務人事担当（理学系）TA 雇用データ]

資料 A-I-1-1-6 平成 29 年度における専任教員の教養教育の担当講義数

分野	肥後熊本学	教養科目 (自然科学)	理系基礎科目		計
			講義科目	実験科目	
数学	2	1	24		104
物理学		12	5	4	
化学		11	2	4	
地球環境		12	4	4	
生物学		11	4	4	
計	2	47	39	16	104
全学開講数	12	61	79	16	168
割合	16.7	77.0	49.4	100.0	61.9

[出典：教務委員会調査]

資料 A-I-1-1-7 理学部アドミッションポリシー

理学部が求める人材像

理学部では数学と理科の各分野について幅広い興味と理解を有し、自然科学の諸課題に対し意欲的にチャレンジでき、多角的な視点から忍耐強く真理の探究ができる次のような人を求めています。

1. 物事の本質を見極めたいという強い意志を持った人
2. 論理的思考ができる人
3. 豊かな感性と洞察力を有する人
4. 野外調査や長時間に及ぶ実験等に対し、忍耐強く取り組める人
5. 広い視野をもち、応用力、実践力のある人
6. わが国の理学研究の発展に貢献したいという意志をもった人
7. 複数の学問にまたがる学問領域にも失敗を恐れず果敢に挑戦できる人
8. 国際的に活躍する意欲のある人

理学部への入学に際して求められる学力

数学

数学I、数学II、数学III、数学A、数学B（「数列」および「ベクトル」）について、個々の項目の内容をよく理解し、知識と技能を十分身につけておくこと。項目間のつながりを意識し、数学的思考方法を習得しておくこと。また、数学のみならず理科においても、数学的に考察して処理する能力を身につけておくこと。

理科

物理、化学、地学、生物から2科目以上を習得しておくこと。

事物や自然現象についての観察や実験などを行い、自然や科学に対する関心を高め、探究する能力と態度を身につけておくこと。基本的な概念や原理・法則を理解して、科学的な自然観を養っておくこと。

[出典：熊本大学ホームページ]

https://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi/admission_policy#rigakubu

資料 A-I-1-1-8 入試制度の変遷

年度	変更点	変更前	変更後	備考
H26	推薦入試		廃止	定員15名
	前期日程定員	140名	150名	
	後期日程定員	35名	40名	
H27	前期日程 個別学力検査教科	数学, 理科	数学, 理科, 外国語	個別試験に英語を課すこととしたことに伴い, 配点を見直した。
	前期日程 大学入試センター試験配点	国語100, 社会50, 数学100, 理科100, 外国語200	国語100, 社会50, 数学100, 理科100, 外国語100	
	前期日程 個別学力検査配点	数学300, 理科300	数学200, 理科200, 外国語100	
H29	AO入試			グローバルリーダーコース設置
	総募集人員	190名	200名	AO入試定員 10名増

[出典：入学者選抜要項]

資料 A-I-1-1-9 グローバルリーダーコース概要

グローバルリーダーコース(GLC)とは

A global perspective and an open mind brings out possibilities to higher goals.

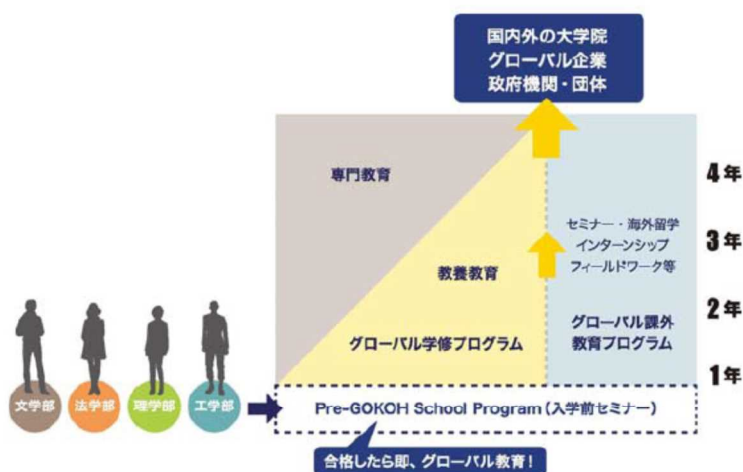


グローバルリーダーコース (GLC)とは？

多様な価値観を受け入れられる豊かな教養と国際感覚、確かな専門性と柔軟性のある創造的な思考力を身に付け、国内外における地域の課題をグローバルな視点で考え、果敢に行動できる人＝グローバルリーダーを育てるコースです。

入学後2年間はグローバルリーダーに必要な能力および専門基礎力を身に付けます。3年次進級時に希望する学科またはコースを選び、高度な専門科目を履修します。さらに、海外留学、インターンシップ等を通して、グローバルに活躍できる資質能力を身に付けます。また、メンター教員がつき、学習や進路についてアドバイスします。

グローバルリーダーコースの教育システム



PICK UP



大学教育統括管理運営機構
HEADQUARTERS FOR ADMISSIONS AND EDUCATION

グローバル教育カレッジ
COLLEGE OF CROSS-CULTURAL AND
MULTIDISCIPLINARY STUDIES



Kumamoto University
熊本大学 シラバス

スーパーグローバル大学
創成支援事業
TOP GLOBAL UNIVERSITY PROJECT



熊本大学 グローバルリーダーコース

〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-40-1
Kumamoto University, 2-40-1 Kurokami Chuo-ku, Kumamoto City 860-8555 JAPAN



地域と世界をつなぐ
グローバル大学へ



TOP

[出典：グローバルリーダーコース web ページ
<http://hqac.kumamoto-u.ac.jp/GLC/about/about.html>]

資料 A-I-1-1-10 グローバルリーダーコースアドミッションポリシー

(2) グローバルリーダーコース（文学部，法学部，理学部，工学部）のアドミッション・ポリシー

求める学生像

グローバルリーダーコースでは、広く世界に目を向け、自ら主体的に学び、本質を見極める力を育ててきた人を受け入れ、多様な価値観、文化の違いを理解できる豊かな教養と国際感覚・国際対話力を有するとともに、地域に根ざし、グローバルな環境で活躍する意欲と資質をもつ人を育てます。そのために

1. 国際化に対応する幅広い教養を身につけたい人
2. 国際交流及び国際的なビジネスに携わることに意欲のある人
3. 国際化社会を牽引する強い胆力（精神力）を身につけたい人
4. 高度な専門性を国際社会で展開させたい人
5. 地域に根ざし、グローバルに活躍する意欲と資質をもつ人を積極的に受け入れます。

理学部

I 理学部が目指すもの

理学部は次のような人材の育成を目指しています。

1. 自然科学に関して広くバランスのとれた知識や思考法および実験・観察の技能を身につけた有能な人材
2. 国際社会における新しいさまざまな課題に積極的に立ち向かうことのできる人材
3. 理学のスペシャリストをめざし、学修意欲の高い人材

II 理学部が求める人物像

グローバルリーダーコースの求める学生像に加えて、理学部では数学と理科の各分野について幅広い興味と理解を有し、自然科学の諸課題に対し意欲的にチャレンジでき、多角的な視点から忍耐強く真理の探究ができる次のような人を求めています。

1. 物事の本質を見極めたいという強い意志を持った人
2. 論理的思考ができる人
3. 豊かな感性と洞察力を有する人
4. 野外調査や長時間に及ぶ実験等に対し、忍耐強く取り組める人
5. 広い視野をもち、応用力、実践力のある人
6. わが国の理学研究の発展に貢献したいという意志をもった人
7. 複数の学問にまたがる学問領域にも失敗を恐れず果敢に挑戦できる人

III 理学部への入学に際して求められる資質

理学部では、論理展開力、総合的な課題解決能力、表現力、英語の基本的運用力に加えて、基本的な概念や原理・法則を理解して、科学的な自然観を養っておくことを求めます。数学では個々の単元の内容をよく理解し、知識と技能を十分身につけておくこと、および、単元間のつながりを意識し数学的思考方法を習得しておくことを希望します。理科では事物や自然現象についての観察や実験などを行い、自然や科学に対する関心を高め、探究する能力と態度を身につけておくことを希望します。（※）

※

数学

数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学Ⅲ，数学A，数学B（「数列」および「ベクトル」）を習得しておくこと。

理科

物理，化学，生物，地学から2科目以上を習得しておくこと。

[出典：平成30年度入学者選抜要項]

カリキュラム

Curriculum and Program



グローバルリーダーコースでは、旧制第五高等学校の剛毅木訥（ごうきぼくとつ）の精神を受け継ぎ、グローバルリーダーを育成するためのプログラムを「GOKOH School Program」と名付けました。

GOKOH School Program

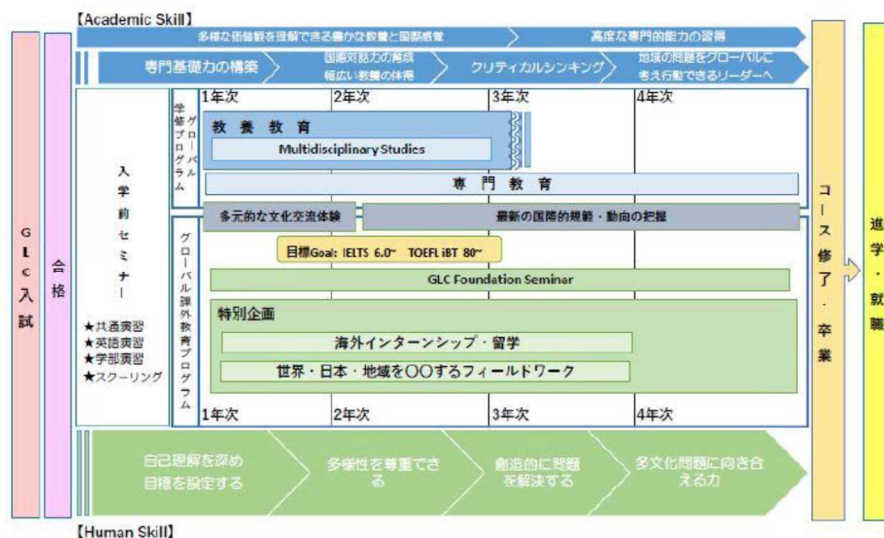
旧制五高の伝統と精神を受け継ぎ、未来へつなぐ

- グローバルな視点 **G**lobal perspective
- 開かれた心 **O**pen-mindedness
- 知識構築は **K**nowledge building for
- 最大限の可能性を引き出し **O**ptimal possibilities and
- より高い目標へと導く **H**igher goals

GOKOH School Program

「GOKOH School Program」は、大きく分けて、「グローバル学修プログラム」と「グローバル課外教育プログラム」の2つの区分からなります。

★GOKOH School Program Image



PICK UP



熊本大学
Kumamoto University

大学教育統括管理運営機構
HEADQUARTERS FOR ADMISSIONS AND EDUCATION

グローバル教育カレッジ
COLLEGE OF CROSS-CULTURAL AND
MULTIDISCIPLINARY STUDIES



Kumamoto University
熊本大学統合認証システム



熊本大学 シラバス

スーパーグローバル大学
創成支援事業
TOP GLOBAL UNIVERSITY PROJECT



[出典：グローバルリーダーコース web ページ
hqac.kumamoto-u.ac.jp/GLC/curriculum/curriculum.html]

資料 A-I-1-1-12 平成 29 年度授業参観案内

ご案内 理学部「授業参観」について

%
% 理学部「授業参観」のご案内
% 017.6.22 理学部FD委員会
%

理学系教員のみなさま

日ごろより、FD活動にご協力頂きましてありがとうございます。
「授業参観」のお知らせです。

ご都合つきます先生には
できる限り参加して下さいますようお願い申し上げます。

今回の「授業参観」の詳細は以下のとおりです。

% 第一回理学部授業参観

数学（学部）

日時：7月5日、水曜日、5限（16:10より）
科目：解析幾何（2年第2ターム）安藤直也 先生
C329（3階中講義室）

%

ご参加予定の先生は、前もって

7月3日（月）までに

宛にご返信お願いいたします。

授業参観当日、ご参観くださった先生には
簡単なアンケートにお答えご記入お願いいたします。
授業改善のための資料とさせていただきます。
当日用紙お配りいたします。

以上ご協力どうぞよろしくお願いいたします。

理学部FD委員長 三沢正史

%以上

[出典：FD 委員長からの案内メール]

資料 A-I-1-1-13 FD 講演会開催記録

年度	月日	演題	備考
H26	8月26日	「クリエイティブ・マインドセット～市場をつくる?」	自然科学研究科・工学部との共催
	9月12日	「コーチング導入の試み～社会環境工学科の取り組み～」	
H27	10月9日	「画像不正と疑われないための画像処理」	自然科学研究科・工学部との共催
H28	3月9日	「日々の授業でMoodleを活用する」	自然科学研究科・工学部との共催
H29	3月27日	「日々の授業でMoodleを活用する」	自然科学研究科・工学部との共催

[出典：FD委員会活動報告より作成]

資料 A-I-1-1-14 授業アンケート実施率及びコメント入力率

年度	学期	実施科目数	コメント入力率	全学平均	
2014	前期	54	39	72.2%	65.1%
	後期	49	43	87.8%	66.2%
2015	前期	54	39	72.2%	66.8%
	後期	57	47	82.5%	64.3%
2016	前期	45	28	62.2%	63.0%
	後期	52	42	80.8%	61.3%
2017	前期	58	33	56.9%	62.0%
	後期	61	37	60.7%	35.0%

[出典：「授業改善のためのアンケート」報告書]

資料 A-I-1-1-15 卒業要件単位表（平成 26～29 年度）

・平成 26～28 年度入学者用

区 分		卒業に必要な単位数		
教 養 教 育	共通基礎科目	導入科目（基礎セミナーに限る。）	1	
		情報科目	3	
		理系基礎科目	（数学 8）	24
			（理科 14）	
	（基盤実験 2）			
	必修外国語科目	8		
	教養科目	11		
	社会連携科目			
	自由選択外国語科目			
	開放科目			
計	47			
専 門 教 育	理学共通科目		20	
	理学専門科目		42 (卒業研究の10単位を必ず 修得しなければならない。)	
	理学部の専門教育の全授業科目		4	
	計		66	
本学の全授業科目		11		
合計		124		

[出典：平成 26 年度理学部学生便覧]

資料 A-I-1-1-15 卒業要件単位表（平成 26～29 年度）（続き）

・平成 29 年度入学者用

区分	科目	学系	領域	分野	授業科目	卒業に必要な単位数	
						GLC 以外	GLC
教 養 教	Multidisciplinary Studies				Area Studies (a)	— (*1)	2
					Global Career Development (a)		
					上記 2 科目以外の科目	11	3
	現代教養科目						
	リベラルアーツ科目	— (*2)					
	キャリア科目						
	開放科目	6					
	基礎科目		体育・スポーツ科学科目			6	6
		外国語科目	自由選択外国語科目				
	必修外国語科目		英語	英語 A-1、A-2		2	2
英語 B-1、B-2							
英語 D-1、D-2							
情報科目	情報基礎科目	ドイツ語			2	2	
		フランス語					
情報科目	情報基礎科目			3	3		
	情報処理概論						
育	肥後熊本学				1	1	
	理系基礎科目	数学			8	8	
		理科			14	14	
		基礎実験			2	2	
計					47 (*3)	47	
専 門 教 育	理学共通科目		理学概論			20	1 19
			理学概論以外の科目				
	理学専門科目		卒業研究			10	10
			Global Seminar I、II			— (*1)	4
			卒業研究及び Global Seminar I、II 以外の科目			32	28 (*4)
	理学部の専門教育の全授業科目					4 (*5)	4 (*4)
計					66	66	
本学の全授業科目					11 (*5)	11 (*4)	
合 計					124	124	

[出典：平成 29 年度理学部学生便覧]

資料 A-I-1-1-16 卒業研究着手判定資料

平成30年3月 4年次進級判定

熊本大学 理学部

学 科 名		進級判定 対象者 (人) (休・停学者内数)	進級を認定 された者 (人) (休・停学者内数)	進級を認定 されなかった者 (人) (休・停学者内数)
コ ー ス 別 内 訳	数学	34	30	4
	物理	45	36	9
	化学	43 (1)	42	1 (1)
	地球	18 (1)	16 (1)	2
	生物	57	56	1
理学科 (合計)		197	180	17

[出典：理学部教務担当資料]

資料 A-I-1-1-17 質保証のための改善の経緯

年度	概要
H26	4年次進級要件の設定
H27	生物学コース実験科目再編, 4年次進級要件変更
H28	理学概論を卒業要件単位に算入
	地球環境科学コース講義, 実験科目再編
H29	グローバルリーダーコース設置及び教養教育改革に対応

[出典：学生便覧]

資料 A-I-1-1-18 4年次進級要件

平成 26～28 年度

区 分		数 学 コ ー ス	物 理 学 コ ー ス	化 学 コ ー ス	地 球 環 境 科 学 コ ー ス	生 物 学 コ ー ス
教 養 教 育	基 礎 科 目 共 通 科 目	21 (基礎セミナー、情報科目及び必修外国語のうちから10単位以上を含む。)				
	導 入 科 目 (基礎セミナーに限る。)					
	情 報 科 目					
	必 修 外 国 語 科 目					
	教 養 科 目					
	社 会 連 携 科 目					
	自 由 選 択 外 国 語 科 目					
教 育	開 放 科 目					
	(理系基礎科目) 共 通 基 礎 科 目	数 学	8(*1)	8	8	8
		理 科	12	12	14	12
専 門 教 育		基 盤 実 験	2	2	2	2
	理 学 共 通 科 目	12(*2)	15(*4)	(*5)	20	10
理 学 専 門 科 目	18(*3)	14(*6)			12(*7)	

備考

- 第3年次終了までに第18条に規定する別表第4の卒業要件単位のうち100単位以上を修得し、かつ、上記に示す当該コースの要件を満たしていなければならない。
- (*1)～(*7)については次のとおりである。

(*1) 次の科目を修得しておくこと。

区 分	科 目	必要単位数
理系基礎科目	「線形代数Ⅰ」「線形代数Ⅱ」 「微分積分Ⅰ」「微分積分Ⅱ」	8単位

(*2) 12単位のうち、次の科目から8単位以上を修得しておくこと。

区 分	科 目	必要単位数
理学共通科目	「解析幾何」「微分方程式」 「複素関数」「実数と論理」 「線形数学」	8単位以上

(*3) 次の科目のうちから、18単位以上を修得しておくこと。

区 分	科 目	必要単位数
理学専門科目	「代数概論Ⅰ」「代数概論Ⅰ演習」 「代数概論Ⅱ」「代数概論Ⅱ演習」 「幾何概論Ⅰ」「幾何概論Ⅰ演習」 「幾何概論Ⅱ」「幾何概論Ⅱ演習」 「解析概論Ⅰ」「解析概論Ⅰ演習」 「解析概論Ⅱ」「解析概論Ⅱ演習」 「解析概論Ⅲ」「複素解析」	18単位以上

資料 A-I-1-1-18 4年次進級要件（続き）

(*4) 次の科目のうちから、15単位以上を修得しておくこと。

区 分	科 目	必要単位数
理学共通科目	「基礎力学」「基礎量子力学」 「基礎電磁気学」「基礎物理数学」 「力学」「物理学共通実験」	15単位以上
理学専門科目	「電磁気学」「量子力学Ⅰ」 「熱力学」「統計力学」「物理数学」 「物理実験A」「物理実験B」	

(*5) 次の要件をいずれも満たすこと。

1) 理学共通科目について卒業要件を満たす20単位以上（次の各分野の指定する理学共通科目の単位数を含むことができる。）を修得しておくこと。

2) 次の各分野の指定する科目のうちから、それぞれ7単位以上を修得しておくこと。

分 野	区 分	科 目	必要単位数
分析化学分野	理学共通科目	「基礎分析化学」「分析化学Ⅰ」	7単位以上
	理学専門科目	「分析化学Ⅱ」「分析化学Ⅲ」 「化学実験A」	
無機化学分野	理学共通科目	「基礎無機化学」「無機化学Ⅰ」	7単位以上
	理学専門科目	「無機化学Ⅱ」「無機化学Ⅲ」 「化学実験B」	
有機化学分野	理学共通科目	「基礎有機化学」	7単位以上
	理学専門科目	「有機化学Ⅰ」「有機化学Ⅱ」 「有機化学Ⅲ」「化学実験C」	
物理化学分野	理学共通科目	「基礎物理化学」「物理化学Ⅰ」	7単位以上
	理学専門科目	「物理化学Ⅱ」「物理化学Ⅲ」 「化学実験D」	

(*6) 次の科目のうちから、14単位以上を修得しておくこと。

区 分	科 目	必要単位数
理学専門科目	別表第1に規定する地球環境科学の科目及び 「熱力学」「統計力学」「コンピュータ物理学」 「多様性進化学」「系統分類学」「自然誌科学」 「保全生物学」「基礎講読Ⅰ、Ⅱ」	14単位以上

(*7) 次の科目を修得しておくこと。

区 分	科 目	必要単位数
理学専門科目	「生物学実験A」「生物学実験B」 「生物学実験C」「生物学実験D」	12単位

平成26年度規則においては、(*7)は次の通り。

(*7) 次の要件をいずれも満たすこと。

1) 「生物環境基礎実験」及び「生物環境実験」を修得しておくこと。

2) 「細胞生物学実験A」及び「細胞生物学実験B」又は「生物多様性学実験A」及び「生物多様性学実験B」を修得しておくこと。

[出典：平成26、28年度学生便覧]

資料 A-I-1-1-18 4年次進級要件 (続き)

・平成 29 年度

区 分	数学コース	物理学コース	化学コース	地球環境科学	生物学コース	GLC					
						数学コース	プロログラム学	プロログラム学	地球環境科学	プロログラム学	
教 養 基 礎 教 育 目 的	Multidisciplinary Studies	21 (肥後熊本学、情報科目及び必修外国語のうちから10単位以上を含む) (Multidisciplinary StudiesのArea Studies (a) 及びGlobal Career Development (a) は履修することが出来ない)				21 (肥後熊本学、情報科目及び必修外国語のうちから10単位以上並びにMultidisciplinary StudiesのArea Studies (a) 及びGlobal Career Development (a) 各1単位を含む)					
	現代教養科目										
	リベラルアーツ科目										
	キャリア科目										
	開放科目										
	体育・スポーツ科学科目										
	外国語科目										
	必修外国語科目										
	自由選択外国語科目										
	情報科目										
肥後熊本学											
理系基礎科目	数 学	8 (*1)	8	8	8	8 (*1)	8	8	8	8	
	理 科	12	12	14	12	12	12	14	12	12	
	基 盤 実 験	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
専門教育	理学共通科目	12 (*2)	15 (*4)	(*5)	20	10	12 (*2)	15 (*4)	(*5)	20	10
	理学専門科目	18 (*3)			14 (*6)	12 (*7)	18 (*3)			14 (*6)	12 (*7)

備考

1. 第3年次終了までに第18条に規定する別表第4の卒業要件単位のうち100単位以上を修得し、かつ、上記に示す当該コースの要件を満たしていなければならない。

2. (*1)~(*7) については次のとおりである。

(*1) 次の授業科目の単位を修得しておくこと。

区 分	授 業 科 目	必要単位数
理系基礎科目	「線形代数Ⅰ」「線形代数Ⅱ」 「微分積分Ⅰ」「微分積分Ⅱ」	8単位

(*2) 12単位のうち、次の授業科目から8単位以上を修得しておくこと。

区 分	授 業 科 目	必要単位数
理学共通科目	「解析幾何」「微分方程式」 「複素関数」「実数と論理」 「線形数学」	8単位以上

(*3) 次の授業科目のうちから、18単位以上を修得しておくこと。

区 分	授 業 科 目	必要単位数
理学専門科目	「代数概論Ⅰ」「代数概論Ⅰ演習」 「代数概論Ⅱ」「代数概論Ⅱ演習」 「幾何概論Ⅰ」「幾何概論Ⅰ演習」 「幾何概論Ⅱ」「幾何概論Ⅱ演習」 「解析概論Ⅰ」「解析概論Ⅰ演習」 「解析概論Ⅱ」「解析概論Ⅱ演習」 「解析概論Ⅲ」「複素解析」	18単位以上

資料 A-I-1-1-18 4年次進級要件（続き）

(*4) 次の授業科目のうちから、15単位以上を修得しておくこと。

区 分	授 業 科 目	必要単位数
理学共通科目	「基礎力学」「基礎量子力学」 「基礎電磁気学」「基礎物理数学」 「力学」「物理学共通実験」	15単位以上
理学専門科目	「電磁気学」「量子力学Ⅰ」 「熱力学」「統計力学」「物理数学」 「物理実験A」「物理実験B」	

(*5) 次の要件をいずれも満たすこと。

1) 理学共通科目について卒業要件を満たす20単位以上（次の各分野の指定する理学共通科目の単位数を含むことができる。）を修得しておくこと。

2) 次の各分野の指定する授業科目のうちから、それぞれ7単位以上を修得しておくこと。

分 野	区 分	授 業 科 目	必要単位数
分析化学分野	理学共通科目	「基礎分析化学」「分析化学Ⅰ」	7単位以上
	理学専門科目	「分析化学Ⅱ」「分析化学Ⅲ」 「化学実験A」	
無機化学分野	理学共通科目	「基礎無機化学」「無機化学Ⅰ」	7単位以上
	理学専門科目	「無機化学Ⅱ」「無機化学Ⅲ」 「化学実験B」	
有機化学分野	理学共通科目	「基礎有機化学」	7単位以上
	理学専門科目	「有機化学Ⅰ」「有機化学Ⅱ」 「有機化学Ⅲ」「化学実験C」	
物理化学分野	理学共通科目	「基礎物理化学」「物理化学Ⅰ」	7単位以上
	理学専門科目	「物理化学Ⅱ」「物理化学Ⅲ」 「化学実験D」	

(*6) 次の授業科目のうちから、14単位以上を修得しておくこと。

区 分	授 業 科 目	必要単位数
理学専門科目	別表第1に規定する地球環境科学の科目及び 「熱力学」「統計力学」「コンピュータ物理学」 「多様性進化学」「系統分類学」「自然誌科学」 「保全生物学」「基礎講読Ⅰ、Ⅱ」	14単位以上

(*7) 次の授業科目を修得しておくこと。

区 分	授 業 科 目	必要単位数
理学専門科目	「生物学実験A」「生物学実験B」 「生物学実験C」「生物学実験D」	12単位

[出典：平成29年度学生便覧]

平成 29 年度シラバスチェック実施報告書 (理学部)

平成 29 年 8 月 1 日付けメールにて全学ファカルティ・ディベロップメント委員会よりシラバスチェックの実施依頼を受けて、平成 30 年 3 月 1 日に理学部各コース FD 委員に各コースの科目のシラバスチェックの実施を依頼した。今年度は委員長が失念しており各コース FD 委員および教務係り担当への作業依頼が遅くなってしまったが、各コース FD 委員および教務担当の協力によりデータを集めることができた。

一作年度に決まったシラバスチェックの対象項目「授業の目的」、「到達目標」、「各回の授業内容と事前・事後学習」について、シラバスの内容が文章として、学生および興味関心のある一般の人にとってわかり易く書かれているかについてチェックを行った。各コースでの授業科目担当のバランスの事情から授業の担当教員は適当な頻度で変わることもあることから、毎年全授業科目のチェックを行うのは、適切ではないと考えた。おおむね最低 5 年毎に各授業科目のチェックが行なわれるように、毎年度、全授業科目 195 のうち、実験、演習、セミナー、卒業研究を除いた授業科目のおおむね 1/5 の科目をシラバスチェックの対象としている。なお、チェック対象科目の選択の方法については毎年度、検討調整している。

具体的な実施方法は以下のとおりである。

- 1) チェック科目の選択： 分野を分散して選択するために、科目一覧表から、5 個ごとに講義を選んだ。原則、実験、演習、セミナー、卒業研究を除いた授業科目のうち、24 科目を選択し評価した。
- 2) シラバスの評価法： 「授業の目的」「到達目標」「各回の授業内容と事前・事後学習」の 3 項目について、「学生が見て分かりやすいか」、「当該科目に興味関心を持つ一般の人がみてもわかるか」の観点から、合致している・ある程度合致している・あまり合致していない、の 3 段階で評価した。
- 3) 個々のシラバスの評価者： シラバスのチェックは、各コースのファカルティ・ディベロップメント委員が担当した。

表 1 授業数とその割合(%), 括弧内は上段 2016, 下段 2015 年度データ

	合致している	ある程度合致している	あまり合致していない
授業の目的	20 科目, 83% (29 科目, 88%) (35 科目, 90%)	0 科目, 0% (4 科目, 12%) (4 科目, 10%)	4 科目, 17% (0 科目, 0%) (0 科目, 0%)
到達目標	17 科目, 71% (28 科目, 85%) (35 科目, 90%)	3 科目, 12% (5 科目, 15%) (4 科目, 10%)	4 科目, 17% (0 科目, 0%) (0 科目, 0%)
各回の授業内容 と事前・事後学習	12 科目, 50% (29 科目, 88%) (30 科目, 77%)	8 科目, 33% (4 科目, 12%) (9 科目, 23%)	4 科目, 17% (0 科目, 0%) (0 科目, 0%)

資料 A-I-1-1-19 理学部シラバスチェック実施報告（続き）

今年度については、「授業の目的」、「到達目標」についてはおおむね十分な情報がわかり易く記載されていた。「各回の授業内容と事前・事後学習」については今年度数値が悪くなっている。昨年度の改善傾向が悪くなっている。集計データを確認したところ「あまり合致していない」の数値は未記入の科目であった。今回、作業依頼が遅くなったため、各コースでの対象科目の調整が十分に行えなかったことが主な原因と思われる。記入された科目については、授業の目的、到達目標は昨年度と同様に高い割合で合致していると理解してよいだろう。各回の授業内容と事前事後学習については、未記入科目を差し引いても昨年度と比べて数値が悪くなっている。とくに事前・事後学習についての内容が十分でない科目が少なからず見受けられた。とくに集中講義についてこの傾向が見られた。おそらく担当教員が非常勤講師の代理でシラバス入力する時点で事前・事後学習内容を明確にできなかったためと思われる。幹事教員と密接に連絡をとり記入するようにしたい。また通常の若干の科目についても、具体的な指示がなく多少わかりにくいものもあった。シラバス記入の方針を担当教員に再度、周知したい。一方で授業はライブであり、理学部の授業内容は、授業内容を演習、実験とともに自ら学修して理解することがとくに要求される。学生の理解の進捗状況によっては毎回の授業計画の多少の変更はやむを得ない。事前・事後学習の内容については柔軟な対応記入で十分ではと思われる。今年度は委員長の失念によって作業依頼が遅くなってしまった。来年度は前もってシラバス対象科目を各コースおよび学部全体で確認調整してシラバスチェックを確実に実施したい。各担当教員においては、シラバス記入に際して、授業内容および計画の点検見直しを行うことによって、学生にとってより良い授業を実施するように心がけたい。

[出典：理学部 FD 委員会シラバスチェック実施報告書]

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

学生の意欲を向上させ、学修成果を上げて卒業生の質を保証するには教育制度等の不断の検討・改善が必要である。上述のように理学部における取組はおおむね所期の成果を上げていると考えられる。その中で、教員個々の負担増を伴う努力、授業方法の改善及びカリキュラムの見直し等により、本学部教員が担うべき理科や数学分野の専門及び教養教育の質を保証する実施体制は維持されている。現状において期待される水準を上回ると判断するが、将来に渡って高い水準を維持するためには、引き続き不断の努力が必要である。

観点 教育内容・教育方法

(観点に係る状況)

本学部は教育プログラム制の実施にあたり、各分野の基盤を維持しつつ、一学科の基本理念や教育目標・目的を実現するため独自のカリキュラムを構築した。カリキュラムポリシー(資料 A-I-1-2-1)は学生便覧等で示しており、年次進行に伴う科目群の目的も明示している(資料 A-I-1-2-2)。

学事暦は、平成 28 年度より導入された教養教育の 4 ターム制学事暦に準拠して設定している(資料 A-I-1-2-3)。平成 28 年度は熊本地震のため約 3 週間の休講を余儀なくされたが、8、9 月に授業日を設けることで授業日数を確保した(資料 A-I-1-2-4)。時間割は、2 年次の理学共通科目についてコース選択に向けて重複を極力避けるよう編成している(資料 A-I-1-2-5)。

平成 27 年度以降の入学生に対しては、高等学校の新学習指導要領実施に則して教育内容の見直しを行い、理科の既習/未習及び数学の習熟度別クラス分けを行っている(資料 A-I-1-2-6)。また、毎年各分野で非常勤講師を招いて集中講義を開講し(資料 A-I-1-2-7)最新の研究成果等を知る機会を提供している。

新入生全員の合宿研修を 2 年生が主体となって企画・運営し(資料 A-I-1-2-8)協調しつつ主体的に行動することを促している。学生主体行事である七夕祭も 1、2 年生を中心に企画・運営している(資料 A-I-1-2-9)。キャリア教育では、理学概論(企業からの講師による多様な職業観についての講義)の開講(資料 A-I-1-2-10)、理学部 web ページへの就職情報の掲載、就職ガイダンス等の開催、全学 web ページを通じた支援等を行っている(資料 A-I-1-2-11~13)。

1 年後期開始時にはコース説明会を開いて各コースの概要を説明するとともに「履修の手引き」を配付している。履修の手引きには 4 年間の履修の流れと各コースの教育目標や履修モデル、科目相関等(資料 A-I-1-2-14~19)を明示している。学生によりコース選択決定の時期は様々(資料 A-I-1-2-20)であるが、後の変更は少数であり(資料 A-I-1-2-21)教育プログラム制の意図が学生に周知されている。

1 年生にはクラス担任を置いて学生生活全般を支援している。さらに、1 年次 12 月には学生 3 名に対して教員 1 名を配置し、学生毎の興味や学修状況に応じた指導を行うチューター制を実施している(資料 A-I-1-2-22)。2 年次終了まで同じ教員が担当し、学修だけでなく生活面についてもクラス担任と連携して対応している(資料 A-I-1-2-23、24)。2 年次までの成績不振者に対しては、学期毎に学部長、学科長及び教務委員長が面談(学部長面談)を行っている(資料 A-I-1-2-25)。1、2 年次合わせて 30 名前後の学生に対して面談指導を行っており(資料 A-I-1-2-26)、3 年次進級判定があり、在学期限 6 年である理学部において、学部長面談は学生指導に大きな役割を果たしている。さらに、1、2 年次開講科目においては学期途中で欠席調査を行い(資料 A-I-1-2-27)、問題を持つ学生を早期に発見し、担任等が対応している。3、4 年次生については、各コースで卒業までの指導体制を構築している。また、自修室、図書室及び閲覧室を設け(資料 A-I-1-2-28、29)学生の主体的な学修環境を確保している。

高い学修意欲を持ち、成績優秀な学生については、1 年次 1 月にジュニアリサーチフェロー(JRF)を募集している(資料 A-I-1-2-30)。毎年 3 名程度の学生が採用され(資料 A-I-1-2-31)、2 年次から本人が希望した教員による研究指導を受けながら可能な範囲で上級学年配当科目の受講を認めている。これまで、JRF 生から交換留学生や海外大学大学院進学者を輩出しており、研究者養成につながる成果を上げている。また、国外での研究集会等に参加するための国際奨学金制度を設け、年間 4~5 名に渡航に必要な旅費を援助している(資料 A-I-1-2-32、33)。一方、留学生には担当教員及びチューター学生を配置し、学修及び学生生活を支援している(資料 A-I-1-2-34)。

入学時のガイダンスでは、学生便覧等に加え教務委員会作成資料（資料 A-I-1-2-35）を基に、きめ細かい指導を行っている。さらに、履修相談会（資料 A-I-1-2-36）を開催し、個別相談を行っている。2年次ガイダンスにおいても、資料（資料 A-I-1-2-37）を作成し、進級要件の確認や専門科目履修に関する注意事項を説明している。教員免許、学芸員資格取得希望者に対してはそれぞれガイダンスで指導している（資料 A-I-1-2-36）。その他、オフィスアワーの設定、学部長室直通の電子メールアドレスの設定など、多くの相談窓口を設けて支援体制を強化している。（資料 A-I-1-2-38）

（中期計画番号 1～21）

資料 A-I-1-2-1 理学部理学科のカリキュラムポリシー

カリキュラムポリシー

理学部理学科のディプロマ・ポリシーを踏まえて、次のような人材の育成を目指しています。

1. 自然科学に関して広くバランスのとれた知識や思考法および実験・観察の技能を身につけた有能な人材
2. 国際社会における新しいさまざまな課題に積極的に立ち向かうことのできる人材
3. 高い学修意欲を持って理学におけるスペシャリストをめざす人材

そのため、以下に挙げる体系的、段階性、個別化（進路への対応）をもとにカリキュラムを編成しています。

体系的：自然科学の特定分野への深い専門性のための各分野（コース）の学問体系、および、自然科学に対する幅広い知識と理解のための1・2年次（学士前期）に実施する共通カリキュラムを基盤に編成しています。

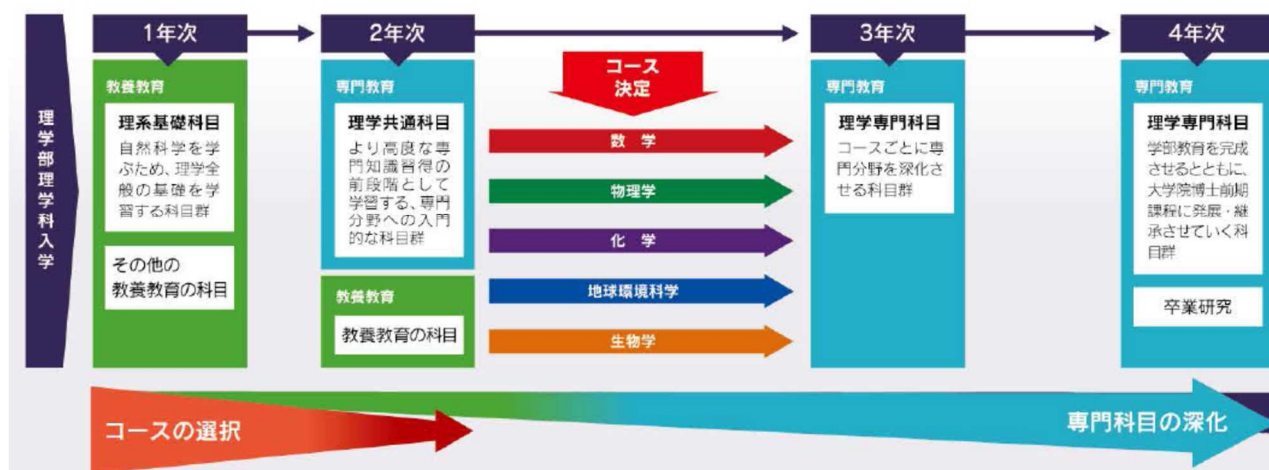
段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って発展的な科目を学修するよう編成しています。また、人間力、コミュニケーション能力、自己管理能力、倫理観を身につけることを目的とした、「教養科目」、「外国語科目」、「情報科目」などは1・2年次に履修し、3年次以降の各分野での専門教育の礎になるようにしています。

個別化（進路への対応）：学年に従い学修を深化させるように、授業科目を配置し、個々の履修コースの目的である将来の進路に即した科目履修を保証するよう編成しています。豊かな創造性や課題探求能力の涵養のため実験や実習、演習など能動的な授業を重視します。更に、国際性や表現力なども含め、人材育成の質保証のために卒業研究を必修としています。

[出典：平成 29 年度理学部学生便覧]

資料 A-I-1-2-2 一学科制における年次進行と科目群の目的

一学科制の教育の流れ



[出典：平成 29 年理学部案内]

資料 A-I-1-2-3 平成 29 年度理学部学事歴

平成29(2017)年度理学部カレンダー

()は各曜日の授業等回数 (試験含む、補講日・予備日を含まない)

■ 授業及び試験日
■ 授業日・6時限目補講日

■ 補講日・予備日

前学期授業開始 4月10日
 後学期授業開始 9月27日

黒髪地区オープンキャンパス 8月 日(上旬)

(2017)

4月 (16) (16) (16) (16) (16)

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

10月 (16) (16) (16) (16) (16)

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

5月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

11月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

6月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

12月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

7月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

(2018)
1月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

9月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

3月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

[出典：理学部教務担当資料]

資料 A-I-1-2-4 平成 28 年度理学部学事歴 (改定後)

平成28(2016)年度理学部カレンダー(熊本地震に伴う改定)

()は各曜日の授業等回数 (試験含む、補講日・予備日を含まない)

授業及び試験日
 授業日・6時限目補講日

補講日・予備日

前学期授業開始 4月8日
 後学期授業開始 9月28日

黒髪地区オープンキャンパス 8月6日(中止)

(2016)

4月 (16) (16) (16) (16) (16)

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

10月 (16) (16) (16) (16) (16)

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

5月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

11月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

6月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

12月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

7月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

(2017)

1月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

8月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

9月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

3月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

[出典：理学部教務担当資料]

資料 A-I-1-2-5 平成 29 年度 2 年次時間割

2017年度2年次前学期時間割

	月	火	水	木	金
1	生物多様性学	博物館展示論	日本国憲法	基礎無機化学	分子生物学
2	基礎物理化学	基礎分析化学	教育学概論I	細胞生物学	基礎力学
3	微分方程式/解析幾何	化学/地学共通実験	基礎量子力学		数学演習I
4		化学/地学共通実験	地球史	宇宙地球システム学	
5		化学/地学共通実験	微分方程式/解析幾何		

2017年度2年次後学期時間割

	月	火	水	木	金
1	基礎物理数学		力学	無機化学I	基礎有機化学
				博物館資料保存論	
2	物理化学I	分析化学I	教育学概論II	基礎地球物質科学	複素関数
	環境適応学	数学演習II		細胞生理学	発生工学I
3		物理学/生物学共通実験	基礎電磁気学		計算機科学
			細胞遺伝学		
4		物理学/生物学共通実験	実数と論理		理学概論
			基礎地球惑星科学		
5	複素関数/線形数学	物理学/生物学共通実験	基礎地質学	線形数学	基礎地球環境科学

[出典：理学部教務担当資料より作成]

資料 A-I-1-2-6 習熟度別クラス編成についてのガイダンス説明資料

3. 組構成

組担任, 理系基礎科目クラス分け及び時間割コード/教室 (全学教育棟)

	1組	2組	3組	4組	
組担任	北別府悠	高橋慶太郎	松田真生	武智克彰	
情報基礎 A	A0110/ 工・研究棟IV ICT 演習室 水1限		A0111/B401 水1限		
微分積分Ⅱ	第1, 2タームの月2限と木1限に授業を行う。本ガイダンスでクラスの希望調査を行う。クラス決定後は、指定された教室で授業を受けること: Aクラス希望者のうち1, 2組は C101, 3, 4組は E201. Bクラス希望者は C102. 詳細は別紙参照のこと.				
線形代数Ⅱ	第3,4タームの月2限と木1限に授業を行う。初回9月28日(木)1限はクラス分けを行う。各組の指定された教室で授業を受けること.				
地学Ⅰ	A0381/C201 月1限		A0382/E201 月1限		
化学Ⅰ	A0361/C301 火1限				
物理学Ⅰ	A未習	初回4月13日(木)2限はガイダンスを行う。場所はC301 クラス分けはその際発表する。			
	B既習				
生物学Ⅰ	A未習	初回4月14日(金)2限はガイダンスを行う。場所はE205 クラス分けはその際発表する。			
	B既習				
基盤 実験	第1ターム 4/10~5/22	A0351/ 物理	A0371/ 化学	A0421/ 生物	A0391/ 地学
	第2ターム 6/19~7/31	A0371/ 化学	A0422/ 生物	A0392/ 地学	A0352/ 物理
	第3ターム 10/2~11/20	A0423/ 生物	A0393/ 地学	A0353/ 物理	A0373/ 化学
	第4ターム 12/4~1/29	A0394/ 地学	A0354/ 物理	A0374/ 化学	A0424/ 生物

[出典: 理学部教務委員会資料 平成29年度1年生ガイダンスの手引きより抜粋]

資料 A-I-1-2-7 集中講義の実績

理学部専門科目集中講義数一覧

	2014	2015	2016	2017
集中講義数	16	14	15	16

[出典: 理学部教務担当資料]

研修日程計画書

	午前の活動 9:10~12:00			午後の活動 13:10~16:00			夜の活動19:00~21:20		
	時間	活 動 内 容	希望場所	時間	活 動 内 容	希望場所	時 間	活 動 内 容	希 望 場 所
一 日 目 5 月 13 日 (土)				13:30	入所式		19:00~20:20	レクレーション	体育館
				14:00	レクレーション(ソフトバレー、大縄)	体育館(バレー)		(クイズ、人間知恵の輪)	
					バレーネット3セット、ソフトバレーボール3個、大縄6本、マイク3本、CDを流すオーディオ機器1台を利用	屋根付きグラウンド(大縄)	20:30	部屋長会議	
				16:00	片付け		20:30~21:50	入浴、天体観測	入口前の駐車場辺り(天体観測)
				16:30	連絡会(代表者・旗係)出席		21:50~22:30	お風呂掃除(各団体から数名)代表者の方は各部屋の施錠確認	
				17:00	タベの集い		22:30	消灯・就寝	
				17:30	夕食				
二 日 目 5 月 14 日 (日)	6:30	起床							
	7:10	朝の集い							
	7:50	朝食・掃除							
	9:00	宿舎点検							
	9:30~10:50	クラスごとの研修・実行委員休憩							
	11:00	退所式							
	11:15	弁当受け取り(弁当とペットボトルお茶)							
11:30	写真撮影・弁当配布								

[出典：理学部教務担当資料]

資料 A-I-1-2-9 平成 29 年度理学部七夕祭り案内

「理学部七夕祭」の開催

熊本大学理学部では、1 学科制になってから学年を越えた交流をより活発にするため、毎年7月初めに「理学部七夕祭」を開催しています。

今年で14回目の開催となり、理学部の1, 2年生の実行委員が、企画・運営し、浴衣姿の学生も参加して、七夕ムードを盛り上げます。また、天体観望会も予定されています。

どなたでも参加できますので、興味のある方は、是非ご参加ください。

(駐車場はございませんので、公共の交通機関をご利用の上お越しく下さい。)

記

【日時】平成29年7月7日(金) 17:30~21:00 (小雨決行)

【場所】熊本大学理学部1・2号館中庭(黒髪南地区)

【催し等】

17:30~21:00

☆ [模擬店]

(やきとり, やきそば, わたがし, かき氷, ドリンク)

18:00頃~

☆ [ステージ企画] (YOSAKOI, アカペラ, ダンス他)

20:30~21:00

☆ 「七夕祭り天体観望会」(雨天, 曇天の場合は中止)

磯部 博志 教授(大学院自然科学研究科地球環境科学講座)

場 所: 理学部2号館東側駐車場(予定)

※ポスターはこちら(添付PDF)

～ 問合せ ～ 熊本大学理学部教務担当

TEL: 096-342-3321

[出典: 理学部教務担当資料]

資料 A-I-1-2-10 理学概論の実績

理学概論実績

年度	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
履修登録者数	83	40	63	93
成績認定者数	57	20	36	76

[出典: 理学部教務担当資料]

資料 A-I-1-2-11 平成 29 年度就職ガイダンス告知ポスター

熊本大学生のための

就職ガイダンス

学部3年生・修士1年生、**必参加！！**

理学部対象

夏休みも終わり、いよいよ後期スタート！初めての就職活動に対し、少し不安もあると思います。このガイダンスでは学内での就活の進め方や準備について、しっかりと情報提供いたします。

- 日時 10月20日（金）
- 時間 18：00～19：30
- 会場 工学部 2号館223



- 理学部先輩の就活体験談から学ぶ！
～自己分析は？ES対策は？面接対策は？いつから動く？～
- 知っていますか？**最新版・熊大生の為の学内就活サポート**
適切な準備につながる様々な支援プログラムを用意しています

熊本大学 理学部 & 学生支援部キャリア支援課



[出典：理学部教務担当資料]



熊本大学理学部

Faculty of Science, Kumamoto University

[HOME](#)

[熊本大学理学部広報委員会](#)
[サイトマップ](#)

[理学部について](#)
[カリキュラム](#)
[教育プログラム](#)
[入試情報](#)
[教職員組織表](#)
[セミナー・講演](#)
[進路情報](#)
[教職員向け資料](#)

[HOME >> 就職情報](#)

就職情報

Career

進路内定登録を「[進路決定報告システム](#)」(熊大ポータル経由・学内専用)からお願いします
※ 登録は、未内定者を把握し未内定者へのサポートをするのに不可欠です。

Topics

2018.8.8 NEW H31年卒向け就職企業案内を更新しました
[▶ 詳細はこちら](#)

2018.7.24 NEW H31年卒向け就職企業案内を更新しました
[▶ 詳細はこちら](#)

- ▶ [理学部就職ガイダンス案内](#)
- ▶ [学部卒業後、修士前期課程修了後の主な進路情報](#)
- ▶ [全学ガイダンス一覧](#)
- ▶ [熊大就活ナビ](#) 
- ▶ [理学部就職セミナー](#) [熊大ポータル経由・在学生専用]
- ▶ [就職企業案内](#) [熊大ポータル経由・在学生専用]
- ▶ [理学部推薦について](#) [熊大ポータル経由・在学生専用]

Copyright (C) 2018 Faculty of Science, Kumamoto University. All Rights Reserved.
熊本市中央区黒髪2-39-1 熊本大学理学部

[出典：理学部 web ページ <http://www.sci.kumamoto-u.ac.jp/etc/career/index.html>]



熊大生のための **キャリア支援サイト**
Career Support

自ら動き自ら学ぶ

キャリアとは
職歴や経歴だけではなく「生き方」という
少し大きなとらえ方があります。

自分軸を持つ熊大生になろう!

熊大生が卒業後どこで何をやってどう生きていくのかを考えていく機会をつくり、実社会の変化に適合した、将来の方向付けを支援していくのが就職支援課の役割です。
就職支援課では「自ら動き自ら学ぶ自軸を持つ熊大生の育成」をテーマに様々な取り組みをしています。
ここにはみなさんのキャリア形成を支援するコンテンツを集めていますので、将来の進路を考える情報源として、活用してください。

- 1 トップページ
- 2 OB・OGキャリアメッセージ
- 3 就職活動体験記
- 4 インターンシップ体験記
- 5 就職関連データ
- 6 キャリアカフェ オフィス案内図
- 7 熊大就活ナビ KUMA★NAVI
- 8 熊本大学公式HP「キャリアサポート」

**就職支援課
オフィスの利用時間**

月曜日から金曜日
(祝日・年末年始を除く)の
8時30分から18時15分です
(夏休み、冬休みなど変更あり)

キャリアカフェ
就職支援課オフィス案内図

**OB・OGキャリア
メッセージ**

実社会で活躍する卒業生からの仕事をテーマにした貴重なメッセージです。
先輩のアドバイスから将来就ける仕事や進路先のイメージを広げてみてください。

[くわしくはこちら](#) →

**就職活動
体験記**

就職活動を終えた4年生・M2年生それぞれの就職活動スケジュールや進め方、選考内容や先輩へのアドバイスなどが綴られています。

[くわしくはこちら](#) →

**インターンシップ
体験記**

就職支援課でサポートするインターンシップのうち、高等教育コンソーシアム熊本インターンシップ(「コンソーシアム熊本」が企画・運営するプログラムです。)参加者による体験記を掲載しています。

[くわしくはこちら](#) →

**Placement
Support Book**

就活サポートブック

就活の事前準備である自己分析から内定後のお礼状まで一冊でカバーする就活サポートブック。熊大オリジナルの電子ブックです。
先輩たちもこの就活サポートブックとともに就活に向かい夢を実現しました。次はあなたの番です。

[くわしくはこちら](#) →

就職関連データ

過去5年分の熊本大学卒業生の進路状況を見ることができます。就職・進学率や主な就職先などを掲載しています。

[くわしくはこちら](#) →

熊大就活ナビ
KUMA★NAVI

熊大生専用の登録制就活支援サイトです。本学へ寄せられた求人情報を検索・閲覧できるほか、学内の就職支援行事(ガイダンス・セミナー)の申込み、進路・就職相談の予約もできます。

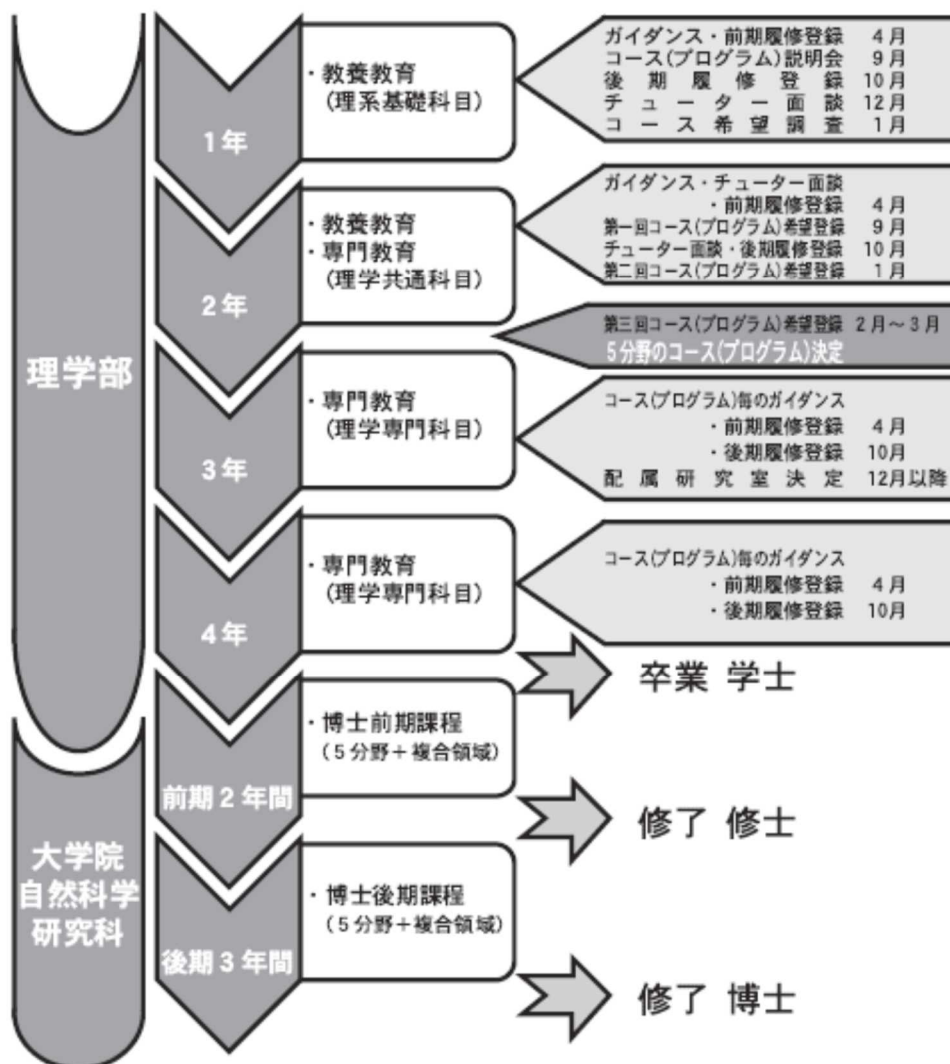
[くわしくはこちら](#) →

上記以外の
キャリアサポート情報は

1 **熊本大学公式HP「キャリアサポート」**

[出典 : <http://hpsearch.jimu.kumamoto-u.ac.jp/casweb/csp/index.html>]

履修の道標



[出典：平成 29 年度 理学部履修の手引き]

資料 A-I-1-2-15 各コースにおける 2 年次（理学共通科目）の履修について

理学共通科目の履修について

※理学共通科目の履修は第 4 年次進級要件（8～9 ページ参照）にも関わってきますので注意してください。

【数学コース（プログラム）】

数学コース（プログラム）に進もうとする学生は、数学系の科目（解析幾何、微分方程式、複素解析、実数と論理、線形数学、数学演習I、数学演習II）はすべて履修してください。その他の科目の履修は基本的に自由ですが、数理物理学に関心のある人は、物理系の科目（基礎力学、基礎量子力学、力学、基礎電磁気学）も履修してください。また、他分野でも、化学分野の基礎物理化学など数学を使う共通科目もあります。教養科目の経済学などでも数学が使われています。このようなことも参考にしながら履修計画を立ててください。

なお、実数と論理は数理論理の基礎を扱う授業科目です。他のすべての数学科目の基礎であり、この科目を通じて数学での議論の展開の仕方を身につけてください。

【物理学コース（プログラム）】

物理学は、素粒子から宇宙まで、自然界とそこで起きる現象を、基本法則を基にして深く理解する学問です。物理学コース（プログラム）に興味があり学ぼうという学生は、2 年次で物理系の科目（基礎力学、基礎量子力学、基礎電磁気学、基礎物理数学、力学、物理学共通実験）はすべて履修してください。また、物理学を記述するための数学系の科目（解析幾何、微分方程式、複素関数、線形数学）および基礎的な化学系の科目（基礎物理化学、基礎無機化学、基礎有機化学）も履修することが望まれます。化学、生物、地学の共通実験の履修も役に立ちます。将来を見通しての履修計画で分からないところがあれば、気軽に物理の先生に質問してください。

【化学コース（プログラム）】

化学に関連する講義や実験を履修します。具体的には 2 年次前期で基礎物理化学、基礎分析化学、基礎無機化学、ならびに化学共通実験、2 年次後期では基礎有機化学、物理化学 I、分析化学 I、無機化学 I です。これらの科目は、化学コース（プログラム）の第 4 年次進級要件に深く関わっています。化学コース（プログラム）へ進学を考える場合は、これらの科目の履修を強く勧めます。化学の他分野との境界領域も重要です。化学以外にもできるだけ多くの共通科目を履修することを勧めます。化学の基礎となる物理や数学、応用分野と関連のある地学や生物の科目の中から、興味や適性に応じて積極的に選択してください。

【地球環境科学コース（プログラム）】

地球環境科学コース（プログラム）では、2 年次で地球環境科学および関連分野を広く履修することが望まれます。宇宙地球システム学、地球史、基礎地質学、基礎地球物質科学、基礎地球環境科学、基礎地球惑星科学の他に、化学、生物学、物理学分野の科目をできるだけ多く履修して下さい。共通科目の微分方程式、基礎科目の統計学の履修も推奨します。地球環境科学分野以外の理学共通科目については、地球環境科学コース（プログラム）の 3 履修モデルとの対応を 25 ページの表に示しています。ただし、この表はあくまでも参考としての科目群であり、どの共通科目の履修も、必ず地球環境科学分野の何らかの領域で役立ちます。地学共通実験はもちろん、他分野の共通実験で学ぶことも大事です。基礎的な知識を広く身につけ、地球環境科学の基本を学んでいれば、2 年次までは他分野を志望していたとしても、3 年次以降に地球環境科学コース（プログラム）に進むことに何ら問題はありせん。

【生物学コース（プログラム）】

生物学コース（プログラム）に興味がある学生は、2 年次で生物学に関する科目（細胞生物学、分子生物学、細胞生理学、生物多様性学、環境適応学、細胞遺伝学、発生工学、進化生態学、生物学共通実験）はすべて履修してください。その他、細胞生物学領域では、生物を物質的側面からアプローチするため、基礎物理化学、基礎分析化学、基礎有機化学、化学共通実験など物理系、化学系の科目も履修することを勧めます。生物多様性学領域では、生物の持つ多様性を理解するうえで、地球の環境やその変遷に関する情報はとても重要です。そのために、地学分野の科目（地球史、基礎地質学など）も積極的に履修することを勧めます。

[出典：平成 29 年度 理学部履修の手引き]

資料 A-I-1-2-16 各コースにおける教育目標（例：数学コース）

数学コース（プログラム）の紹介

数学は古代ギリシャの時代からその厳密な論理体系の美しさで多くの人を惹きつけてきました。数学的論理体系の追求は現在でも数学者の主要な研究動機になっています。数学では代数・幾何・解析といった大きな分野分けがされますがさらにその中には、群論、環論、表現論、数論、代数幾何、位相幾何、微分幾何、微分方程式、実解析、複素解析、確率論、力学系など、いくつもの分野があります。それらの分野が互いに影響を与え合いながら日々進歩し続けています。さらに、数学は数学内にとどまらず、物理学、化学、生物学、経済学、人文科学など多種多様な分野で、現象を記述する言葉として、またはデータを解析する道具としても用いられています。これら他の分野からも影響を受け、数学のさらなる発展につながっています。

数学コース（プログラム）では、数学の基盤的な内容を身につけ、その上で、代数学・幾何学・解析学を基礎から学ぶことを通じて、数学的思考方法を身につけると同時に、数学の魅力を理解し数学およびその関連する分野に意欲的に取り組むための能力を育てます。

[出典：平成 29 年度 理学部履修の手引き]

資料 A-I-1-2-17 履修モデル一覧

コース (プログラム)	履修モデル	概 要	ページ
数 学	数 学	数学を体系的に学ぶ履修例	12～14
物 理 学	物 理 学	現代物理学の基礎となる分野を体系的に学ぶ履修例	15～18
化 学	化 学	化学をベースに物質の性質や反応ならびに化学物質の解析について理解する履修例	19～22
地 球 環 境 学 地 球 環 境 学	地 球 物 質 科 学	地球に存在する物質とその構造、成り立ちを理解する履修例	23～27
	地 球 環 境 変 遷 学	地球環境とそこに生きる生物の変遷と進化を理解するための履修例	
	地 球 惑 星 物 理 学	惑星としての地球とそこで起こる物理的、化学的現象を理解する履修例	
生 物 学	細 胞 生 物 学	多細胞個体、細胞、生体高分子といったさまざまなレベルの情報を統合して生命を理解する能力を身につける履修例	28～31
	生 物 多 様 性 学	生物の持つ多様性を個体群・種・生態系レベルで理解する履修例	

[出典：平成 29 年度 理学部履修の手引き]

資料 A-I-1-2-18 履修モデルの詳細 (例: 物理学コース)

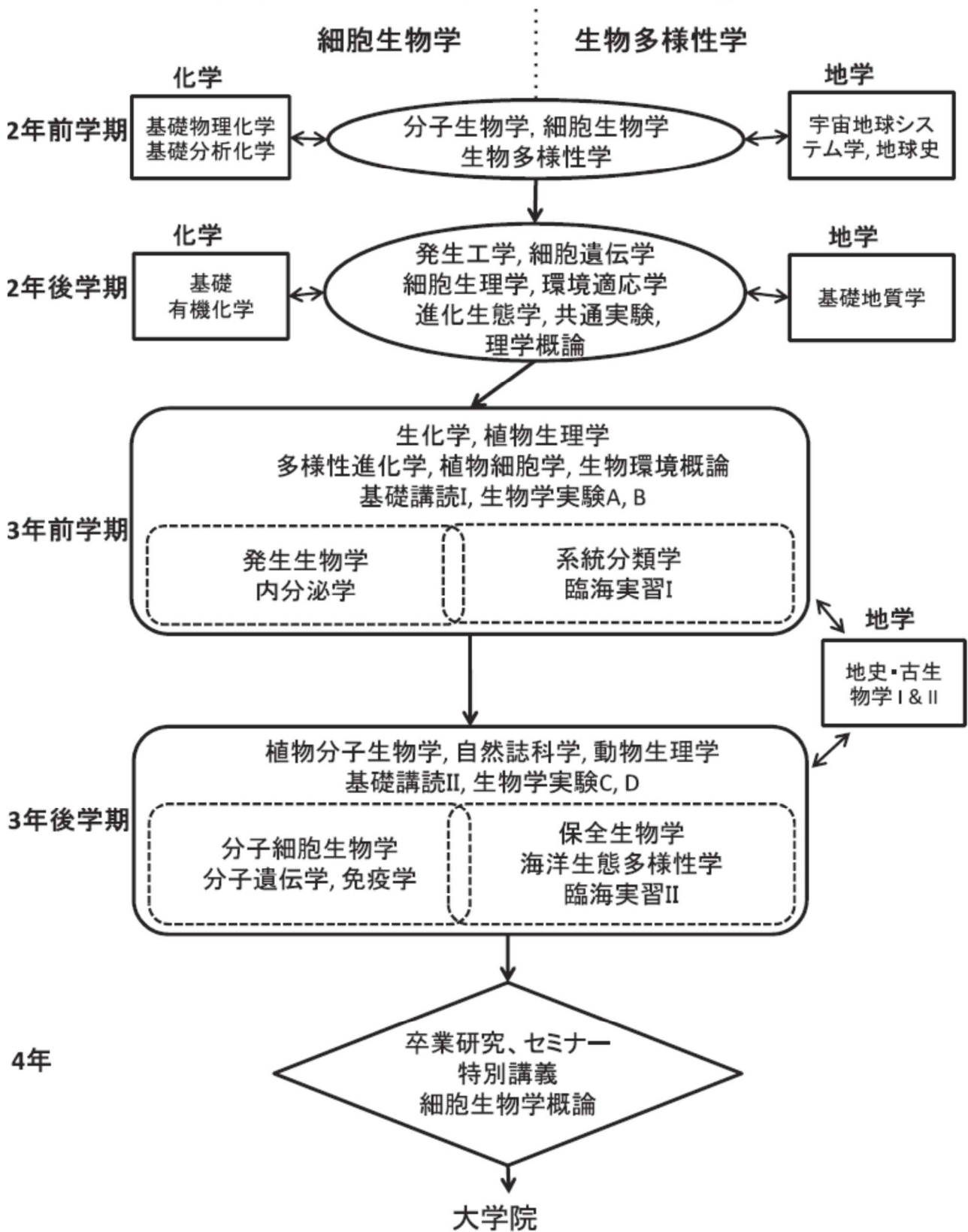
物理学コース (プログラム) 履修モデル				
年次	セメスタ	科目区分	プログラム	物理学履修モデル
				現代物理学の基礎となる分野を体系的に学ぶ履修例
2年	3	理学共通科目	物理学	<u>基礎力学</u> , <u>基礎量子力学</u>
			数学	解析幾何, 微分方程式, 統計学 I (理系基礎科目)
			化学	基礎物理化学, 基礎無機化学
	4		物理学	<u>基礎電磁気学</u> , <u>基礎物理数学</u> , <u>力学</u> , <u>物理学共通実験</u>
			数学	複素関数, 線形数学, 統計学 II (理系基礎科目)
			化学	基礎有機化学
3年	5	理学専門科目	物理学	力学演習, <u>電磁気学</u> , <u>電磁気学演習</u> , <u>解析力学</u> <u>熱力学</u> , <u>物理実験学</u> , <u>物理実験 A</u>
	6			<u>量子力学 I</u> , <u>量子力学 I 演習</u> , <u>統計力学</u> , <u>物理数学</u> , <u>光学</u> <u>コンピュータ物理学</u> , <u>物理実験 B</u> , <u>科学英語 (物理) I</u>
4年	7			卒業研究 (必修), <u>量子力学 II</u> , <u>量子力学 II 演習</u> , <u>熱統計力学演習</u> <u>統計物理</u> , <u>基礎数理物理学</u> , <u>物性物理学 I</u> , <u>科学英語 (物理) II</u> 特殊相対論,
	8			卒業研究 (必修), <u>量子力学 III</u> <u>物性物理学 II</u>

下線の科目は物理学の基本となる重要科目 (物理学コア科目)

4年次に進級するためには、物理学コア科目を15単位以上修得しておくこと。

[出典: 平成29年度 理学部履修の手引き]

生物関係科目間相関図(理系基礎科目を)除く

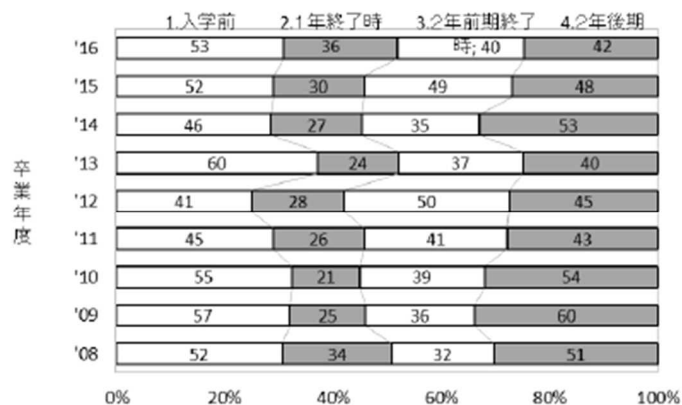


[出典: 平成 29 年度 理学部履修の手引き]

資料 A-I-1-2-20 コース選択決定時期

(B29) コースはいつ決めましたか.

- 1. 入学前
 - 2. 1年終了時
 - 3. 2年前期終了時
 - 4. 2年後期
- 意見など：4件



[出典：4年生アンケート 集計と分析（平成28年度卒業生）]

資料 A-I-1-2-21 コース変更を行った学生数

新コース	旧コース	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
数学	物理学			1	1
物理学	数学	4	1		
物理学	化学	1			
物理学	地球環境科学	1	1		
化学	生物学	1			1
地球環境科学	数学	2		1	
地球環境科学	物理学	2		1	2
地球環境科学	化学				1
地球環境科学	生物学				1
計		11	2	3	6

[出典：教務担当資料を基に作成]

学生のケア体制・チューターと担任の役割分担

平成19年1月26日 理学部運営会議

1. 理学部における学生のケア体制を以下のように明確化する。
 - (1) 担当
 - 1年次：担任
 - 2年次：チューター
 - 3年時以降：各プログラム（講座）毎に定める。
 - 留年生：学部長室
 - (2) 担任の役割
 - 新生ガイダンスを担当する。
 - 担当クラスの学生の相談窓口
 - 履修登録完了調査・欠席調査などで不登校が懸念される学生への対応
 - (3) チューターの役割
 - 進路指導とそれに伴う履修指導
 - 担当の学生の相談窓口
 - 履修登録完了調査・欠席調査などで不登校が懸念される学生への対応
 - (4) 留年生へのケア
 - 学部長面談による
 - (5) その他
 - 学生と学部長による懇談会を設け、意見・要望を吸い上げる。
 2. 担任の決め方
 - ・学生委員会に副委員長をおく。
 - ・副委員長は1年ごと講座持ち回りとする。ただし委員長を出す講座に当たったときは、その講座をとばして次の講座から出す。
 - ・講座選出の学生委員計5名と副委員長が担任を兼ねる。
 - ・2年生の担任は廃止する。
- 注記：全学の学生委員の任期が2年で、学生委員長の任期もそれに合わせて2年としているため、副委員長は1年任期とし、次期委員長を意味しない。
3. チューターの決め方
 - ・学生の希望分野に応じてチューターを宛てるという方法も考えられるので、チューターを決める時期なども含めて次年度の検討課題とする。

[出典：理学部運営会議資料]

資料 A-I-1-2-23 チューター面談要項（抜粋）

平成29年度 1年生 第1回チューター面談 要領

日時・場所 12月4日（月）午後6時から 各教員室にて

1年生には直接先生の研究室を訪問するよう指示します。

当日都合の悪い先生は、代替日を学生に掲示しますので、至急、教務担当

（内線 3321、e-mail: szr-kyomu@jimu.kumamoto-u.ac.jp）までお知らせください。

「学生指導控え」を面談の記録として残してください。

また、万一、面談ができなかった学生がいた場合は、教務担当まで連絡してください。

面談内容：

1. 学生の連絡先（電話番号、メールアドレス）を聞き、今後の連絡方法を確立する。
2. これまでの単位修得状況に基づいて履修指導する。この時、卒業研究に着手するため、4年次進級要件があることを説明する。
3. 志望コース、進路（大学院、就職、教職、学芸員）に関する相談を行う。
4. 2年次開講共通実験の履修に関して相談を行う。
5. 資料をもとにジュニアリサーチフェロー（JRF）制度について説明する。
6. その他、学生生活全般に関する相談とアドバイスを行う。
7. 第2回面談は4月上旬を予定していることを伝える。

学生の質問などに答えられない内容があれば下記窓口まで相談してください。

教務委員長：入江 亮 (3379) 理学部2号館423

教務副委員長：安仁屋 勝 (3457) 理学部3号館215

[出典：平成29年度 チューター面談要領]

学 生 指 導 控

学生番号：

氏名： (平成 年度入学)

保護者連絡先

住所

電話番号

本人連絡先

住所

電話番号 (携帯電話)

電子メールアドレス

年 月 日	レ ベ ル	指 導 方 法	指 導 内 容

注) レベルは以下のように分類する。

- A：本人が自発的に接触してきた。
- B：本人を呼び出し、面談した。
- C：両親（身元保証人）に書面により警告した。
- D：両親（身元保証人）を呼び出し警告した。

[出典：教務担当資料]

資料 A-I-1-2-25 学部長面談記録フォーマット

		平成29年度入学			アパート			サークル	バイト
2018/4/	総取得単位	肥後熊本学	情報	必修外国語	自由外国語	体育・スポーツ科目	Multidisciplinary Studies		
●回生 ●年		現代教養科目	リベラル	キャリア科目	開放科目		Area Studies(a)+	0	左記以外
成績不振	0	教養数学	アーツ科目	基盤実験	理学共通		Global Career	0	0
	面談記録:	教養理科					肥後熊本+情報+必修外国語 0		
	指導内容:								
	特記事項:								

[出典：教務担当資料]

資料 A-I-1-2-26 学部長面談実績 (面談人数)

年度		1年次	2年次
H26	4月		9
	10月	3	16
H27	4月		19
	10月	6	11
H28	4月		24
	10月	4	6
H29	4月		22
	10月	5	8

[出典：教務担当資料]

資料 A-I-1-2-27 欠席者調査依頼メール

理系基礎科目・理学共通科目担当教員各位
cc:理学部教務担当

本年度の前期学年歴も、5週程度が経過しました。例年より少し遅くなりましたが、本年度も理系基礎科目と理学共通科目の出席状況調査（前学期分）を実施いたします。ご担当授業の履修登録学生の中に欠席が目立つ学生がいましたら、欠席回数とともに入江までお知らせ下さい。

ご多用のところご面倒をお掛けいたしますが、今月末までを目処にご報告下さい。今後の履修指導の参考にいたしますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

平成29年度 教務委員長 入江 亮

[出典：教務担当資料]

理学部学生 各位

小講義室を自修のために使用する際の
使用時間について

理学部2号館の小講義室は、授業やゼミ等で使用している場合を除き、自修のための使用を認めていますが、今後、自修室として使用できる時間を下記のとおりとします。

使用は自修目的のみとします。安全管理及び防犯のため、使用時間は厳守してください。

なお、時間外のグループ学修は、附属図書館のグループ学修室が利用できます。希望者は、別紙グループ学修室の掲示を参照してください。

記

- 1 使用できる時間 8時～20時まで
20時に施錠します。

- 2 平成26年4月7日(月)から適用します。

- 3 自修室として使用できる講義室
C123小講義室 (理学部2号館1階)
C228小講義室 (理学部2号館2階)
C331小講義室 (理学部2号館3階)

平成26年4月3日 理学部長

[出典：教務担当資料]

資料 A-I-1-2-29 図書室および閲覧室に関する案内

理学部書庫(理学部1号館1階: C101, C102, C103)の 利用について (1, 2年生)

平成 28 年 4 月 理学部

○書庫の開室時間:平日 8:30~17:15

(共通学科事務室(C111)が開いている時間帯)

○借り出しができる書籍(図書・雑誌)

☆ 生物分野, および地球環境分野(一部)の書籍(C103)

・図書: 2週間まで借り出しできる。

・雑誌: 当日(コピーする場合)のみ借り出しできる。

☆ 物理分野の書籍(C103)

・図書: 1週間まで借り出しできる。

・雑誌: 当日(コピーする場合)のみ借り出しできる。

○借り出しができない書籍(図書・雑誌)

☆ 化学分野, 地球環境分野(一部)の書籍(C101, C103)

・書庫(C101)の書籍は原則的に帯出禁止。

(ただし, 閲覧室(C102)内での閲覧のみ可。化学分野の書籍の
一時借り出し希望者は共通学科事務室(C111)まで。)・書庫(C103)の書籍の内, 禁帯出シールがはってあるもの, 地図関係は
帯出禁止(閲覧室(C102)内での閲覧のみ可)。※書籍を借り出すとき, 共通学科事務室(C111)の貸し出し簿に記入し, 棚には
代板を置く(地球環境分野の書籍の場合は書棚の台本用紙をはる)こと。

(地球環境分野の書籍は必ず, 地球科学事務室(C413)の伴さんに返却すること。)

※1, 2年生は閲覧室(C102)のコピー機を使用できません。

※数学分野の書庫は理学部4号館にあります。数学分野の書籍の借り出し方法は
数学事務室(理学部4号館4階D420)で尋ねてください。

※その他, 質問は共通学科事務室(C111)まで。



[出典: 教務担当資料]

平成29年度 理学部ジュニア・リサーチ・フェロー (JRF)**募集告知**

理学部では、学部教育の初期の段階から、理学専門に特化した英才教育を行い、将来の研究者を養成することを目指すシステムであるジュニア・リサーチ・フェロー (JRF) の募集を平成24年度から開始しました。

優秀な学生を各コースで選抜し、下記のような教育的措置が受けられます。

ただし、進級・卒業要件、単位等は学生便覧に従いますので、特例処置は認めません。研究に対する、意欲ある学生の積極的応募を期待します。

平成29年度も募集する予定です。

1. 募集対象：理学部平成28年度入学者
2. 募集人員：5名程度（各コース1名程度）
3. 募集時期：来年1月下旬から2月上旬頃（予定）
4. 選考方法：コース毎に実施します。
 - 一次選考（提出書類および成績をもとに選考します）を通過した学生に対して、二次選考を実施します。
 - 二次選考の試験日は、一次選考を通過した学生に対して通知します。
5. 採択された学生に対する教育的措置：
 - 1) 希望する教員（主任指導教員）のもとで2年次より研究室のゼミへの参加、研究指導などの個別指導を受けることができる。
 - 2) 指導を希望する教員が未定の場合、採択決定後にコース教員との相談により主任指導教員を決めることができる。
 - 3) 時間割が許す範囲で、当該学年に開講された専門科目以外に、空き時間を利用して上級学年の専門科目の授業や学生実験を受けられるように配慮する。
 - 4) 3年生に進級後、早期に卒業研究に着手することも可能とする。
6. 問い合わせ先

理学部教務担当（理学部2号館1階）内線 3321

[出典：教務担当資料]

資料 A-I-1-2-31 ジュニアリサーチフェロー採択状況

年度	申請者数	合格者数	不合格者数	辞退
平成24年度	8	3	5	－
平成25年度	7	2	5	－
平成26年度	2	0	1	1
平成27年度	8	3	5	－
平成28年度	8	4	4	－
平成29年度	3	3	0	－
計	36	15	20	1

[出典：教務担当資料]

平成29年度「熊本大学理学部国際奨学金」の募集について

1. 趣 旨

理学部学生の国際的な学習・研究活動への参加機会を広く提供し、参加を支援することによって、国際的視野と学習研究能力を高め、積極的な社会進出を動機付けることを目的として奨学金の支給を行う。

2. 応募資格

理学部に在籍する学部学生で、次の活動を目的とする者。
ただし、他の経費から支給される場合は対象としない。

- (1) 国際学会での発表
- (2) 国際的な調査活動
- (3) 国際インターンシップ
- (4) 国際交流協定校での目標を定めた学習
- (5) 本学主催の海外語学セミナー（以下「セミナー」という。）
- (6) その他、国際的な学習・研究活動（語学研修を除く）

3. 支給予定人数

第1次募集、第2次募集それぞれ2～3名程度とする。

4. 支給予定額

採用された者に対して1人当たり実費相当額（15万円程度まで）の奨学金を支給する。
なお、渡航経費（航空運賃、交通費、宿泊費、参加費等）の領収証が必要となるので、保管しておくこと。

5. 募集期間

第1次募集：平成29年7月3日（月）～平成29年7月14日（金）
第2次募集：平成29年11月頃の募集予定

6. 対象となる国際活動の期間

平成29年4月～平成30年3月
※ 4月～8月の既に終了した活動についても対象とする。

7. 提出書類

- (1) 申請書（所定様式）
- (2) 指導教員からの推薦書（所定様式）
- (3) 学業成績証明書
- (4) スコア証明書（TOEFL 又は TOEIC 等の英語技能検定試験を受験した者のみ）
- (5) その他
国際学会へ参加し発表する場合は、そのプログラム又は要旨を添付すること。
調査活動の場合は、先方からの招聘状又はこれに類するものを添付すること。

8. 提出先

理学部教務担当（理学部1・2号館1階）

9. 選考方法

奨学生の選考は、提出された書類により、学業成績、外国語能力及び企画（研究計画、学会報告等）の内容等を総合的に判定して行う。

10. 成果及び事業の報告

奨学金を得て国際活動を行った学生は、帰国後速やかに成果報告書を理学部長に提出するものとする。また、帰国後に学内報告会等により成果を発表するものとする。

問い合わせ先：理学部教務担当 平成29年6月30日 掲示

[出典：理学部教務担当資料]

資料 A-I-1-2-33 国際奨学金実績

- ① 国際学会での発表
- ② 国際的な調査活動
- ③ 国際インターンシップ
- ④ 国際交流協定校での目標を定めた学習(留学)
- ⑤ その他、国際的な学習・研究活動

H26年度

No.	所属学科(専攻)	学年	国際活動の種類	活動分類	渡航先		渡航期間(年、月、日)						
							年	月	日	～	年	月	日
1	生物学コース	4	その他、国際的な学習・研究活動	⑤	台湾	台北、台中	H26年	7月	16日	～	H26年	7月	26日
2	化学コース	4	その他、国際的な学習・研究活動	⑤	ロシア	イルクーツク	H27年	3月	16日	～	H27年	3月	29日
3	化学コース	4	その他、国際的な学習・研究活動	⑤	フィリピン	レイテ島 バナイ島	H27年	3月	1日	～	H27年	3月	7日

H27年度

No.	所属学科(専攻)	学年	国際活動の種類	活動分類	渡航先		渡航期間(年、月、日)						
							年	月	日	～	年	月	日
1	化学コース	4	その他、国際的な学習・研究活動	⑤	アメリカ	ホノルル	H27年	12月	14日	～	H27年	12月	23日
2	化学コース	4	その他、国際的な学習・研究活動	⑤	アメリカ	ホノルル	H27年	12月	15日	～	H27年	12月	20日

H28年度

No.	所属学科(専攻)	学年	国際活動の種類	活動分類	渡航先		渡航期間(年、月、日)						
							年	月	日	～	年	月	日
1	地球環境科学コース	4	その他、国際的な学習・研究活動	⑤	ベトナム	ハノイ	H28年	12月	4日	～	H28年	12月	7日
2	地球環境科学コース	4	その他、国際的な学習・研究活動	⑤	中国	西安	H28年	9月	24日	～	H28年	9月	28日
3	物理学コース	4	その他、国際的な学習・研究活動	⑤	中国	長沙	H28年	10月	14日	～	H28年	10月	19日
4	生物学コース	4	国際的な調査活動	②	カンボジア	モンドルキリ	H28年	10月	30日	～	H28年	11月	10日
5	化学コース	4	その他、国際的な学習・研究活動	⑤	米国	ニューヨーク	H29年	1月	24日	～	H29年	2月	1日

H29年度

No.	所属学科(専攻)	学年	国際活動の種類	活動分類	渡航先		渡航期間(年、月、日)						
							年	月	日	～	年	月	日
1	地球環境科学コース	4	国際的な調査活動	②	ベトナム	ハノイ等	H29.5.1-H29.5.15 H29.10.3-H29.10.16						
2	地球環境科学コース	4	その他、国際的な学習・研究	⑤	イタリア	ヴェネチア	H29.9.28-H29.10.10						
3	地球環境科学コース	4	国際的な調査活動	②	ベトナム	ハノイ等	H29.5.1-H29.5.15 H29.10.3-H29.10.16						
4	生物学コース	4	その他、国際的な学習・研究	⑤	台湾	台北	H29.12.20-H29.12.23						
5	地球環境科学コース	4	その他、国際的な学習・研究	⑤	イタリア	ヴェネチア	H29.9.28-H29.10.10						

[出典：理学部教務担当資料]

資料 A-I-1-2-34 留学生に対するチューターの実績

	H26 (前期)	H26 (後期)	H27 (前期)	H27(後期)	H28(前期)	H28(後期)	H29 (前期)	H29 (後期)
留学生 (非正規生含む)	3	3	2	5	7	7	7	7
チューター	3	2	0	4	2	2	0	2

チューターの詳細

	所属身分・学科(専攻)	学年
H26 (前期)	理学部理学科	4
H26 (前期)	理学部理学科	4
H26 (前期)	自然科学研究科博士前期課程 理学専攻	2
H26 (後期)	理学部理学科	4
H26 (後期)	自然科学研究科理学専攻	1
H27(後期)	自然科学研究科 理学専攻 生物	—
H27(後期)	理学部・理学科・数学コース	4
H27(後期)	理学部・理学科・数学コース	4
H27(後期)	理学部理学科化学コース	3
H28(前期)	自然科学研究科博士前期課程理学専攻	1
H28(前期)	自然科学研究科博士前期課程理学専攻	1
H28(後期)	理学科数学コース	4
H28(後期)	理学科数学コース	4
H29 (後期)	自然科学研究科博士前期課程数学専攻	1
H29 (後期)	自然科学研究科博士前期課程数学専攻	1

[出典：理学部教務担当資料]

資料 A-I-1-2-35

ガイダンス等の実施及び内容が確認できる資料（1年生ガイダンスの手引き）

H29年度 熊本大学理学部理学科 1年生ガイダンスの手引き p.1

2017年4月5日

平成29年度 熊本大学理学部理学科 1年生ガイダンスの手引き

理学部教務委員会

このガイダンスは、新入生一人一人が熊本大学理学部の教育体制、カリキュラムなどを十分理解し、大学生としての今後の学生生活を有意義に、実り多く過ごしていくために極めて重要な事柄について説明するものである。聞き逃したり誤解したりしたままでは、直ちに重大な不利益に結び付くことがあるので、分からないことがあったらためらわずにすぐに質問すること。

1. 配付物の確認

1) 理学部配付物

配付物一覧表によって配付物を確認してください。

この中で、本ガイダンスにおいて主に使用するものは以下の通りです。

平成29年度（2017）学生便覧（緑色の表紙、以下「便覧」という）

平成29年度理学部授業時間割（以下「理学部時間割」という）

1年生ガイダンスの手引き（この資料）

修得単位計算表 2017年度入学者用

1年生時間割

学生証については、後で担任から配付する。

その際、① 身上カード、② 授業料預金口座振替依頼書、③ 合宿研修の申込書、および

④ 参加費（2500円）を提出すること。

2) 教養教育実施機構配付物

配付物一覧表によって配付物を確認してください。

本ガイダンスで主に使用するものは以下の通り。

教養教育の案内（黄緑色の表紙、以下「案内」という）

教養教育授業計画書（時間割がとじ込んである）

教養教育外国語履修案内

肥後熊本学クラス番号希望届（マークシート用紙）

肥後熊本学クラス分け手順

[出典：理学部教務委員会資料より抜粋]

資料 A-I-1-2-36 平成 29 年度理学部ガイダンス日程表 (履修相談会及び教職ガイダンス等)

月日	曜日	内容	開始時刻	終了時刻	場 所	対象学生				対応教員										
						新入生	2年生	3年生	4年生	担任(学生委員)	学部長	副学部長	学科長	前教務委員長	教務委員長	学生委員長	各コース	専門委員会委員	その他	
3月29日	水	新入生(教養教育)ガイダンス担当教員説明会	13:30	16:05	(全学教育棟 C301)					○					○					
4月3日	月	新入生(理学部)ガイダンス担当教員説明会	15:00	17:00	C122					○										
4月4日	火	入学式	10:00	11:00	熊本県立劇場	○														
		入部式	13:00	14:00	全学教育棟E107	○				○										
4月5日	水	新入生ガイダンス	9:00		全学教育棟E107	○														
		新入生向け学芸員ガイダンス(希望者のみ)	9:45頃		理学部講義室	○				○										
		GLC生向けガイダンス	14:00	14:30	C330(担当:小松)	○														
		担任の先生と話そう	15:00	未定	C122(担当:濱名)	○														
4月6日	木	先輩と会おう	13:00	14:30		○														
		2年生ガイダンス	13:00	16:00		○														
		2年生教職ガイダンス(希望者のみ)	9:30		C122とC226	○														
		2年生学芸員ガイダンス(希望者のみ) 3,4年は別対応	上終了後		C122とC226	○														
4月10日～21日		3年生ガイダンス	上終了後		C122(担当:小松)	○														
		4年生ガイダンス			各コース	○														
		理学部新入生履修相談会	14:00	16:00	全学教育棟E107	○														
5月13日～14日		チューター面談			各チューター	○														
		合宿研修				○														

[出典：理学部教務委員会資料]

2017年4月6日

平成29年度理学科2年生(2016年入学者)ガイダンス資料

教務委員会

1. 配付物確認

理学部教務担当からのお願い、理学部授業時間割表、理学部教室配置図、理学部カレンダー・学務関係行事予定表、2年生ガイダンス資料、修得単位計算表、TOEIC-IP テスト案内、学部長へのダイレクトメールについて、理学部書庫の利用について、問診票、疲労蓄積度チェックシート
教員免許ガイダンスの手引き、履修カルテシステム操作手引き書（教職免許取得希望者）

2. 日程確認 すべて掲示されている

健康診断 男子：4/26（水）午後 女子：4/27（木）午後

講義が重なっている場合には、同性の別の日に受診し、講義等に支障をきたさないようにすること。
学生証、問診票を持参すること。

*健康診断時に実施される X 線撮影は、熊本大学でそれまで一度も行ったことがない場合のみ必要となる。該当者は理学部教務担当で X 線受診票を受け取り、胸部 X 線対象者用日程表を確認して同性の時間帯で受診すること。

履修登録期間 4/10（月）～ 21（金） SOSEKI での登録

*SOSEKI による履修登録でエラーがあった場合：教養科目については教養教務担当、専門科目については理学部教務担当に申し出ること。申出期限 4/21（金）

3. 履修関係 重要

- ・2年次では、自然科学各分野のより深い内容を含む「共通科目」を主に履修する。履修の手引きの「共通科目の履修について」を参考にする。
- ・各自、自分の修得単位を修得単位計算表に記入し、2年次から3年次への進級要件（便覧9ページ）を確実に満たすことができるように本年度の履修計画を立てること。

進級要件

教養教育理系基礎科目：数学関係科目 8 単位以上、物理・化学・生物・地学関係科目から 12 単位以上、基盤実験科目 2 単位以上

教養教育必修科目（基礎セミナー、情報科目及び外国語科目）：8 単位以上

理学共通科目：10 単位以上

- ・教養選択科目について（教養教育の案内 p.26, p.29） 学系「自然」以外の教養科目を幅広く履修することが望ましい。
「教員免許取得に必要な「体育」は、学系「生命」の「体育・スポーツ科学 A」である（教養教育の案内 p.29）。「体育・スポーツ科学 A」は、卒業要件単位として加算してよい。なお、本年度に本科目の単位取得を目指す者は、基礎科目の「体育・スポーツ科学」を履修すること（単位の読み替えを行う）。
- ・理学部専門教育科目の授業計画書は配付しない。各科目のシラバスは、熊大ポータルサイトからシラバスシステムにアクセスして閲覧すること。

[出典：理学部教務委員会資料より抜粋]

学部長へのダイレクトメールについて

理学部の皆様

理学部に対する要望や意見, 個人的な悩み・相談等あれば, 気軽に下記までメールを下さい. 匿名のメールで構いません. 差出人のプライバシーや個人情報, 相談内容等はもちろん責任を持って保護します. 相談内容についても, できる限り誠意をもって対応したいと考えています.

前向きな意見は今後の学部改革に役立てたいと考えています.

理学部ホームページ (在学生の皆様) からアクセスできます.

理学部長

[出典: 理学部教務委員会資料]

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

入学者の変化と教養教育改革に対応しつつ、一括入試による選抜と定員を設けないコース選択を特徴とするユニークな教育課程である理学科一学科制の質を維持し、期待される学士像を目指す教育目的・目標を達成すべく不断の検証と見直しを続けてきた。規則改正、環境整備等は的確に進められており、期待される水準を上回ると判断する。

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

学業成果たる学士像は、理学科および各コースが定めるディプロマポリシーとして学生便覧に明示しており(資料A-II-2-1-1)、教養教育から卒業研究に至るカリキュラムはその実現を目的に構築されている。しかし、大学における学修は学生自身がその目的と意義を理解し、主体的に取り組むことで初めて実質的な成果が現れる。学生の興味を引き出し、学修意欲につなげていくことが最終的な学士の質保証につながる。

入学時には、理学科について漠然とした理解を持った学生が大半であることは否めず、可能性が開けているが故に具体的な方向性を提示して学修意欲を導く必要がある。理学科発足当初からそのためのカリキュラムが設定されてきたが、不断の評価、検討により、授業科目の新設、改廃、進級基準の改正、卒業研究の必修化と4年次進級要件の設定などを行ってきた。卒業までの各段階において到達目標とクリアすべき基準は高くなった(資料A-I-1-1-15(19頁)、資料A-I-1-1-17(21頁)、資料A-I-1-1-18(22頁))が、学部長面談をはじめとするきめ細かい指導の成果により卒業率は高い水準を維持しつつさらに上昇しつつある(資料A-II-2-1-2)。

学生が一学科による教育プログラム制に対してどのような意見を持ち、どう評価しているかを把握するために、第一期生より継続して卒業生アンケートを卒業直前の時期に行ってきた。回収率は毎年ほぼ100%である(資料A-II-2-1-3)。このアンケートから学生の満足度を判断すると、否定的な「不満足」、「どちらかというとな満足」という回答は平成23年度以降常に1割を下回っており、学生から一定の評価を得ている(資料A-II-2-1-4)。今後も、客観的な学士の質と主観的な満足度をともに高い水準で維持していくためにこれまでの取組みを継続していく必要がある。

(中期計画番号1~21)

資料A-II-2-1-1 理学部ディプロマポリシー

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

理学部は、学士課程教育において、「自然科学に対する幅広い知識と理解、および、豊かな創造性と国際性を持ち、課題探求能力を備え、科学立国及び地域文化の創造に貢献できる」人材の育成を目的としています。この目的を達成するため、主に1,2年次で実施される学部共通教育、および、5分野の特性を活かした専門教育を実施しています。更に、各分野での教育では、「自然科学の特定分野への深い専門性を持ち、得られた真理を簡潔かつ多彩に表現できる人材の育成」を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、所定の単位を修得した者に、本学部の学位を授与します。

数学コースディプロマポリシー

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

数学は現実世界の問題を理想化・抽象化してとらえ、普遍性のある解答を与える学問です。数学コースにおいては、数学による課題解決能力を備えることができたかを学位授与の方針とします。具体的には、以下に挙げる知識・能力が確認された場合に修了させ学位を授与します。

1. 数学の基本的知識
2. 様々な数学的概念を用いて物事を論理的に考える能力

物理学コースディプロマポリシー

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

物理学コースでは、理学全般の広い基礎知識に加えて、物理科学分野の専門知識を持ち、柔軟な思考力、問題の本質を探り根本から解決する能力、更に得られた成果を簡潔かつ多彩に表現できる能力を備え、社会の様々な分野で活躍出来る人材の育成を目指しています。このことを踏まえ編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下の知識・能力を身につけたと認められる者に、学位を授与します。

1. 基礎的な物理学の素養（基礎知識と実験的または理論的手法）
2. 自然現象を物理的に分析し、得られた知見を正確に説明する能力

化学コースディプロマポリシー

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

化学コースでは、「物質を構成する無機・有機化合物の構造、物理的性質及び反応性、そのふるまいや分析についての理解力と論理的思考力を持つ人材の育成」を目指しています。このことを踏まえ、以下に示す学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、所定の単位を修得した者に、学位を授与します。

1. 広範な化学的知識を身につけることができる。
2. 化学実験の基本操作を身につけることができる。
3. 学術論文を読み、科学的、論理的に理解し、第三者に対して説明できる。

地球環境科学コースディプロマポリシー

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

地球のシステムを理解し、地球物質科学・地球変遷学・気象学・水文学・海洋学などに関する基礎知識を有し、各分野の基本となる研究手法（地質調査・化学分析・顕微鏡観察・データ処理など）を修得し、それら実験・観測データを基に、論理的に地球科学的諸現象を解明できる人材育成を目指しています。このことを踏まえ、以下に示す学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程を履修させ、所定の単位を修得した者に、学位を授与します。

1. 広範な地球環境科学に関する知識を身につける。
2. 地球環境科学分野の調査・分析・実験・観測の基本手法を身につける。
3. 得られたデータと学術論文から、科学的、論理的に理解し、第三者に対して説明できる。

資料 A-Ⅱ-2-1-1 理学部ディプロマポリシー（続き）
生物学コースディプロマポリシー

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

遺伝子の役割から生態系の多様性にいたるまでの基礎知識を身につけ、急速に発展する最先端の研究に対しても基本的に理解することができる能力を身につけるため、様々な分野に関する知識や実験方法を習熟させ、様々なレベルの情報を統合して論理的に理解し得る能力を身につけた人材を育成します。このことを踏まえ編成・実施された教育課程を履修させ、所定の単位を修得した者に、学位を授与します。

[出典：平成 29 年度理学科学生便覧]

資料 A-Ⅱ-2-1-2

標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限 1.5」年内卒業（修了）率

卒業率（平成30（2018）年8月現在）

入学年度	入学者数	修業年限 (4年)内 卒業生数	卒業率 (%)	修業年限 ×1.5以内 卒業生数	卒業率 (%)
H23 (2011)	198	159	80.3	176	88.9
H24 (2012)	202	165	81.7	191	94.6
H25 (2013)	199	163	81.9	175	87.9
H26 (2014)	193	159	82.4	-	-

*平成 25 年度入学者については入学後 5 年以内の卒業生数及び卒業率を示す。

[出典：理学部教務担当資料を基に作成]

2017 年 10 月

熊本大学理学部

理学部 理学科 4 年生アンケートの集計と分析

このアンケートは、卒業を目前にひかえた理学部理学科 4 年生(2017 年 3 月卒業生)が、本学部の教育システムである「一学科による教育プログラム制」に対してどのような意見をもち、どう評価しているのかを調べるために本学部独自に実施したものである。全対象学生からのアンケート回答回収を目指して、各研究室にアンケート用紙必要部数を封筒に封入して配布し、以下提出期限までに教務担当事務まで提出依頼した。

提出期限: 2016 年 2 月 17 日 (水)

提出場所: 理学部 教務企画係 または 共通学科事務室

結果、173 名から回答を得ることができた。回収率は 93%であった。この報告書において回収したアンケートデータの集計とその分析を行った。

[出典：理学部ホームページ]

卒業生アンケート回収率

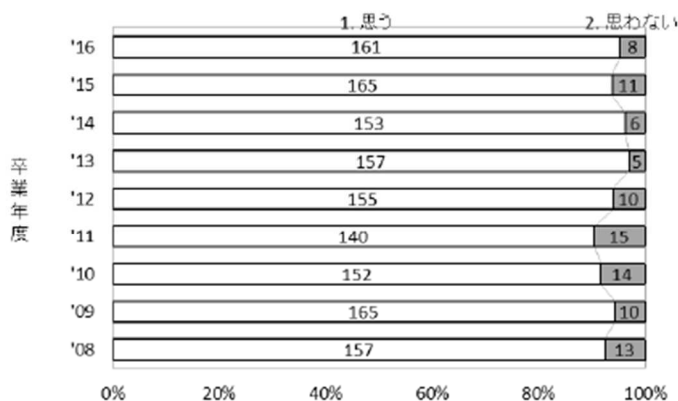
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
4年生	94%	95%	89%	97%	93%
M2	97%	94%	86%	95%	85%

[出典：理学部教務担当資料を基に作成]

資料 A-II-2-1-4 4年生アンケートの結果

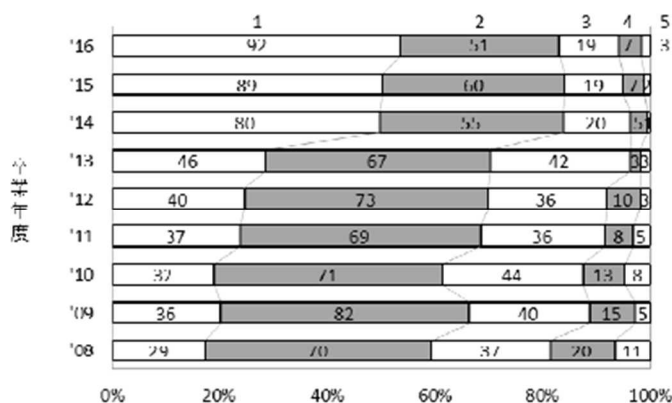
(B43) 今かえりみて、選択したコースは自分にとってよかったですか。

- 1. 思う
 - 2. 思わない
- 意見など：8件



(B48) コース制に対して満足していますか。

- 1. 満足
 - 2. どちらかといえば満足
 - 3. どちらとも言えない
 - 4. どちらかといえば不満足
 - 5. 不満足
- 意見など：9件



[出典：4年生アンケート 集計と分析（平成28年度卒業生）]

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

本評価期間は、いわゆるゆとり教育を経た世代が大学に入学し、卒業していく期間に相当する。この間、卒業生の質を保証し、学部教育の責任を果たすため、各年次で満たすべき条件を厳密に規定する改革を継続的に実行してきたが、高い卒業率と学生の満足度を保っている事は、教育目標の周知が行き届いていることに加え、教育内容の見直し、検討及び変革が絶えず的確かつ順調に行われてきたことを示している。これら改革の実現は、各教員の努力と弛まぬ改善活動によるところが大きいことは自明であり、特筆に値する。

今後も変化が予想される入学者の基礎学力の把握に努め、学業の成果を高い水準に維持していくため、不断に教育内容の見直しおよび検討を行う必要がある。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

本学部においては、卒業生の約半数が大学院に進学し、約半数は教員および公務員志望者と企業就職者である(資料 A-II-2-2-1)。理学のスペシャリストの道を目指すものは、博士前期課程2年間の学修、研究を経験した後多くが希望する道へと進んでおり、6年一貫教育が機能している。

九州地域の自治体に教員や公務員として人材を供給することは本学部の大きな使命の一つである。しかし、特に教員は新卒時での採用は極めて少ないため、準備に2、3年かかる場合も多く、採用の実態を把握することは困難である。学生が自身の適性を見極め、多様な可能性をもつ人材を育成する観点から、教員や公務員以外の職種についてのキャリア教育も充実させる必要がある。

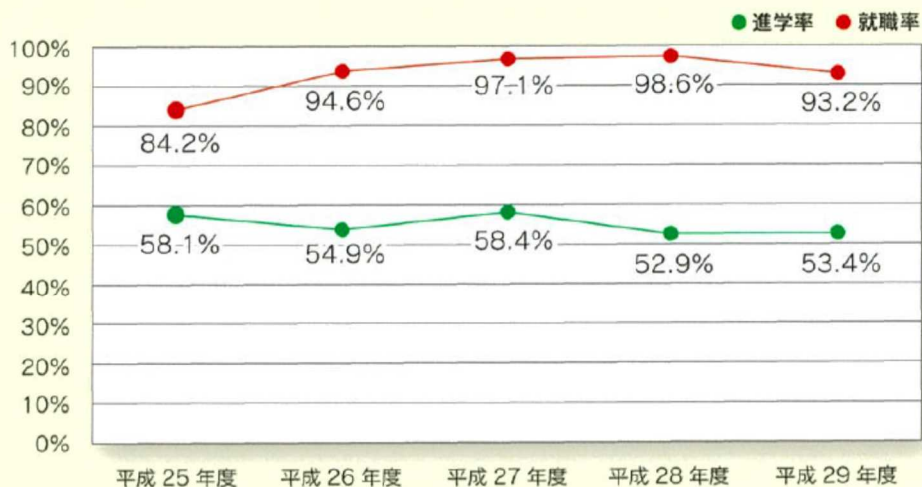
卒業時の進路については、全学的に学務情報システムを通じた把握に努めているが、未入力学生に対しては就職委員長から指導教員へ連絡し、入力率はほぼ100%である。全学の就職率集計はこの入力結果を基にしたものであるが、教員または公務員志望者で卒業後に改めて採用試験を受けるものは進路未定とされる。民間企業希望者の進路未定者はわずかであり、就職率は高い水準で推移している。しかし、相対的に民間企業希望者が少ないためわずかな人数で就職率の数値は大きく変動する。就職率に一喜一憂することなく、学生の希望と企業の欲する人材の動向を正確に掌握し、生かす体制を構築することが重要である。企業の動向については理学部支援企業や地元の経済情報会社等を通して把握に努めている。

学部卒業者が就職する民間企業は、主に情報・金融を含むサービス関連企業の総合職が多い(資料 A-II-2-2-2)。これは一学科制の特徴である理科と数学の幅広い教育を受けた理系ジェネラリストが求められていることの証左と言える。特筆すべきこととして、教員志望者には独自のキャリア科目「教育インターンシップ」を開講している。受講者は、中学または高校での実務体験を通し、教職に対する理解を深め、実践力を身につけることができる(資料 A-II-2-2-3)。

(中期計画番号 1~21)

資料 A-Ⅱ-2-2-1 進学率、就職率（就職者数／卒業生数）、就職希望者の就職率（就職者数／就職希望者数）

理学部の進学率・就職率



理学部の進学率・就職率

	卒業修了者	進学者	進学率	就職希望者	就職者	就職率
平成 25 年度	172	100	58.1%	57	48	84.2%
平成 26 年度	182	100	54.9%	74	70	94.6%
平成 27 年度	185	108	58.4%	68	66	97.1%
平成 28 年度	187	99	52.9%	71	70	98.6%
平成 29 年度	178	95	53.4%	73	68	93.2%

[出典：平成 30 年度理学部案内]

資料 A-Ⅱ-2-2-2 理学部卒業生進路調査結果（平成 26～29 年度）

■求人(就職・進学・その他)別

求人(就職・進学・その他)名称	人数
進学	402
企業就職	173
教職	55
その他	53
公務員	48
不明	1
総計	732

項目	求人	人数
就職	企業就職	173
就職	教職	55
就職	公務員	48
就職	計	276
進学	進学	402
進学	計	402
その他	その他	53
その他	不明	1
その他	計	54
総計	総計	732

■就職(勤務地)

勤務地	人数
熊本県	64
福岡県	57
東京都	41
鹿児島県	22
大分県	21
宮崎県	19
大阪府	13
佐賀県	11
長崎県	11
神奈川県	2
山口県	2
山形県	1
茨城県	1
岐阜県	1
静岡県	1
愛知県	1
京都府	1
兵庫県	1
奈良県	1
鳥取県	1
広島県	1
徳島県	1
愛媛県	1
沖縄県	1
総計	276

■就職(業種別)

業種	人数
学校教育	55
地方公務	38
情報通信業	25
化学工業・医薬品・石油・石炭製品製造業	19
小売業	12
金融業	12
その他の専門・技術サービス業	11
その他のサービス業	11
国家公務	10
卸売業	9
医療業、保健衛生	9
建設業	8
食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	8
保険業	8
電子部品・デバイス・電子回路製造業	6
運輸業、郵便業	6
不動産取引・賃貸・管理業	6
電気・ガス・熱供給・水道業	5
その他の教育、学習支援業	5
その他の製造業	4
電気・情報通信機械器具製造業	2
宿泊業、飲食サービス業	2
農業	1
印刷・同関連業	1
鉄鋼業・非鉄金属・金属製品製造業	1
輸送用機械器具製造業	1
生活関連サービス業、娯楽業	1
総計	276

■就職(職種別)

職種	人数
事務従事者(事務系総合職も含む)	64
販売従事者(営業職含む)	47
教員(高等学校)	45
情報処理・通信技術者(SEなど)	27
その他の専門的・技術的職業従事者(記者、)	10
その他の職業	10
建築・土木・測量技術者	8
教員(中学校)	7
医療技術者	6
保安職業従事者	6
その他の技術者	5
管理的職業従事者	5
サービス職業従事者(家事手伝い、介護職員)	5
製造技術者(開発除く)(化学)	4
製造技術者(開発除く)(機械)	3
製造技術者(開発除く)(電気)	3
製造技術者(開発除く)(その他)	3
農林水産技術者	2
製造技術者(開発)(機械)	2
製造技術者(開発)(電気)	2
製造技術者(開発)(化学)	2
製造技術者(開発)(その他)	2
運搬・清掃等従事者	2
研究者	1
教員(中等教育学校)	1
教員(高等専門学校)	1
教員(特別支援学校)	1
美術家、写真家、デザイナー、音楽家、舞台	1
生産工程従事者	1
総計	276

■進学(決定進路先)

決定進路先	人数
本学大学院	349
他大学大学院	53
総計	402

■その他・不明

その他(内容)	人数
公務員採用試験準備	13
教員採用試験準備	3
進学準備	10
就職活動継続	6
就職の意志無し	8
自営業	4
資格試験受験準備	3
専門学校進学	1
その他	5
不明	1
総計	54

教育インターンシップ実施要領

趣旨・目的	教員を目指す熊本大学理学部4年次学生が、在学中に一定期間、中学校、高等学校において、教師の業務を実際に体験することにより幅広く実践的に学び、教育に対する理解を深め、教師に求められている業務能力を身につける。
対象学生	教育実習を終えた理学部4年次学生で中・高等学校教員志望の学生
実習時間	30時間 又は 60時間
授業科目・単位	インターンシップA（1単位）・インターンシップB（2単位）
成績評価	学生のレポート及び受入校からの報告書を基に教務委員会が行う。 単位の認定は、合格、不合格で表わす。
研修内容	授業等の補助、学級担任業務の補助、クラブ活動や学校行事等の補助、生徒の学習相談等、協力校の職務に関連した補助的職務。具体的内容については協力校と協議の上で計画する。
実施期間	8月～翌年の1月までの間 (但し、協力校の都合で変更することもある。)
実施責任機関	理学部教務委員会
留意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は、学生教育研究災害保険及び学研災付帯賠償責任保険（Aコース）に加入すること。 2. 「インターンシップの心構え」等の事前指導を受けること。 3. 実習謝金、交通費等の経費は原則として支給されない。 4. 他の授業に支障がない範囲で実施すること。

[出典：平成29年度理学部学生便覧]

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

大学院への進学率および就職先の分野から、スペシャリストとジェネラリストを共に育成するという本学部が掲げる教育目標は達成されていると考える。また、行政職公務員や専門分野とは直結しない企業への就職者もあり、自然科学に関する幅広い知識を有機的に結び付け、直面する問題を解決する能力の涵養もできていると判断する。

人材育成体制と検証・見直・変更のサイクルは、十分機能していると考えられる。人材を適材適所に送り出し、個々の能力を十分に発揮できるように社会と結びつける体制を整えている。

4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

改善、向上している

過去4年間、入試制度では推薦入試の廃止、個別試験への英語の導入、グローバルリーダーコース設置に伴うAO入試の導入を行った。学部教育では4年次進級要件の設定・改正などを行った。これらの措置は対象学生の年次進行を待って適用され、さらに授業内容の改善等と相俟って所期の効果を上げている。実態に基づく見直し、改正を継続して行っており、ディプロマポリシーに準拠した卒業生の質保証は着実に進んでいると考える。これらより、教育活動の質は改善、向上していると判断する。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

質を維持している

上述の通り、本学部では専門教育の質を向上し、各年次で満たすべき条件を厳密に規定する方向の改革を継続的に実行してきた。この間、卒業率は変わらず高い水準を維持しており、大学院への進学率も5割前後で推移しつつ卒業生の満足度は上昇している。就職希望者には多様な業種からのニーズがあり、就職希望者の就職率は高い水準を維持している。これらより、教育成果の状況は高い質を維持していると判断する。

IV 社会貢献の領域に関する自己評価書

1. 社会貢献の目的と特徴

本学部は九州地区における理学教育・研究の中核的役割を果たしてきた。また、地理的にも九州中部に位置する国立大学として、熊本県及び隣接する県の郡部や過疎地域における教育機会の拡大と教育の地域間格差の解消に向けた教育支援に積極的に取り組む責務がある。一方、公立及び私立の進学校が熊本市内に集中している状況の中で、男女を問わず理系進学者を数多く増やしてゆくための教育支援体制の確立も喫緊の課題である。さらに、高度に発展を遂げた自然科学分野の研究や科学技術について社会人への学びの機会の提供も本学部が負うべき使命である。このような事情を踏まえて、本学部では、大学の中期目標に沿うべく

- 科学立国及び地域文化の創造に貢献できる人材の養成
- 地域の教育への支援
- 専門知識・経験の提供（教員の所属は先端科学研究部等の別部局のため、個々の業績は所属部局の自己評価書に記載している）

などを通して社会・地域に貢献している。

特に、本学部としては以下のような特徴ある社会貢献を行っている。

- 1) 特定地域教育支援事業
- 2) 学内外の各種科学啓発イベントの企画・実施・運営・参加

また、熊本地震からの復旧・復興を支援するため、先端科学研究部、くまもと水循環・減災研究教育センターと協力し、熊本地震に関する講演会での講師やテレビ等での解説も行った。

[想定する関係者とその期待]

郡部や過疎地域は高等学校や中学校の統廃合により、教育の機会均等が失われつつあり、都市部との地域間の教育格差も広がる傾向にある。一方、熊本県は教育公務員や一般公務員も多く、大学での学び直しを希望する定年退職者も潜在的に多くいる。このように、本学部への地域社会からの要望の多くは教育的支援及び地域への優秀な人材の供給にあると考えられ、想定するステークホルダーとしては以下があげられる。

- 1) 教育機関
- 2) 行政機関
- 3) 地場企業
- 4) 九州地方の小・中・高校生を含む地域住民

このことから想定される本学部への期待は以下になる。

- 1) 優れた人材の輩出
- 2) 理数教育支援
- 3) 各種委員を通しての専門知識・経験の提供

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

特定地域教育支援事業や夢科学探検等の科学啓発イベントを通して長年にわたり社会へ貢献してきている。特に特定地域教育支援事業では、地域の教員との連携を重視し、教員が異動した後の異動先との繋がりも維持している。また、行政と一体になって活動してきたことも本事業の特徴である。

【改善を要する点】

特定地域教育支援事業や夢科学探検等のイベントを今後も継続するとともに、より効果的かつ効率的に実施できるように課題の洗い出しと事業の改善を更に進めていく必要がある。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 大学の目的に照らして、社会貢献及び地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 社会貢献及び地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

(観点到に係る状況)

熊本大学の目的・目標(資料 C-I-1-1-1)と中期目標(資料 C-I-1-1-2)を受けて中期計画(資料 C-I-1-1-3)が策定されている。その目標等に沿って、理学部規則(資料 C-I-1-1-4)に則り「1. 社会貢献の目的と特徴」で挙げた「科学立国及び地域文化の創造に貢献できる人材の養成」等の方針を指針に各教員が以下の活動を進めている。

- ・ 国及び地方公共団体等の審議委員等や学会等での貢献・国や地方公共団体、民間企業との委託研究や共同研究(先端科学研究部の自己評価書に記載)
- ・ 学部授業の開放、出前授業等
- ・ スーパー・サイエンス・ハイスクール(SSH)事業への協力
- ・ 教育職員免許更新講習の講師
- ・ 特定地域教育支援事業
- ・ 学内外の各種科学啓発イベントの企画・実施・運営・参加

これらの活動はホームページ等を通して適切に公表・周知している(資料 C-I-1-1-5)。

(中期計画番号 31~33)

資料 C-I-1-1-1 熊本大学の目的・目標

熊本大学の目的

地域貢献・国際貢献

地方中核都市に位置する国立大学として地域との連携を強め、地域における研究中核的機能及び指導的人材の養成機能を果たす。世界に開かれた情報拠点として、世界に向けた学術文化の発信に努めることにより、地域の産業の振興と文化の向上に寄与する。また、知的国際交流を積極的に推進するとともに留学生教育に努め、双方向的な国際交流の担い手の育成を目指す。

熊本大学の目標

地域貢献・国際貢献

1. 地域社会への貢献

地域社会からの要請を的確に把握し、研究成果の公開、人的交流、諸施設の開放等を通して、産業創成、地域経済振興、教育及び文化の向上、医療・福祉の増進等に積極的に貢献するとともに、教育面における社会サービスの充実を図り、地域に開かれた大学としての役割を果たす。

2. 国際交流の推進

世界に開かれた情報拠点として、各国の大学や研究機関と学術的・文化的交流を積極的に推進するとともに、本学学生を国際社会に送り出し、留学生教育とその支援体制を充実することによって、学術文化の国際的発展に貢献する。

3. 情報公開と広報の推進

大学に対する社会的要請を常に把握しつつ、本学の理念、目的、目標、入学者受入方針、教育内容、研究内容、地域貢献・国際貢献の状況等、社会が求める情報を公表するとともに、地域社会と国際社会に向けて広範な広報活動を積極的に行う。

[出典：熊本大学学則より抜粋]

資料 C-I-1-1-2 中期目標

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

1) 地(知)の拠点として、地域社会と連携し、地方創生に取り組む人材の育成を推進する。また、社会連携、社会貢献活動を積極的に展開し、さらに雇用促進のため地域を活性化する取組を推進する。【目標10】

[出典：熊本大学中期目標]

資料 C-I-1-1-3 中期計画

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するための措置

①「地域のための大学」として、地域を志向した教育・研究を推進するため、大学の組織改革を行い、全学的な教育改革に取り組み、学生の地域に関する知識・理解を深める。地域の幅広い分野の知識・理解を深める科目として、平成29年度に新生全員を対象とした全学必修科目の「肥後熊本学」を開講する。また、地域志向の科目を現在31科目から平成30年度には35科目に増やし、内容の充実を図る。さらに、地域課題に深く取り組めるように課題解決型の科目を平成30年度までに新規に5科目増やし、地域で学び、創造力をもって地域の課題に挑戦し、社会に貢献する人材育成を行っていく。また、地域の課題(ニーズ)と大学の資源(シーズ)の効果的なマッチングによる地域の課題解決に向けた取組を進める。【計画番号31】

②個性豊かで活力のある地域社会の維持・発展と有能な人材の育成・確保のため、地方自治体等と恒常的な対話や人事交流等により連携し、大学のシンクタンク機能を活かした社会課題解決への貢献や知の社会還元、文化振興への貢献機能を強化するとともに、学生・教職員が大学の機能を活かした活動などを展開し、「一般社団法人大学コンソーシアム熊本」や「くまもと都市戦略会議」の事業等へ貢献していく。【計画番号32】

③生涯学習、社会人教育を充実させるため、公開講座、短期プログラムである「知のフロンティア」、さらに、全学で協力して行っている授業開放を推進するとともに、e-learningを活用した社会人のための教育プログラムを開発し、県外在住者や働く世代への受講を促進し、授業開放等の総科目数を平成27年度実績に対して、第3期中期目標期間に、10%増加する。【計画番号33】

[出典：熊本大学中期計画]

資料 C-I-1-1-4 理学部における目的

第1章 総則

(教育研究上の目的)

第1条の2 本学部は、自然科学に対する幅広い知識と豊かな国際性・創造性を持ち、課題探求能力を備え、科学立国及び地域文化の創造に貢献できる人材を養成することを目的とする。

[出典：熊本大学理学部規則より抜粋]

資料 C-I-1-1-5 理学部における、研究の目的と特徴の公表

理学部について

研究の目的と特徴

熊本大学理学部での研究は大学院自然科学研究科との連携・協力のもと行なわれ、地球環境共生と豊かで活力ある社会の持続的発展に貢献できる独創的かつ先導的な学術研究を推進し、高度な学術研究拠点を構築することを目指している。

<http://www.sci.kumamoto-u.ac.jp/about/research.html>

[出典：熊本大学理学部ホームページ]

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 本学の中期目標・中期計画に則り、独自の目的・目標のもと計画を策定し、イベントの実施に関しては公表している。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

個々の計画にそって下記の通り適切に実施されている。

- ・ 国及び地方公共団体等の審議委員等として、専門知識を提供することで社会に貢献している (教員が所属している先端科学研究部の自己評価書に記載)。
- ・ 国や地方公共団体、民間企業との委託研究や共同研究も進め、学会に対する貢献も大きい (先端科学研究部の自己評価書に記載)。
- ・ 学部授業の開放、出前授業等も積極的に進め、理学系の授業を受ける機会を地域に提供している。(資料 C-I-1-2-1 および 2)。
- ・ 体験学習、課題研究の指導、留学生による英語での実験授業、講演などスーパー・サイエンス・ハイスクール (SSH) 事業へ協力を行っている (資料 C-I-1-2-3)。
- ・ 教育職員免許更新講習に協力している (資料 C-I-1-2-4)。
- ・ 平成 19 年度から実施している特定地域教育支援事業は、平成 26~29 年度の期間も事業を継続して実施している (資料 C-I-1-2-5)。本事業は、学長裁量経費から援助を受けており、年度計画は特定地域の行政・教育機関との間で共有しており、イベント等の関係者への公表・周知はその都度共同で遅滞遺漏なく行っている。
- ・ 熊本における「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+ 事業) の教育科目の開講を進めている (資料 C-I-1-2-6)。
- ・ 学内外の各種科学啓発イベントの企画・実施・運営・参加を数多く行っている (資料 C-I-1-2-7)。大学院・工学部と共に毎年開催している夢科学探検は、小学生から一般市民までの参加者が様々な演示実験を体験し、「科学」への理解と興味を持つきっかけをつくることを目的としている。このイベントは「夢化学探検'94」以来実施し、平成 12 年度からは広く「科学」に触れるため「夢化学」を「夢科学」と名称変更し、現在に至っている。さらに、平成 19 年度からは大学祭の期間中に開催している (資料 C-I-1-2-8)。オープンキャンパスも毎年開催している (資料 C-I-1-2-9)。女子中高生の理系進路選択支援事業として、講演会や相談会も行っている (資料 F-I-1-1-1 (137 頁)、F-I-1-1-2 (138 頁))。
- ・ 熊本地震からの復旧・復興に関し、熊本地震に関する講演会での講師やテレビ等での解説も行った。

(中期計画番号 31~33)

資料 C-I-1-2-1 授業開放科目実績

学部	学期	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
理学部	前学期科目数	4	6	7	7
	後学期科目数	12	14	11	11
計		16	20	18	19

[出典：理学部教務担当資料を基に作成]

資料 C-I-1-2-2 出前授業・わくわく授業実績

理学部出前授業実績（ワクワク連続講義を含む）			
平成28年度			
実施日	出前授業先	分野	授業担当者
7月7日	杵築高校	数学	山田 裕史
7月8日	人吉高校	地球	渋谷 秀敏
7月9日	水俣高校(ワクワク)	地球	一柳 錦平
7月23日	OSSフェスタ (主催者:大分スーパーサイエンスコンソーシアム)	数学	濱名 裕治
8月8日	大分舞鶴高校	地球	長谷中 利昭
9月16日	唐津東高校	数学	山田 裕史
9月29日	三池高校	化学	西野 宏
10月25日	熊本県立西高校	地球	吉朝 朗
10月28日	鶴丸高校	数学	杉崎 文亮
11月5日	鹿本高校(ワクワク)	数学	濱名 裕治
11月12日	玉名文化センター(ワクワク)	物理	市川 聡夫
12月21日	八女学院高校	数学	木村 弘信
2月6日	KTC中央高等学院	地球	吉朝 朗
平成29年度			
実施日	出前授業先	分野	授業担当者
6月10日	九州国際大学付属高校	数学	山田 裕史
6月17日	やつしろハーモニーホール (ワクワク)	地球	渋谷 秀敏
7月1日	第二高校	数学	杉崎 文亮
7月6日	熊本北高校	化学	戸田 敬
7月7日	人吉高校	地球	磯部 博志
7月8日	水俣高校(ワクワク)	物理	市川 聡夫
7月13日	熊本北高校	物理	高橋 慶太郎
7月28日	諫早高校	物理	小澄 大輔
8月25日	天草高校	物理	市川 聡夫
10月13日	中津北高校	数学	濱名 裕治
10月20日	必由館高校	数学	成田 宏秋
10月30日	熊本西高等学校	化学	西野 宏
1月15日	高松第一高校	数学	濱名 裕治
1月31日	熊本高校	物理	原 正大
3月9日	小郡高校	地球	秋元 和實

[出典：理学部教務担当資料を基に作成]

資料 C-I-1-2-3 SSH 体験学習講座

年度	日付	研修
2014	2014/12/13	第二・熊本北・宇土高等学校 SSH 体験学習講座
2015	2015/12/5	第二・熊本北高等学校 SSH 体験学習講座
2016	2016/6/17	宮崎北高等学校サイエンス研修（地震のため中止）
	2016/9/15	熊本県立宇土高等学校 SSH 講義・実験講習会
	2016/12/10	熊本北高等学校 SSH 体験学習講座
2017	2017/6/15	宮崎北高等学校サイエンス研修
	2017/12/9	熊本北高等学校 SSH 体験学習講座

[出典：SSH 担当者資料]

資料 C-I-1-2-4 教育職員免許更新講習

学部	対象者	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
理学部	中・高数学	1 講座	1 講座	1 講座	-
	中・高理科	1 講座	1 講座	2 講座	1 講座
計		2 講座	2 講座	3 講座	1 講座

[出典：理学部教務担当資料を基に作成]

資料 C-I-1-2-5 特定地域教育支援事業

H26(2014)年度 特定地域教育支援室活動報告		
年月日	活動内容、審議事項など	備考
2014/5/10 -11	熊本大学理学部新入生合宿研修（天草青年の家） 高森高校から生徒が参加し、大学生との交流を通して大学を身近に感じ、進学意識を高めた	高森高校生3名、引率教諭1名、合宿研修しおりあり
2014/5/26 -	高森高校の総合的な学習の時間（「やまびこプラン」）における個別課題（調査研究）に協力して、韓国の英語教育について、韓国からの留学生に質問に答えてもらった。	5月に打診があり、夏に具体的な質問が電子メールで送られ、生物の留学生に回答してもらった。全て電子メールでのやり取り。南郷塾寺子屋で高校生と留学生が直接会うことも検討した。
2014/8/5	第3学年夏季学習合宿における進路講演（鹿本高校） 杖立温泉で実施される鹿本高校第3学年夏季学習合宿において、文系および理系の進学希望者に対して、生徒が取り組むべき課題や大学に関する理解を深めさせ、大学進学に繋げることを目標とする。	大熊図書館長（文学部）、古島
2014/8/8	南郷塾寺子屋（高森高校）計画は以下の通り 教員6名、技術職員1名、学生14名（内文学部留学生5名）が参加し、高森高校、近隣中学校の生徒に対して、熊大生による夏休みの課題の補助、勉強の仕方の講話を通して、勉強意欲や意識の向上を図る。午後からは近隣小学校の児童も参加し、科学実験教室を行う。	台風接近のため中止 参加予定者は、大学生8名、大学院生1名、文学部留学生5名、古島、高宮、佐藤、濱名、水元、島本、市川
2014/8/20	出張授業（鹿本高校） 数学の問題解法について出前授業を行った	古島
2014/11/16	おもしろ・ふしぎ科学実験教室～数学・理科で解き明かす～ with 阿蘇中央高校科学部 教員3名、学生7名が参加し、阿蘇中央高校の文化祭にあわせて科学実験教室を阿蘇中央高校の科学部と合同で開催した。近隣小中高校の児童・生徒、および保護者などに対して、科学の面白さを紹介した。	新聞記事あり 大学生7名、阿蘇中央高校科学部4名、古島、佐藤、市川
2014/12/18	進路講演会および第1回会合（牛深高校） 講演会1「看護医療の仕事について」 講演会2「大学で学ぶ意義（学問の意義）」 講演会終了後、牛深河浦地区の教育関係者と今後の活動に関して意見交換を行った。	講演会参加生徒79名（牛深高校38名、河浦高校31名） 牛深高校5名、河浦高校3名、牛深中学2名、牛深東中学2名、河浦中学2名、九州中央リハビリテーション学院、古島、佐藤、市川
2015/2/25	1・2年生対象進路説明会 「熊本大学の学びの精神に触れる」（阿蘇中央高校） 大学での教育や大学の授業、生活などについて、講演を行った。	古島
2015/3/13	熊本大学訪問（熊本大学） 高森高校の1、2年生10名が熊本大学を訪問し、勉強意欲や進路意識の向上を図る「熊本大学訪問」を実施した。この事業には文学部、医学部（保健学科）の協力も得た	実施要項あり 高森高校生1年7名、2年3名 理学部院生1名、学生1名、文学部、医学部保健学科が協力
2015/3/18	「教育支援による地域活性化事業」情報交換会（高森高校） 平成26年度事業報告 平成27年度事業・運営計画 来年度以降の本事業について 古島、高宮、市川が参加し、高森町教育委員会、高森町の小中高の教員と意見交換を行った。次年度の南郷塾寺子屋を8月10日に開催することに決定した。	佐藤高森町教育長、阿部事務局長、堺審議員、高森高校3名、高森中学1名、高森東中学1名、高森中央小学校1名、高森東小学校1名、古島、高宮、市川
2015/3/24	高千穂高校との意見交換会 古島、佐藤が高千穂高校を訪問し、特定地域教育支援事業の進め方について、高千穂高校の校長はじめ執行部と意見交換を行った。	古島、佐藤

H27(2015)年度 特定地域教育支援室活動報告		
年月日	活動内容、審議事項など	備考
2015/5/9 -10	熊本大学理学部新入生合宿研修(天草青年の家) 高森高校から生徒が参加し、大学生との交流を通して大学を身近に感じ、進学意識を高めた	高森高校生4名、引率教諭2名(うち1名は初日のみ参加)
2015/6/30	特定地域教育支援室会議	構成員全員が参加
2015/7/7	南郷塾寺子屋の打ち合わせ会(高森高校)	熊大からは高宮、市川が参加
2015/8/10	南郷塾寺子屋(高森高校) 高森高校、近隣中学校の生徒に対して、熊大生による夏休みの課題の補助、勉強の仕方の講話を通して、勉強意欲や意識の向上を図る。午後からは近隣小学校の児童も参加し、科学実験教室を行う。 高千穂高校から見学	高校生26名、中学生26名、小学生31名 熊大からは学生・院生11名(内留学生2名)、教員5名、技術職員2名参加
2015/9/30	特定地域教育支援事業における「出張授業」 「大学の数学からみた高校の数学-数学の学び方-」(ベクトルと複素数、微積分学の基本定理等)	古島幹雄教授が授業 参加生徒45名(鹿本高43名、鹿本中1名、城北高1名) 高校教諭約10名
2016/1/21	熊大訪問 生徒の進路選択にあたり、熊本大学への訪問を通して勉強意欲や進路意識の向上を図る目的で、高森高校の生徒2年生6名、1年生4名が熊本大学を訪問した。午前は黒髪キャンパス、本荘キャンパスで大学の授業を参観。午後は図書館および五高記念館を見学した。	高森高校生10名、引率教員2名 文学部、保健学科、理学部で対応 理学部の院生3名(寺子屋参加者)が午後参加
2016/3/1	学生と地域が協働して行う活動の状況についての調査に特定地域教育支援活動を報告	
2016/3/18	熊本大学「教育支援による地域活性化事業」に関する情報交換会 熊本大学と高森地域の教育委員会および小中高の代表が集まり、今年度の事業の報告、来年度の計画そして意見交換を行った。来年度も今年度と同じ取組を行うこと、南郷塾寺子屋の開催時期を8月8日～10日の期間に実施することを確認した。 グローバルリーダーコース入試の周知も行った。	高森地域からは、高森町教育委員会、高森高校、高森中学校、高森東中学校、高森中央小学校、高森東小学校の代表が参加 熊本大学からは、高宮、水元、市川の3名が参加
2016/3/18	熊本大学「教育支援による地域活性化事業」に関する情報交換会 来年度の計画及び意見交換を行った。寺子屋を高森地域と連続して開催するように計画を立てることを確認した。 なお、情報交換会に先立ち、17時より高千穂高校の生徒と懇談会を行い、高校生からの大学での教育研究および生活などについての質問に答えた。グローバルリーダーコース入試の周知も行った。	高千穂高校1、2年生8名 高千穂地域からは、高千穂町教育委員会、高千穂高校、高千穂中学校、高千穂小学校の代表が参加 熊本大学からは、古島、高宮、水元、市川の4名が参加

H28(2016)年度 特定地域教育支援室活動報告		
年月日	活動内容、審議事項など	備考
	本年度より講座からの選出をやめ、必要に応じて室長が室員を指名することとした。 平成28年度熊本地震のため、学長戦略経費の減額に対応して、「熊本大学南郷宿寺子屋」に活動を集中させることとした。	
2016/7/5	南郷塾寺子屋の打ち合わせ会(高森高校)	熊大からは高宮、市川が参加
2016/8/8	熊本大学連携南郷塾寺子屋(高森高校) 高森地域、南阿蘇地域の中高生の生徒に対して、熊大生による夏休みの課題の補助、勉強の仕方の講話、留学生との異文化交流を通して、勉強意欲や意識の向上を図る。午後からは小学校の児童も参加し、科学実験教室を行う。	高校生27名、中学生26名、小学生94名(参加予定者数) 熊大からは学生・院生11名、留学生5名、教員5名、グローバル教育カレッジコーディネーター1名 当日参加 教員2名(教育学部、グローバル教育カレッジ)
2016/12/2	特定地域教育支援事業における「出張授業」 「大学入試センター試験(数学)問題解説」	古島幹雄教授が授業 参加生徒54名(鹿本高校3年生)

2017/1/31	熊大訪問 生徒の進路選択にあたり、熊本大学への訪問を通して勉学意欲や進路意識の向上を図る目的で、高森高校の生徒2年生3名、1年生15名が熊本大学を訪問した。午前の本荘キャンパス（医学部保健学科）、午後は黒髪キャンパス（附属図書館、文学部、理学部）を訪問した。	高森高校生18名、引率教員1名 文学部、保健学科、理学部で対応 理学部の4年生1名（寺子屋参加者）、文学部学生3名が午後参加した。
2017/3/22	高千穂高校で来年度の特定地域教育支援事業の計画及び意見交換を行った。寺子屋を高森地域と連続して開催するように計画を立てることを確認した。 12:45～14:00	高千穂高校 校長先生、教頭先生 吉玉先生 熊本大学からは、ランダーさん、市川の2名が参加
2017/3/22	熊本大学「教育支援による地域活性化事業」に関する平成28年度事業報告および平成29年度計画のための意見交換会 熊本大学と高森地域・南阿蘇地域の教育委員会および小中高の代表が集まり、今年度の事業の報告、来年度の計画そして意見交換を行った。来年度も今年度と同じ取組を行うこと、南郷塾寺子屋の開催時期を8月7日に実施することを確認した。 15:00～16:20	高森地域からは、高森町教育委員会、高森高校、高森中学校、高森東中学校、高森中央小学校、高森東小学校の代表が参加 南阿蘇地域からは、南阿蘇村教育委員会から参加があった。 熊本大学からは、ランダーさん（グローバル教育カレッジ）、市川の2名が参加

H29(2017)年度 特定地域教育支援室活動報告		
年月日	活動内容、審議事項など	備考
	昨年度より講座からの選出をやめ、必要に応じて室長が室員を指名することとした。 学長戦略経費に採択され、「熊本大学南郷宿寺子屋」と「高千穂塾」の活動を実施することとした。	
2017/7/5	熊本大学連携南郷塾寺子屋に関する担当者打ち合わせ会（高森高校）	熊大からは市川が参加
2017/8/4	台風5号接近のため、高森高校と高森町教育委員会で相談して「熊本大学南郷塾寺子屋」の中止を決定した。	
2017/8/7-8	熊本大学高千穂塾（高千穂高校） 高千穂地域と連携による地域教育の活性化および国際化の一層の推進を図るために、この地域の拠点校である高千穂高校との交流をベースとして本プロジェクトを実施した。 第1日目：留学生が天岩戸神社及び天岩戸見学、夕食時高千穂神楽を鑑賞 第2日目：高千穂峡観光（中高生による英語の案内）、剣道見学、高千穂小見学、高校生進路支援	高校生27名、中学生26名、小学生94名（参加予定者数） 熊大からは学生4名、留学生10名、教員2名
2017/10/28	高森高校文化祭における科学実験教室	熊大からは市川、大学生1名大学院生3名
2018/1/25	熊大訪問 生徒の進路選択にあたり、熊本大学への訪問を通して勉学意欲や進路意識の向上を図る目的で、高森高校の生徒1年生20名が熊本大学を訪問した。午前中に黒髪キャンパス（文学部、附属図書館）を訪問した。	高森高校生20名、引率教員1名 文学部、法学部、教育学部、理学部で対応
2017/3/22	熊本大学「教育支援による地域活性化事業」に関する平成29年度事業報告および平成30年度計画のための意見交換会 熊本大学と高森地域・南阿蘇地域の教育委員会および小中高の代表が集まり、今年度の事業の報告、来年度の計画そして意見交換を行った。来年度も今年度と同じ取組を行うこと、南郷塾寺子屋の開催時期を8月2日に実施することを確認した。 15:00～16:00	高森地域からは、高森町教育委員会、高森高校、高森中学校、高森東中学校、高森中央小学校、高森東小学校の代表が参加 南阿蘇地域からは、南阿蘇村教育委員会から参加があった。 熊本大学からは、ランダーさん（グローバル教育カレッジ）、市川の2名が参加

[出典：理学部年報 特定地域教育支援室報告]

資料 C-I-1-2-6 COC+科目 (平成 30 年度)

地域志向科目(Step1)				
設置部	開講年次	単位数	授業テーマ	授業科目名
教養教育	1	1	熊本の水環境	肥後熊本学
	1	1	熊本の火山と地震	肥後熊本学
	1	1	火山を究める1	地球環境科学の最前線g
	1	1	火山を究める2	地球環境科学の最前線h
	1	1	実験で知る青い惑星1	地球環境科学の最前線c
	1	1	実験で知る青い惑星2	地球環境科学の最前線d
	1	1	はじめて学ぶ海洋学	地球環境科学の最前線b
地方創生科目(Step2)				
設置部	開講年次	単位数	授業テーマ	授業科目名
理学部	3	2	水文学	水文学
	3	2	海洋生態多様性学	海洋生態多様性学
地方創生インターンシップ/地方創生フィールドワーク(Step3)				
設置部	開講年次	単位数	授業テーマ	授業科目名
理学部	2	1	理学概論	理学概論
	3,4	1	インターンシップ	インターンシップA
	3,4	2	インターンシップ	インターンシップB

資料 C-I-1-2-7 学内外の各種科学啓発イベントの開催・参加状況

年度	月日	イベント
2016 年度	2016/4/29~5/6	熊本地区博物館復旧支援活動 (阿蘇・御船・松橋)
	2016/6/30	物理工作室安全講習会
	2016/7/24	イベント「宇宙を学べる大学 in 九州」
	2016/8/6	第 23 回化学実験講習会
	2016/8/6~8/7	青少年のための科学の祭典・熊本大会
	2016/8/11	地質の日イベント『くまもとの大地』 展示・体験イベント
	2016/9/15	熊本西高校理数科化学実験講習会
	2016/10/23	第 67 回熊本県高等学校生徒理科研究発表会サイエンスコンテスト 2016
	2016/11/6・12/4	公開実習「遺伝子を見てみよう」
	2016/11/8	熊本西高校地学研修 (御船・西原・立野)
	2016/11/25~26	熊本県高校地学部会秋季総会 (熊大理学部)・巡検会 (阿蘇)
2017 年度	2017/5/14	地質の日イベント「身近に知る『くまもとの大地』」 展示・体験イベント
	2017/5/16~19	熊本学園大付属中学校職場体験学習
	2017/8/19~8/20	青少年のための科学の祭典・熊本大会
	2017/9/20	熊本西高校理数科化学実験講習会
	2017/10/31	熊本西高校地学研修 (御船・西原・立野)
	2017/10/31	熊本県高校地学部会秋季総会 (熊大理学部)・巡検

		会（益城, 阿蘇）
2017/12/15		熊本市黒髪幼愛園一出張夢科学探検「色と光のサイエンス」
2017/12/17		公開実習「遺伝子を見てみよう」

[出典：理学部年報]

資料 C-I-1-2-8 夢科学探検



<http://www.chem.kumamoto-u.ac.jp/act/yume2017.html>

[出典：熊本大学ホームページ夢科学探検]



[出典：夢科学探検パンフレット(抜粋)]

資料 C-I-1-2-9 オープンキャンパス

Kumamoto University
Faculty of Science, Kumamoto University
理学部 OPEN CAMPUS 2017
オープンキャンパス

理学部オープンキャンパスへのご来場ありがとうございます。
このオープンキャンパスは、理学部で行われている教育と研究の一部を紹介して、これから大学を目指す高校生皆さんに、熊本大学とはどのような大学なのか、理学部では何を学べるのか、どのような研究に取り組んでいるのかを知ってもらうために、企画しました。
熊本大学理学部では、専門基礎を学習した上で、納得してコースを選択する1学科制による教育を行っています。この理学部の特徴ある教育カリキュラムや各コースの説明、各種展示、演習実験、進路相談などを行っていますので、ぜひとも理学部の雰囲気を感じてください。

理学部長 市川 聡夫

2017 8.5 (SAT)
〈受付〉9:00~11:30, 13:00~14:30
〈開催〉9:30~12:00, 13:00~15:00

理学部オープンキャンパスの歩き方

CHECK 「ようこそ熊本大学理学部へ」は、ぜひ聴いてください。
3つの講義室のどれかに行ってください。
理学部で行われている教育システムを説明します。
数学・物理・化学・地学・生物のどのコースに迷いを決めていない人には、「コース説明会」がたいへん貴重な情報となります。こちらも合わせて聴いてください。
オープンキャンパスでは好奇心が一番です。
中のページに書かれたタイトル・内容から、興味のあるものを見てください。
見たい展示や演習実験が決まったら、最後のページの地図で会場を確かめてください。
会場はいくつかの建物に分かれています。色別に見学建物と館を確かめてください。
それぞれの展示内容と開始時刻は、中のページのリストに○で示しています。
開始時刻を確かめてください。

理学部オープンキャンパスホームページ
http://www.sci.kumamoto-u.ac.jp/open_campus/

QRコードを使って、各建物の詳細マップを見よう

[出典：理学部オープンキャンパスパンフレット(抜粋)]

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 本務である教育研究業務に加えて、授業開放・出前授業の実施、SSH 事業への協力、教育職員免許更新講習の講師、科学啓発イベントの企画・実施・運営等、様々な種類の社会貢献を通じた活発な活動が行われている。特定地域教育支援事業は通常の高大連携事業とは一線を画したユニークな事業であり、地域の教育機関と連携して事業を展開していることは特筆に値する。

観点 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

(観点に係る状況)

授業開放・出前授業の実施、SSH 事業への協力、教育職員免許更新講習の講師、科学啓発イベントの企画・実施・運営・参加の全てについて継続して実施されており、活動の成果は上がっている。特に地域貢献活動においては第1期中期目標期間から継続して実施し、実績と継続が活動の成果である。ワクワク研究室訪問(資料 C-I-1-3-1)、教員免許更新講習(資料 C-I-1-3-2)、特定地域教育支援活動(資料 C-I-1-3-3)、公開実習(資料 C-I-1-3-4)でのアンケート例等を示す。資料のレポートや感想文等を数値的に判断することは難しいが、全体的に好意的に受け止められている。平成28年度に行われた理学部説明会のアンケートでは、参加して有意義だったとの回答が97%であった。オープンキャンパスは理学部で1000名以上を迎え入れており、全学部でのアンケート結果として、「進学意欲が高まった」「進学したいと思った」の合計が90%を超えている。夢科学探検にあっては、毎年2500名前後の小・中・高生および保護者等が継続して参加していることから、事業と

して認知されており、参加者の満足度は高い（資料 C-I-1-3-5）。また、夢科学探検のアンケート例（資料 C-I-1-3-6）のようにアンケートでは要望を汲み取っており、それらを元に各教員が改善を図っている。

（中期計画番号 31～33）

資料 C-I-1-3-1 ワクワク研究室訪問 レポート

ワクワク研究室訪問 レポート	
タイトル	植物の突然変異について
高等学校名	熊本信愛女学院高等学校（2年）
訪問日時	2017年 7月12日 13時30分 ～ 14時30分
教員名 （訪問先）	武智 克彰 先生 （理学部 理学科）
<p>植物について、突然変異は土地の成分や気候によって生まれにくいことが分かりました。一番の原因は放射線によるもの、または自然に生じるの、2パターンだということについては、やはり突然変異は起こりにくいものなのだと思います。</p> <p>おもしろいと感じたのはDNAの複製の際に起きてしまう突然変異でした。人間はまれに身体的、精神的に障がいをもって産まれてくるものだと思っていましたが、実はそうではなくて、かなりの確率でできやすいということでした。</p> <p>また、突然変異の身近な例で挙げられた、葉の●入りも突然変異だということに驚きました。私はただ単に何かしらの病気や、もしくは葉を虫に食べられてしまったのかと思っていました。</p> <p>生物で習う葉緑体にも普段目にする緑色のものだけでなく、有色体や白色体、アミロプラストなどにプロプラスチドから変化しそれぞれで機能していることは初耳で植物は私達の知らないことがたくさんあり、おもしろいと思いました。今回、大学研究室訪問にて、私達の質問に丁寧かつおもしろくて分かりやすい説明をありがとうございました。</p>	

[出典：熊本大学平成 29 年度高校生のための熊大ワクワク事業の記録より抜粋]

資料 C-I-1-3-2 教員免許更新講習のアンケート結果の例

問1 講習の手段（プレゼンテーションソフトの使用、資料、板書、プロジェクター、マイク等）は、有効でしたか。
①有効だった ②少し有効だった ③あまり有効でなかった ④有効でなかった

問2 学校に帰ってからの自分の教育実践に生かせる内容はありましたか。
①あった ②少しあった ③あまりなかった ④なかった

問3 教師としての幅広い教養や専門性を磨くのに役立ちましたか。
①役に立った ②少し役に立った ③あまり役に立たなかった ④役に立たなかった

		I 各講習内容についての回答欄					
		問1（講習の手段）		問2（実践への役立ち度）		問3（幅広い教養や専門性）	
午前	①	14人	73.7%	14人	73.7%	15人	78.9%
	②	4人	21.1%	5人	26.3%	4人	21.1%
	③	1人	5.3%				
	④						

[出典：教職免許更新講習アンケート]

資料 C-I-1-3-3 特定地域教育支援事業に参加した生徒の感想文

私は熊本大学の見学に行った。在学中の大学と話しして一番印象に残っているのは、文部部や理部部には様々な学科があり、自分の希望に合わせた学科を選べるという点だとも思っています。熊本大学は自分には程遠い存在だと思っていましたが、こちらの自分の習得したい分野は入りたいと思っていました。特にコミュニケーション情報学科が面白く思いました。英語だけを集中的に学ぶだけだと思っていましたが、英語は英語でも将来の使い方に合わせて自分に合った勉強プランを立てられるというところが面白く思いました。大学生の方の話を聞くと、4年間はあっという間に過ぎて自分のしたいことをした方が面白いという話を聞きました。そして4年間を終えるのも何か一つでも熱中できることを見つけておくべきだとも思いました。熱中できる分野は必ずしも、熱中してこそ結果を出せばよいというわけではなく、アタリをつけておくことも、大学生は知識以外に熱中できることを見つけておくべきだとも思いました。私も早くに決まらなければ、自分の熱中できることを見つけておくべきだとも思っています。そして、自分も早くに学校生活を送りたいと思っています。

[出典：熊本県立高森高等学校から送付された生徒からの感想文]

資料 C-I-1-3-4 公開実習「遺伝子を見てみよう」のアンケート例

お名前 XXXXXXXXXX

この実習の案内ポスターを高校に配布しましたが、見ましたか？
見た方は、高校の中のどこで見ましたか？

教室、部室

ポスターを見たことがない方にお尋ねします。この公開実習が開催されることを何で知りましたか？

どうしてこの実習に参加してみようと思いましたが？

部活の先生にすすめられたから

今回の実習内容の他に体験してみたいことがありましたら教えてください。

電子顕微鏡でDNAを見てみたい。

今回の実習に対する感想を書いて下さい。また、ご要望、ご意見がありましたら、書いて下さい。

遺伝や遺伝子、タンパク質について
高校で習った所をより深く理解
しなおすことができ、生物や遺伝子
に対する興味が増えたとしても貴重な
体験でした。

ご協力ありがとうございました。今後の参考にさせていただきます。

[出典：公開実習「遺伝子を見てみよう」アンケートから]

資料 C-I-1-3-5 夢科学探検のアンケート

設問 7 次も「夢科学探検」に参加したいと思いますか？

	項目	集計
2016年	参加したい	398
	参加しない	1
	項目	集計
2017年	参加したい	375
	参加しない	2

[出典：夢科学探検アンケート]

資料 C-I-1-3-6 参加者等のニーズの具体的事例等

設問 6. 今後みてみたい、やってもらいたい実験などがありましたら教えてください。

- ・あみもの ・うずらのふか ・化学系 ・火薬の実験 ・キーホルダーづくり
- ・けんぴきょうをつかったもの ・子供が将来、興味をもてる様な実験
- ・じしゃくのふしぎ ・じぶんで何かをつくるじっけん
- ・食品を扱っての実験 添加物等 ・スーパーボールづくり ・スライム作り
- ・ソーラーパネルをつかいたい ・ちょうでんどう ・手品のひみつ
- ・でんじろう先生の実験みたいなの ・ドライアイスのじっけん
- ・ドローンの飛行 ・ねつききゅう ・花火等
- ・ピタゴラスそうち ・ペットボトルロケット
- ・マシュマロを作ったりしたい ・ミニプログラミング教室
- ・モーターのふね ・有機合成 ・ロケットひこうき

[出典：夢科学探検アンケートより(抜粋)]

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 活動が継続して実施されていること、アンケート等で好意的な評価が多いことから、期待される水準にあると判断した。

観点 改善のための取組が行われているか。

(観点到に係る状況)

平成 26 年度の自己評価書・改善計画書(資料 C-I-1-4-1、E-II-2-3-2 (123 頁)) の記載に従い、個々の取り組みごとに、無理せず継続して実施する方策の改善を弛まなく行っている。特に特定地域教育支援活動に関しては、活動を活発に実施した地域においては、年度末に意見交換会(反省会)を実施し実施内容の点検を行っている。それをもとに、計画の見直しを行い、実施時期や実施内容、周知方法など取組みの改善を行っている(資料 C-I-1-2-5)。夢科学探検に関しては、大学祭開催時期の 11 月上旬に、理学部の全ての分野が参加する大きな科学啓発イベントに発展した(資料 C-I-1-3-5)。これらの事業については、学長裁量経費等の支援を受けつつ、今後とも継続可能である。

(中期計画番号 31~33)

資料 C-I-1-4-1 自己点検・評価書の該当箇所

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【改善を要する点】

特定地域教育支援事業や夢科学探検等のイベントを今後も継続し、より効果的かつ効率的に実施できるように見直しと改善を加え続ける必要がある。

[出典：平成 26 年度自己評価書より(抜粋)]

(水準) 期待される水準にある

(判断理由) 特定地域教育支援事業では、毎年取り組みの見直しを行っている。授業開放・出前授業の実施、SSH 事業への協力、教育職員免許更新講習の講師、科学啓発イベントの企画・実施・運営等についても、アンケート結果等から改善に取り組み、社会・地域へ貢献している。

4. 質の向上度の分析及び判定

分析項目 I 大学の目的に照らして、社会貢献及び地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

質を維持している。

授業開放・出前授業の実施、SSH 事業への協力、教育職員免許更新講習の講師、科学啓発イベントの企画・実施・運営等、様々な種類の社会貢献活動に継続して参画協力している。全学からの要請以外に独自の特定地域教育支援事業を展開していることは特筆に値する。また、アンケート結果等を用いて各事業内容の見直しを毎年実施している。

V 国際化の領域に関する自己評価書

1. 国際化の目的と特徴

基礎科学の知識を持ったグローバル人材の養成は本学部が果たすべき重要な使命である。これには、日本人学生のグローバル化と海外留学生の教育という2つの側面がある。日本人学生のグローバル化に関しては、海外留学支援を続けていくと共に、平成26年度に採択された文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業の一環としてグローバルリーダーコース(GLC)を平成29年度に新たに設置した。GLCは初年度の入学生がまだ在学中であり教育の効果がわかるのにはまだ数年が必要と思われる。在学中に海外留学を希望する学生や卒業後にグローバル人材として国内外で活躍を願う学生に対して、国際標準の専門性ととも、共通言語である英語の運用能力を高め、現地(現場)に於いてもグローバル思考・ローカル展開できる人材育成を目的として国際化を進めている。

本学部が提供する理学専門教育はその内容や教授方法において高水準にあり、急速に発展している東南アジア地域からの留学生の質保証の観点からも十分に対応できている。また、留学生の教育や研究指導を通して本学部の教育・研究の水準の高さを発信することでアジア地域に向け本学部の教育研究力をアピールする狙いもある。同時に、学術面だけでなく、熊本をはじめ九州の各地域の文化や風土に触れることで、日本の文化や社会に対する理解を深めてもらうことで、九州地域の国際化へも貢献したい。

〔想定する関係者とその期待〕

熊本県や熊本市は国際交流を積極的に推進しており、特に、多数の留学生の受け入れは本学部に限らず県内のすべての大学機関に期待されている。一方、県内外の企業も大学教育を通して日本人としての誇りを持ち国際感覚を有する人材の育成に期待を寄せている。想定する関係者としては以下があげられる。

- 1) 日本人学生および留学生
- 2) 行政機関および企業
- 3) 大学関係者

このことから想定される本学部への期待は以下になる。

- 1) 日本人学生のグローバル化
- 2) 外国人留学生の教育
- 3) 優秀な人材の輩出

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

GLC入試を平成29年度に新たに導入し、教育を始めている。当コースの学生のみならず、国際奨学事業で学会参加等の海外渡航を奨励しており、実績が上がっている。卒業論文は究極のアクティブラーニングであり、その中で卒業研究の英文アブストラクトを学生に課すことや、原著論文や文献の講読を通し、英語運用能力の向上を促している。平成27年度入学者から前期日程個別学力試験に外国語を課し、英語能力の必要性を受験生に示している。

【改善を要する点】

私費外国人留学生入試(定員若干名)を実施しているものの、外国人留学生数が少ない点は課題である。GLC入試も含め、留学生の教育を進めることを検討すべきである。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 大学の目的に照らして、国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 国際化の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

(観点に係る状況)

熊本大学の目的・目標(資料 C-I-1-1-1 (74 頁))と中期目標(資料 D-I-1-1-1)を受けて中期計画(資料 D-I-1-1-2)が策定されている。その目標等に沿って、新たに GLC 入試を開始した(資料 A-I-1-1-9 (14 頁)、資料 A-I-1-1-10 (15 頁)、資料 A-I-1-1-11 (16 頁))。熊本大学理学部国際奨学金募集要項の周知は十分に行なっている(資料 A-I-1-2-32 (54 頁))。

(中期計画番号 11~13)

資料 D-I-1-1-1 中期目標

4 その他の目標(1) グローバル化に関する目標

- 1) 徹底した大学改革に加え、国際化を全学的に断行し、国際競争力を強化するとともに、地域に立地する諸大学のグローバル化を牽引する。【目標11】
- 2) 人材の国際流動性を促進する多彩な受入・派遣プログラムを推進し、世界に開かれたグローバル大学を目指す。【目標12】
- 3) 地域社会のグローバル化を牽引するための様々な学びの場を提供し、多文化共生社会の発展に貢献する。【目標13】

[出典：熊本大学中期目標]

資料 D-I-1-1-2 中期計画

4 その他の目標を達成するための措置

(1) グローバル化に関する目標を達成するための措置

- ① グローバルな連携ネットワークを整備・強化するため、海外交流協定校や海外拠点等を新たに開拓し、平成33年度までには交流協定校を300校程度に拡充する。また、既存の海外オフィス等の機能強化や、「国立六大学連携コンソーシアム」や「一般社団法人大学コンソーシアム熊本」などを通じたアライアンス交流の推進により、留学フェアやセミナー、リクルート活動等をさらに充実させて実施する。【計画番号38】
- ② 学生に対してより質の高いグローバル教育環境を提供するため、ダブルディグリーやその他の国際連携事業をベースとした教育プログラムを開発する取組を支援し、平成33年度までに8つの海外連携教育プログラム等を実施する。【計画番号39】
- ① 大学のグローバル化を促進するため、多彩な受入れ・派遣プログラムの開発・提供により、平成33年度までに一年間で外国人留学生の受入れ1,500人、また、日本人学生の海外経験1,000人を達成する。【計画番号40】
- ② 教職員のグローバル化を促進するため、海外派遣型研修や集合型・通学型研修などの国際FD (Faculty Development)・SD (Staff Development) 研修等を整備し、平成33年度末までに教員の参加延べ人数200人、職員の参加延べ人数50人を達成する。【計画番号41】
- ① 地域のグローバル化に貢献するため、熊大グローバルYouthキャンパス事業を促進し、平成33年度までに年間500人の地域の中高生や高専生を受入れ、早期グローバル教育を実施する。【計画番号42】
- ② 地域と外国人との豊かな共生を促進するため、グローバル教育カレッジが中心となって、平成33年度までに年間100人の一般外国人に対して多彩な交流プログラム等を実施する。【計画番号43】

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 新たな GLC 入試の学生の教育の成果がでてくるのは数年先であるが、グローバル化は着実に進行していると考えている。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

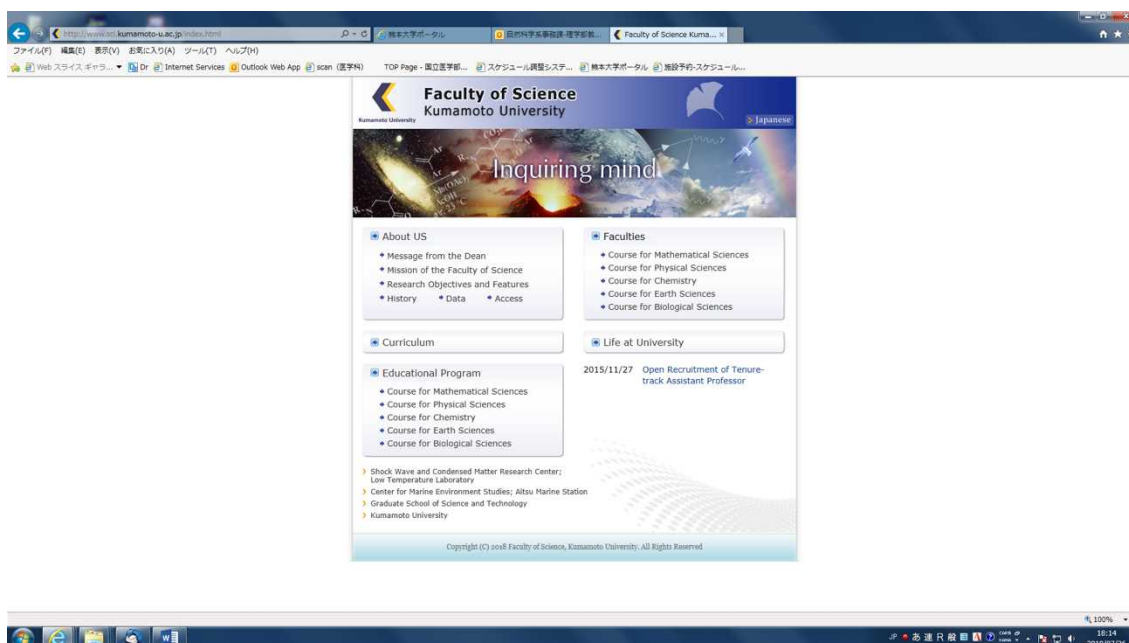
グローバル化の基盤として、英語版のウェブサイトを準備している(資料 D-I-1-2-1)。GLC の学生の教育は現在着実に進行している。私費外国人留学生入試(定員若干名)を実施し留学生を受け入れている(資料 D-I-1-2-2)。受験者はいるものの、基礎的な学力を担保できない可能性等もあり、入学生数はあまり多くない。短期留学生は、平成 26 年度 3 名、平成 27 年度 4 名、平成 28 年度 5 名、平成 29 年度 5 名を受け入れている。

国際奨学事業は、学長裁量経費に加えて学部長裁量経費からも支出し補助している。本事業の支援で、年間 4～5 名の学生が海外で開催される研究集会等へ参加している(資料 A-I-1-2-32 (55 頁))。また、大学間学生交流協定により年 1 名程度が留学している(資料 D-I-1-2-3)。文部科学省の留学促進事業「トビタテ! 留学 JAPAN」には平成 29 年度に 1 名の採択がある。

理学の学問そのものがグローバルである。TOEIC-IP テストの実施を進める(資料 D-I-1-2-4)とともに、卒業研究では外国語の原著論文や文献を講読させている。また、卒業研究の内容を海外に発信する練習として英文アブストラクトを学生に課し、英語運用能力の把握に努めている(資料 D-I-1-2-5)。

(中期計画番号 11～13)

資料 D-I-1-2-1 理学部英語版ウェブサイト



<http://www.sci.kumamoto-u.ac.jp/index.html>

[出典：理学部ホームページ]

資料 D-I-1-2-2 外国人特別入試および外国人学生受入数

年度	志願者	受験者	合格者	入学手続者
平成25年度	3	3	1	1
平成26年度	3	3	0	0
平成27年度	4	3	0	0
平成28年度	4	3	3	2
平成29年度	5	4	0	0

[出典：理学部教務担当資料を基に作成]

資料 D-I-1-2-3 大学間学生交流協定による派遣留学生数

年度	留学先	留学期間
H24-25年度	リーズ大学 (英国)	平成24年9月24日～平成25年6月14日
H25-26年度	モンタナ州立大学 (アメリカ合衆国)	平成25年8月～平成26年5月
H26-27年度	モンタナ州立大学 (アメリカ合衆国)	平成26年8月25日～平成27年5月3日
H27-28年度	ザールランド大学 (ドイツ)	平成27年8月29日～平成28年8月31日

[出典：理学部教務担当資料を基に作成]

<2018 年度入学 1 年次用>

2018 年度入学 1 年次 「TOEIC-IP」テストを実施します

熊本大学では、1 年次の 4 月に、「TOEIC-IP」(英語テスト 1 回目)を実施しています。

国際化が急速に進み、英語によるコミュニケーション能力が求められる時代です。早い時期に客観テストにより自分自身の能力を知ることは、今後の大学生活を有意義に過ごすためにも重要と思われれます。詳細は下記のとおりです。なお、1 年次は申込み不要です。

記

1. 試験日 文・教育・法・理学部：2018 年 4 月 14 日(土)
医・薬・工学部：2018 年 4 月 15 日(日)
〔予備試験日：2018 年 4 月 21 日(土)〕
※ 4 月 21 日は予備日であり、4 月 14 日又は 15 日にやむを得ない理由で受験できない者のみが対象です。
予備日で受験を希望する者は、4 月 5 日(木)～6 日(金)に教養教育担当で手続きを行ってください。
2. 場 所 熊本大学全学教育棟(黒髪北キャンパス)
(試験室は、4 月上旬に全学教育棟学生ロビーに掲示します。
前日までに確認してください。)
3. 集合時間 9 時 30 分(試験時間は 2 時間程度。12 時 30 分頃終了予定)
4. 費 用 無 料(熊本大学が負担します。)
5. 持 参 物 ①学生証
②筆記用具(鉛筆は HB 以上の濃さ)
③時計(携帯電話は使用不可)
6. そ の 他 2 回目を 2 年次以降に実施予定です。詳細は追って連絡します。

【お問い合わせ先】

熊本大学学生支援部学務課 教養教育担当
TEL: 096-342-2717

[出典：理学部教務担当資料を基に作成]

資料 D-I-1-2-5 英語による卒業研究の概要の例

卒業研究--英文アブストラクト	締め切り 2月 15日 (木)
名前: () 学生番号: ()	
研究室: () 研究室	
卒業研究テーマ (日本語可)	
ヒメツリガネゴケ <i>PpMurE1</i> 単一遺伝子破壊ラインを用いた緑色植物 <i>MurE</i> 相同遺伝子の機能相補解析	
卒業研究の内容を外国人に英語で伝えることを念頭において書いてください。(15行程度)	
英文要旨:	
<p>MurE is a synthetic enzyme of peptidoglycan that is a cell wall involved in bacterial resistance to osmotic stress and cell elongation / division. Plastids are originated from intracellular symbiosis to primordial eukaryotes by oxygen-generating photosynthetic bacteria with peptidoglycan. It is strongly suggested that peptidoglycan is also present in the chloroplast envelope of the moss <i>Physcomitrella patens</i> that have two types of MurE homologous genes (<i>PpMurE1</i>, <i>PpMurE2</i>). It was suggested that <i>PpMurE2</i> has a different function from chloroplast division possessed by <i>PpMurE1</i>.</p> <p>First, we revealed that even if <i>PpMurE2</i> was transiently overexpressed with rice actin promoter in $\Delta PpMurE1$, the appearance of macrochloroplasts could not be complemented. Next, we prepared a chimeric gene linking the 5' terminal region of <i>PpMurE2</i> and the 3' terminal region of <i>PpMurE1</i> and expressed in $\Delta PpMurE1$. A region that can not be complemented with the chimeric protein was found in the middle of the homologous region with the bacterium <i>MurE</i>.</p> <p>Unlike other peptidoglycan synthesis genes, the <i>MurE</i> homologue gene is conserved in all green plants. The <i>Arabidopsis thaliana MurE</i> homolog gene was involved in chloroplast differentiation rather than chloroplast division, suggesting that functional conversion of <i>MurE</i> has occurred. we prepared a plasmid that transiently expresses <i>Klebsormidium flaccidum</i> and <i>Picea abies MurE</i> homologous genes, which are predicted to have all peptidoglycan synthesis genes in their genome, with the rice actin promoter, expressed in $\Delta PpMurE1$. As a result, the appearance of macrochloroplasts could be complemented by <i>Picea abies MurE</i>. This suggests that <i>MurE</i> is also involved in chloroplast division through peptidoglycan synthesis in <i>Picea abies</i>. These results suggest that strept plants use two MurE homologous genes selectively.</p>	
以下は、学生は書き込まない。	

評価 ()	()
評価者 ()	()

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) GLC 入試と教育を着実に進めている。国際奨学事業・英語運用能力向上への教育も進めている。

観点 活動の実績及び学生・研究者の満足度から判断して活動の成果があがっているか。

(観点に係る状況)

GLC の評価のためには数年待たなければならない。学生が国際研究集会等に参加するための国際奨学事業で毎年 4～5 名の学生が海外に渡航しており、成果が上がっている(資料 D-I-1-3-1)。英語能力については、前期日程個別学力試験に外国語を課し始めた平成 27 年度入学者と、それ以前の入学者を比較すると平均点が明らかに上がっており、効果があったと思われる。TOEIC-IP テストの集計・分析では、1 年次のスコアの高低に関わらず、全体的に、2 年次のスコアで上昇傾向がみられる、となっており、大学入学後も英語能力が上がっていることが示唆される。(資料 D-I-1-3-2、D-I-1-3-3) 国際化だけに関してのアンケートは行っていないが、卒業生アンケートでの満足度は高いことから、活動成果は上がっていると思われる(資料 A-II-2-1-4 (65 頁))。

(中期計画番号 11～13)

資料 D-I-1-3-1 国際奨学事業報告書

(様式) 平成30年 4月 3日	
学 長 殿	
平成29年度熊本大学国際奨学事業報告書	
理 学 部 長	
このことについて、下記のとおり報告します。	
記	
奨学金名称	熊本大学理学部国際派遣奨学金
実 績	「熊本大学理学部国際派遣奨学事業実施要領」を制定し2次まで募集した結果、5名を採用した。 選考にあたっては本事業の趣旨である国際的視野と学修・研究能力を高めることのできる内容であるか、また、将来的に理学部の活性化に寄与できる内容であるかを重視し採用した。 なお、帰国後はそれぞれ学部内で報告会を行った。
成 果	平成29年度は国際的な学修・研究活動をした者が3名、調査活動が2名であった。 報告書からは、学生を大いに刺激し、今後の課題研究及び大学院進学後の研究活動を見据えて、現在取り組むべき課題を認識し研究意欲を高めていることが、十分に読み取れる。 このような学生が増えていくことは、本事業の大きな成果であると考え。
今後の課題	学生は今回の研究・調査で得た試料をもとに、より詳細な研究成果をあげることが今後の課題として挙げており、学修する意欲を高めていることが伺える。そのこと自体、本事業の目的にかなうものであろう。 本事業を継続的に実施することが、より成果を充実したものにすもの考えられる。

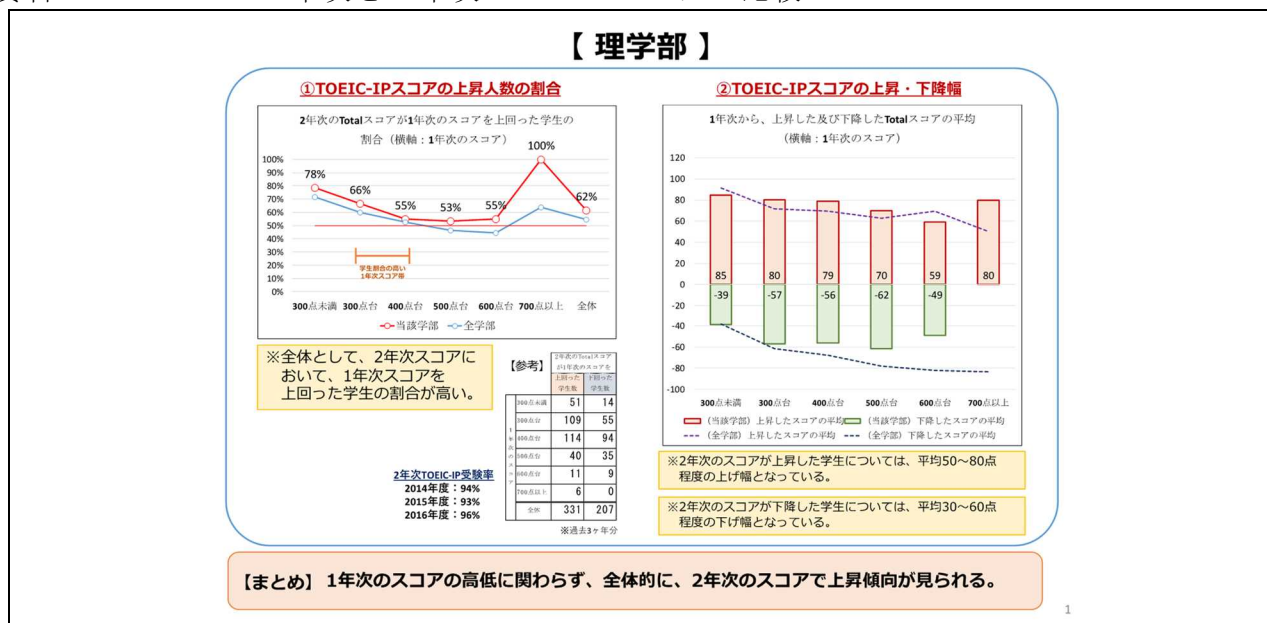
[出典：理学部国際奨学事業報告書]

資料 D-I-1-3-2 1年次に行う TOEIC 試験の平均点の推移

年度	25	26	27	28	29	30
平均点	399	414	430	430	424	438

[出典：全学一斉 TOEIC-IP テストの集計・分析より抜粋]

資料 D-I-1-3-3 1年次と2年次の TOEIC スコアの比較



[出典：全学一斉 TOEIC-IP テストの集計・分析より抜粋]

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) GLC の評価は今後に譲るとしても、国際奨学事業実績、TOEIC 分析等より、期待される水準にあると判断できる。

観点 改善のための取り組みが行われているか。

(観点に係る状況)

前期日程個別学力試験に外国語を平成 27 年度入試より課し、更に 29 年度より GLC 入試を開始した。国際奨学事業・卒研の英文アブストラクト提出等を継続して行なっている。これらについては、報告書・アンケート等も活用しつつ、不断に改善を進めている。

(中期計画番号 11～13)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 前期日程個別学力試験に外国語を導入したこと、GLC 入試を導入したことは特筆に価する。英語の運用能力を向上させるべく様々な改善を行っている。

4. 質の向上度の分析及び判定

分析項目 I 大学の目的に照らして、国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること

改善、向上している。

平成 27 年度入試から前期日程個別学力試験に外国語を導入し、29 年度には GLC 入試を開始した。TOEIC 試験の平均点の上昇もあり、国際奨学事業・卒研の英文アブストラクト提出などとともに成果を上げている。

VI 管理運営の領域に関する自己評価書

1. 管理運営の目的と特徴

本学部では理学部運営基本規則を定め、その理念及び目的である「学生や教員を元気づける教育体制の確立」及び「事務の簡素化・効率化と学生指導の充実」（運営基本規則第1条）に沿って、教職員の協力の下に円滑、かつ、安定的に理学部を運営している。とりわけ、本学部の信頼を失墜しかねない不測の事態に対する危機管理体制の確立は学部長室の責務であり、情報の集約、管理が重要である。このため、本学部の管理運営体制では理学部長、副学部長、理学科長を中心とする学部長室で学部の将来構想や学部の管理運営に関して細部に亘り検討及び計画し、最終的には学部長室に於いてそれらの意思決定を行っている。また、構成員へのフィードバック及び連絡調整については講座主任や教務・入試委員長からなる理学部運営会議においてなされている。また、理学部の教育に携わる教員が参加する理学科会議において、各種審議のみならず、教育研究評議会等報告を通して、学部としての情報共有、意思統一に努めている。このことにより、構成員の教育・研究以外の管理運営等に関する業務は整理・軽減し、結果、学部教授会の円滑な進行を可能にしている。一学科制の運営にはこのような執行部の強力なリーダーシップが必要であり、その下で構成員の教育・研究に集中できる環境を最大限保証する管理運営体制が構築された。この体制における危機管理能力は、平成28年熊本地震後の学生及び教職員の安否確認と授業再開までの対応で証明された。

【想定する関係者とその期待】

本学部構成員とその家族：本学部構成員が安全に、かつ安心して教育・研究・学修のできる環境の保証を期待している。

卒業生、学生の採用企業、一般市民などその他の関係者：国立大学理学部として期待される社会的信頼を保持するとともに、提言、苦言などを受け付ける窓口の設定と即座に対応する体制が期待されている。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

理学部運営基本規則のもと、理学部長室を中心に、各委員会の所掌事項を明確化し、迅速な判断と効率的な管理運営を実施している。これに伴い、構成員の教育・研究以外の事務的な業務負担は軽減され、教育・研究に集中できる環境を見直しながら継続している。

平成28年熊本地震後の学生及び教職員の安否確認、被害状況の把握、授業再開までの対応を通して、学部として協力し危機管理を行った。

安全委員会を設置し、年2回の理学部安全週間を設け、安全教育に取り組んでいる。

【改善を要する点】

管理運営が一部のメンバーに集中するため、負担の集中とノウハウが伝わりにくい欠点がある。更なる負担軽減策の検討と引き継ぎにおける連絡体制を整備する必要がある。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること

観点 管理運営のための組織及び事務組織が、適切な規模と機能を持っているか。また、危機管理等に係る体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

管理運営のための組織としては、運営基本規則及び各会議・委員会規則を制定して体制を整えている。これらの規則集は理学部ホームページからアクセスできるようになっており、学内からであればいつでも参照できるようになっている(資料 E-I-1-1-1、2)。体制の中心となるのは理学部長室であり、週 1 回理学部長室懇談会を開催し、理学部の課題の確認、対応策の検討などを行い、意思疎通を図っている。

事務組織に関しては、管理運営上支障の生じない体制として構築されてはいるが、他部局同様、全般的に人数が足りない状況である。特に本学部教務担当には、教務、入試、就職、学生支援、教室管理、学部委員会業務等、教学に関する業務が集中している。平成 30 年度より総務・人事担当として理学系担当を設置したので、会議や委員会の所掌を見直し、事務組織を効率的に整備することに着手した。

危機管理等に係る体制として、緊急時連絡網(資料 E-I-1-1-3)、火災時対応マニュアル(資料 E-I-1-1-4)等を作成し、必要な構成員に配布周知している。安全衛生委員が定期的に巡視しており、危険箇所を指摘し、施設の管理者に対策を報告させることにより、日常的に安全の確保に取り組んでいる。

平成 25 年 12 月より理学部安全週間を新入生合宿研修と防災訓練時期に合わせて年 2 回実施している。安全週間では、ポスターを作成・配布して安全への意識を再認識させるとともに(資料 E-I-1-1-5)、実験室などの安全確認を行っている(資料 E-I-1-1-6)。また、平成 26 年度より安全委員会を設置し(資料 E-I-1-1-7)、平成 28 年 4 月に理学部安全の手引きを作成し(資料 E-I-1-1-8)、学生・教員に配布するとともに、新入生には新入生合宿研修で説明を行っている。

平成 28 年度熊本地震では、電話連絡や Web を用いたシステムに加えて、理学部独自に用意したメールアドレスを用いて安否確認を実施した。また、連休明けに設定した授業再開に向けて、理学部一丸として対応した。

研究費不正使用の防止のために、検収制度が整備されている(資料 E-I-1-1-9)。理学部の教職員も積極的に協力している。また、データのねつ造など研究不正防止に関連する講演会やアンケート調査も実施されており、多くの研究者が参加している。(資料 E-I-1-1-10) 研究費不正使用防止のため、出張報告のシステムが改良され、出張による不正を防止している。

P 2 P ソフトの使用は熊本大学のインターネット環境では禁止されており、理学部では独自に 4 か国語(日本語、英語、中国語、韓国語)の配布文書を作成し、教職員や学生のみならず、留学生や短期滞在の研究者にいたるまで、その旨周知徹底している(資料 E-I-1-1-11)。なお、短期滞在や P 2 P 機能を使用しているかわからないまま利用してしまうケースもあり、注意の文書は随時更新している。

実験排水に関して使用量が多い貯水槽に関しては pH 計を設置して監視している。異常値を示した際にはメールを送付するシステムに平成 30 年度から改修する。

(中期計画番号 78~82)

資料 E-I-1-1-1 理学部運営基本規則

熊本大学理学部運営基本規則

(趣旨)

第1条 この規則は、「学生や教員を元気づける教育体制の確立」及び「事務の簡素化・効率化と学生指導の充実」という理念及び目的が達成されるよう、以下に示した基本方針を定め、教職員の協力の下に円滑、かつ、安定的に理学部を運営するために必要な基本となる事項を定めるものとする。

(基本方針)

第2条 理学部を運営するための基本方針を次のように定める。

- (1) 教育・研究の組織運営体制の整備・充実
- (2) 教員の事務的負担の最小化・効率化
- (3) 各種委員会業務の整理と負担の軽減化、及び責任体制の明確化
- (4) 学生と教員の教育・研究交流の促進
- (5) 就職支援・広報活動の充実
- (6) 安全で衛生的な環境の維持
- (7) 社会貢献
- (8) 国際化の推進
- (9) 教員の個人活動評価及び学部評価に基づく改善の促進

(実施体制)

第3条 理学部長は、会議及び委員会等を全て掌握し、バランスのとれた運営を行うとともに、最終責任を負うものとする。

2 役割及び責任の所在を明確にするため、次の会議等を置く。

[出典：熊本大学理学部運営基本規則]

■ 理学部規則集

1. [理学部規則](#)
2. [熊本大学理学部運営基本規則](#) [PDF 65.8KB]
3. [熊本大学理学部長室細則](#) [PDF 44.9KB]
4. [熊本大学理学部運営会議細則](#) [PDF 60.4KB]
5. [熊本大学理学部理学科会議細則](#) [PDF 49.5KB]
6. [熊本大学理学部教務委員会細則](#) [PDF 54.4KB]
7. [熊本大学理学部学生委員会細則](#) [PDF 55.4KB]
8. [熊本大学理学部入試委員会細則](#) [PDF 54.4KB]
9. [熊本大学理学部広報委員会細則](#) [PDF 55KB]
10. [熊本大学理学部FD委員会細則](#) [PDF 53.4KB]
11. [熊本大学理学部就職委員会細則](#) [PDF 54.7KB]
12. [熊本大学理学部安全委員会細則](#) [PDF 54KB]
13. [熊本大学理学部評価委員会細則](#) [PDF 40KB]
14. [熊本大学理学部人事管理委員会細則](#) [PDF 56.4KB]
15. [熊本大学理学部特定地域教育支援室に関する申し合わせ](#) [PDF 45.9KB]

<http://www.sci.kumamoto-u.ac.jp/forinternal/kisoku/index.html>

[出典：理学部ホームページ]



[出典：平成30年度緊急連絡系統図]

火災発生

火災が発生したら?!

- ① 火災報知機を押し、人を呼ぶ

↓

- ② スイッチを切る 元栓をしめる

↓

- ③ ◆ 消防署へ連絡(119番)

【連絡内容】

所属: 熊本大学 黒髪南地区 理学部〇〇館

氏名: 〇〇 〇〇

連絡先電話番号: 〇〇〇-〇〇〇〇

負傷者の有無

◆ 自然科学系事務ユニット総務担当へ連絡
電話番号: ●●●-●●●-●●●●

※ 総務への連絡が取れない場合(夜間・休日など)
北地区守衛室(●●●-●●●-●●●●)へ連絡

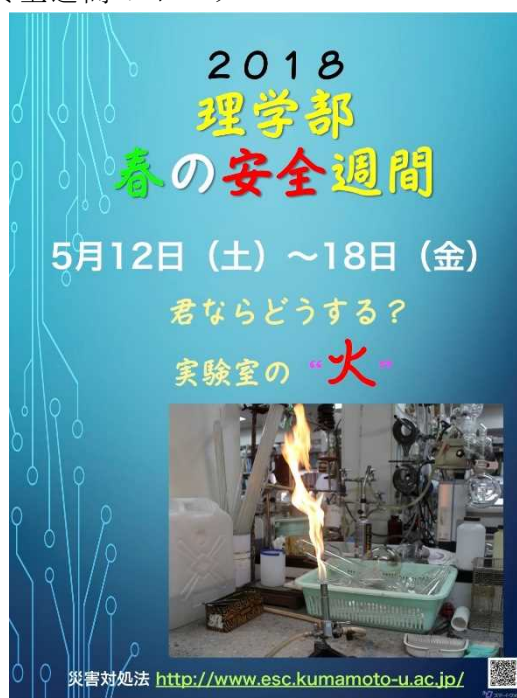
★ 初期消火により消火した場合

初期消火により消火できた場合は、次の場所へ連絡すること

◆ 自然科学系事務ユニット総務担当 電話番号: ●●●-●●●-●●●●

※ 総務への連絡が取れない場合は、北地区守衛室(●●●-●●●-●●●●)へ連絡

[出典：火災発生時対応マニュアル]



[出典：理学部安全週間ポスター]

資料 E-I-1-1-6 研究室等安全点検チェックリスト

研究室ほか関連施設（部屋）安全点検チェックリスト（共通）			
学部等名（理学部）		No. 1	
巡視年月日：平成 年 月 日（ ）		巡視時間： 時 分 ～ 時 分	
巡視場所	建物名称（ ）（階）・部屋名称等（ ）		
巡視者名	管理責任者（教職員）	大学院生（名）・学部学生（名）・その他（名）	
点検項目		確認	点検結果および修正事項等
1	室内は整理・整頓がされており、清掃・清潔に気が配られているか。		
2	電気配線等は安全に管理されているか。特に、たこ足配線やコンセントの埃等。		
3	棚・キャビネット類の中が整理・整頓されているか。転倒防止等の安全対策は講じられているか。		

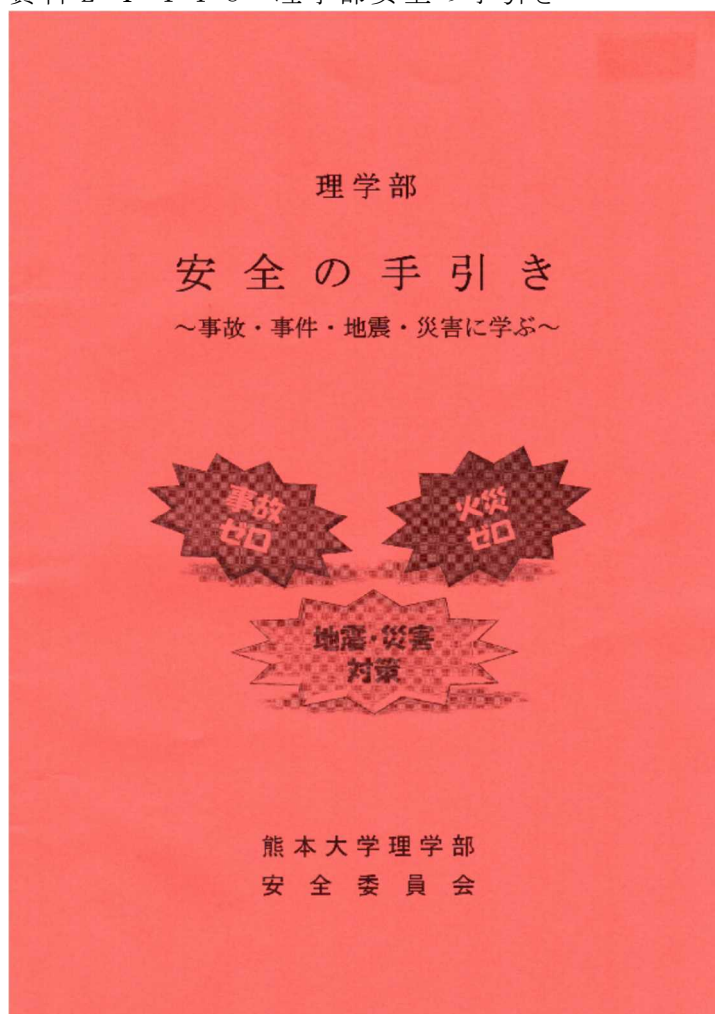
[出典：理学部安全委員会作成]

資料 E-I-1-1-7 理学部安全委員会細則

熊本大学理学部安全委員会細則	
(設置)	
第1条 熊本大学理学部運営基本規則第3条の規定に基づき、本学部に熊本大学理学部安全委員会（以下「委員会」という。）を置く。	
(任務)	
第2条 委員会は、学部長室や運営会議等から付託された安全活動の方針及び運用等に関し、その円滑な運営を図ることを目的として、審議・企画等は行わず、次の各号にかかる実務的事項について協議し遂行する。	
(1) 安全教育に関すること。	
(2) 安全週間に関すること。	
(3) 時間外施設利用に関すること。	
(4) 実験廃棄物に関すること。	
(5) 試薬の管理に関すること。	
(6) その他、安全・衛生に係る活動に関すること。	

<http://www.sci.kumamoto-u.ac.jp/forinternal/kisoku/saisoku-anzen.pdf>

[出典：理学部 Web ページ]



[出典：理学部安全の手引き]

物品の検収制度について


1. 目的
2. 検収所配置図
3. [検収者の配置について](#)
4. 検収フロー
 - 原則の検収フロー（受注者による通常納品）
 - 休日・時間外及び宅配等による納品の場合の検収フロー
5. 納品書について
6. よくある質問

目的

納入物品に対する検収を徹底するために、平成18年9月から物品検収窓口を設け、検収体制の強化を図っており、ご協力いただきましてありがとうございます。

なお、平成25年4月からは、これまで時間外等の理由で物品検収窓口で確認出来ていなかったものも確認し、全ての物品を対象とすることで、社会的な説明責任を果たすこととしました。

ご理解の上、更なるご協力をよろしくお願いいたします。

[熊本大学における物品の検収制度について（業者のみなさまへ）](#)  [PDF 825KB]
 （平成25年6月18日 一部改正）

<https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/jouhoukoukai/receive>

[出典：熊本大学 Web ページ]

<公的研究費の管理・監査に関するアンケート調査の結果について>

【目的】 熊本大学における研究不正防止計画に基づき、職員等のコンプライアンス及び研究倫理に関する意識の向上を目的とした、アンケートによる意識調査を実施するもの

【内容】 前半：公的研究費（主に旅費）について
後半：研究不正防止全般について

[平成29年度「熊本大学における研究不正防止計画」に基づくアンケート調査結果]

資料 E-I-1-1-11 P2P ソフトに関する注意

熊本大学における P2P ファイル交換ソフトの使用禁止等について

1. P2P ファイル交換ソフトの使用禁止

本学では、本学のネットワークを利用した著作権侵害を防止するため、P2P ファイル交換ソフト（以下、「ファイル交換ソフト」という。）の使用を禁止しています。

※代表的なファイル交換ソフト

100bao(百宝), Ares, Vuze(Azureus), BitComet, BitTornado, BitTorrent, Blubster, Cabos, Deluge, eDonkey2000,eMule, G2, Gnutella,Grokster, iMesh, Kazaa, KuGoo(KuGou, 酷狗), Kuwo(酷我), Lime Wire, Morpheus, Overnet, PerfectDark, Piolet, POCO, PPLive, PPStream, PP 点点通, QQLive(QQ 直播), QQ music(QQ 音乐播放器),RockItNet, Share, Shareaza,soulseek, Transmission, TTPlayer(千千静听), Xunlei(Thunder,迅雷), Winny, WinMX, µTorrent

およびこれらの互換ソフト

①本学のネットワークで、ファイル交換ソフトがインストールされたパソコン等の情報処理機器を使用してはいけません。また、本学のネットワークに接続する情報処理機器にファイル交換ソフトをインストールしてはいけません。

②個人所有のパソコンであっても本学のネットワークに接続することがあるパソコンにはファイル交換ソフトをインストールしては絶対にいけません。接続前に必ず削除してください。

2. 使用禁止の理由

ファイル交換ソフトで最も問題とされるのは、利用者が行う著作権侵害行為ですが、ソフト使用上の知識・技術不足により、意図しない著作権侵害を行い、結果的に無意識のうちに加害者になってしまう危険性があります。そのため、ユーザー保護の観点から本学での使用を禁止しています。

3. ファイル交換ソフトの動作または著作権侵害のおそれを確認した場合

本学では、ファイル交換ソフト等の使用検知システムを導入しています。ファイル交換ソフトの動作または著作権侵害のおそれを確認した場合、当該情報処理機器を特定するため、部長等に調査を依頼します。更に、著作権侵害防止のため、緊急の措置が必要であると認めるときは、当該情報処理機器をネットワークから遮断する場合もあります。

Use of P2P file sharing/pirating software is prohibited in Kumamoto University

1. Use of P2P file sharing/pirating software is prohibited.

To prevent copyright violations through the university network, P2P file sharing/pirating software systems are prohibited to use in Kumamoto University.

*Representative P2P file sharing/pirating software:

100bao, Ares, Vuze(Azureus), BitComet, BitTornado, BitTorrent, Blubster, Cabos, Deluge, eDonkey2000,eMule, G2, Gnutella,Grokster, iMesh, Kazaa, KuGoo(KuGou), Kuwo, Lime Wire, Morpheus, Overnet, PerfectDark, Piolet, POCO, PPLive, PPStream, PP, QQLive, QQ music,RockItNet, Share, Shareaza,soulseek, Transmission, TTPlayer, Xunlei(Thunder), Winny, WinMX, µTorrent, and related compatible software systems

① In the university network, information-processing units such as a laptop, a desktop on which P2P file sharing/pirating software are installed must not be used. Likewise, do not install P2P file sharing/pirating software on information-processing units connected to the university network.

②Even on your own laptops, desktops, do not install P2P file sharing/pirating software, if you could connect those of your private units to the university network. Be sure to delete P2P file sharing/pirating software before connecting.

2. Reason of the prohibition

The most serious harm is typically copyright violation by the user in use of P2P file sharing/pirating software, though, there are also risks caused through lack of knowledge and techniques in the software use. A user might be unintentionally violating copyright, which would be serious enough to make the user a wrongdoer while the user is unconscious of violation. Our prohibition policy here in Kumamoto University is aimed at protecting users.

3. In finding, recognizing, any acts operated by P2P file sharing/pirating software, or risks of possible copyright violation

In Kumamoto University, we have the detecting system to search use of P2P file sharing/pirating software, etc. When any acts operated by P2P file sharing/pirating software, or risks of possible copyright violation are detected, division or section chiefs will be requested to make investigation to identify the relevant information-processing unit. And to prevent a copyright violation, as a necessary urgent measure, the relevant information-processing unit could be cut off from the network.

关于熊本大学禁止使用文件共享程序等事宜

1. 禁止使用文件共享程序 为了防止利用本大学的网络侵犯著作权，本大学禁止使用下述文件共享程序。

※具有代表性的文件共享程序

100bao(百宝), Ares, Vuze(Azureus), BitComet, BitTornado, BitTorrent, Blubster, Cabos, Deluge, eDonkey2000,eMule, G2, Gnutella,Grokster, iMesh, Kazaa, KuGoo(KuGou, 酷狗), Kuwo(酷我), Lime Wire, Morpheus, Overnet, PerfectDark, Piolet, POCO, PPLive, PPStream, PP 点点通, QQLive(QQ 直播), QQ music(QQ 音乐播放器),RockItNet, Share, Shareaza,soulseek, Transmission, TTPlayer(千千静听), Xunlei(Thunder,迅雷), Winny, WinMX, µTorrent

以及这些软件的分享程序

①不可在本大学的网络上，使用安装了文件共享程序的电脑等的信息处理机器，此外，不可在与本大学的网络连接的信息处理机器内安装文件共享程序。

②即使是个人持有的电脑，如果会与本大学的网络连接，也切不可安装文件共享程序，与本大学的网络连接前，必须把文件共享程序删除。

2. 禁止使用的理由 文件共享程序造成的最大的问题是：用户会有侵犯著作权的行为。由于缺乏使用软件的知识和技术，用户会在无意间侵犯著作权，其结果是在无意识中，有成为加害人的危险。因此，本着保护用户角度的考虑，本大学禁止使用这些软件。

3. 确认文件共享程序已启动或有侵犯著作权的危险时 本大学已引进了监测文件共享程序等使用的系统。确认文件共享程序已启动或有侵犯著作权的危险时，为了特定该信息处理机器，本大学将委托部部长等人士进行调查。此外，为了防止侵犯著作权，如果认为有采取紧急措施的必要，本大学可能会断开该信息处理机器与网络的连接。

쿠마모토 대학 파일 교환 소프트웨어의 사용금지 등에 관해서

1. 파일 교환 소프트웨어의 사용금지

본 대학교에서는 본 대학교의 네트워크를 이용한 저작권침해를 방지하기 위해서 파일 교환 소프트웨어의 사용을 금지하고 있습니다.

※대표적인 파일 교환 소프트웨어

100bao(百宝), Ares, Vuze(Azureus), BitComet, BitTornado, BitTorrent, Blubster, Cabos, Deluge, eDonkey2000,eMule, G2, Gnutella,Grokster, iMesh, Kazaa, KuGoo(KuGou, 酷狗), Kuwo(酷我), Lime Wire, Morpheus, Overnet, PerfectDark, Piolet, POCO, PPLive, PPStream, PP 点点通, QQLive(QQ 直播), QQ music(QQ 音乐播放器),RockItNet, Share, Shareaza,soulseek, Transmission, TTPlayer(千千静听), Xunlei(Thunder,迅雷), Winny, WinMX, µTorrent

및 이러한 것들의 호환 소프트웨어

①본 대학교의 네트워크에서 파일 교환 소프트웨어가 인스톨된 PC 등의 정보처리기를 사용해서는 안됩니다. 또, 본 대학교의 네트워크와 접속하는 정보처리에 파일 교환 소프트웨어를 인스톨해서도 안됩니다.

②개인소유의 PC라도 본 대학교의 네트워크와 접속할 기회가 있는 PC에는 파일 교환 소프트웨어를 인스톨해서는 절대로 안됩니다. 접속전에 반드시 삭제해 주십시오.

2. 사용금지의 이유

파일 교환 소프트웨어 있어서 가장 큰 문제가 되는 것은 이용자가 행하는 저작권침해 행위이지만, 소프트웨어 사용상의 지식 및 기술부족으로 인한 의도하지 않는 저작권침해 행위를 해서 결과적으로 무의식 중에 가해자가 되어 버리는 위험성이 있습니다. 그러므로 사용자 보호의 관점에서 본 대학교에서의 사용을 금지하고 있습니다.

3. 파일 교환 소프트웨어의 동작 또는 저작권침해의 위험성을 확인했을 경우

본 대학교에서는 파일 교환 소프트웨어 등의 사용금지 시스템을 도입하고 있습니다.

파일 교환 소프트웨어의 동작 또는 저작권침해의 위험성이 확인되면, 해당정보처리 기기를 찾기 위해 부국장(部長) 등에게 조사를 의뢰합니다. 조사를 통해 저작권침해 방지를 위한 긴급 조치가 필요하다고 인정될 경우 해당정보처리 기기를 네트워크에서 차단할 수도 있습니다.

L'utilisation de logiciel P2P pour partager/pirater des fichiers est interdit à l'université de Kumamoto

1. L'utilisation de logiciel P2P pour le partage ou le partage de fichier est interdit.

Afin de prévenir les violations de copyright au sein du réseau de l'université, l'utilisation de logiciel P2P pour le partage de documents/fichiers/vidéo etc, est interdit lorsque vous êtes dans l'enceinte de l'université de Kumamoto.

Voici différents logiciels de P2P :

100bao, Ares, Vuze(Azureus), BitComet, BitTorrent, Blubster, Cabos, Deluge, eDonkey2000,eMule, G2, Gnutella,Grokster, iMesh, Kazaa, KuGoo(KuGou), Kuwo, Lime Wire, Morpheus, Overnet, PerfectDark, Piolet, POCO, PPLive, PPSream, PP, QQLive, QQ music,RockItNet, Share, Shareaza,soulseek, Transmission, TTPlayer, Xunlei(Thunder), Winny, WinMX, µTorrent et d'autres logiciels/systemes compatibles avec ceux cités précédemment.

① Au sein de l'université, lorsque vous avez accès au réseau, les appareils comme les PC portables qui utilisent les logiciels P2P ne doivent pas être utilisés. De la même manière, il est interdit d'installer des logiciels P2P sur les appareils qui sont connectés au réseau de l'université.

② Même sur vos propre PC portable, veuillez ne pas installer de logiciel P2P si vous vous connectez au réseau de l'université. Avant de vous connectez, veuillez-vous assurer que les fichiers/logiciel P2P soient supprimés.

2. Les raisons de ces interdictions

Le problème le plus important lié à cette activité est la violation du copyright par les utilisateurs qui sollicitent des logiciels P2P. Il y a également des risques causés par le manque de connaissance quant à l'utilisation de ces logiciels. En effet, un utilisateur peut, de manière non intentionnelle, violer le copyright d'un(e) document/fichiers/vidéo, ce qui peut devenir très sérieux car l'utilisateur est inconscient de sa défaillance. Cette interdiction est ainsi faite pour protéger toutes les personnes de l'université de Kumamoto.

3. Découverte de logiciel de piratage.

Au sein de l'université de Kumamoto, nous possédons des systèmes de détections de logiciels P2P. Quand des opérations de piratage sont découvertes, les différents référents de chaque département ou administration seront sollicités afin de mener une enquête pour identifier la personne et l'appareil connecté à un logiciel P2P. Pour prévenir la violation de copyright, l'appareil sera directement déconnecté du réseau de l'université.

[出典：注意を呼び掛ける送付書類]

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由) 理学部長室を中心とした意思決定システムや管理運営のための組織は構築されており、規則や細則にその所掌が明記されていることで、適切に運営されている。安全の手引きを作成し、年2回理学部安全週間を実施している。平成28年度熊本地震にも適切に対応した。

学部運営上必要な所掌事項を整理して、スムーズに実施できるような事務組織になるように対応しているが、対処すべき事務量に比べて適切な数の人員が配置されていない。特に、教務担当事務職員の不足への対応が今後の課題である。

観点 構成員(教職員及び学生)、その他学外関係者の管理運営に関する意見やニーズが把握され、適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点に係る状況)

理学部では様々な方法で意見やニーズを収集し、管理運営に反映させている。それらを列挙すると以下のとおりである。()は意見を収集する対象である。

- 支援企業(学外関係者) 資料 E-I-1-2-1
- 担任・チューター(学生) 前掲資料 A-I-1-2-22 : 46 頁
- 学生実行委員(学生)
- 特定地域教育支援室(高校など教育機関関係者) 資料 E-1-1-2-2
- 学部長ダイレクトメール「ホットライン」(学生) 前掲資料 A-I-1-2-38 : 60 頁
- 4年生アンケート・M2アンケート(卒業生) 資料 A-II-2-1-3 : 64 頁
- 理学部運営会議(講座、教員) 資料 E-I-1-1-2

収集された意見は理学部長室で検討され、意思決定に反映している。例えば、自修室の開放時間、就職情報の公開、委員会の見直しなどである(資料 E-I-1-2-4)。

(中期計画番号 57)

資料 E- I -1-2-1 支援企業一覧

熊本大学理学部
Faculty of Science, Kumamoto University

HOME 熊本大学理学部広報委員会 サイトマップ

理学部について カリキュラム 教育プログラム 入試情報 教職員総覧 セミナー・講演 進路情報 教職員内付資料

HOME >> 支援企業

支援企業

Corporate Support

熊本大学理学部は、地域・社会のニーズに対応し、体系的な研究を推進した高度職業人の育成を目的に、平成16年度に従来の6学科制から、新たに1学科制(理学部理学科)に改編致しました。これを機に、県内外の企業との協力的な関係を築き、寄せられた要望・希望等も教育研究の発展に反映させ、広域域の活性化に貢献すべく企業・団体の歩調を調整しております。



主な活動内容

- ・ 就職支援-インターンシップの企画
- ・ 理学部出版物の配布・差し物の通知
- ・ 卒業への贈呈・授意・アポイントの依頼
- ・ 共同研究・開発や専門的知識の提供
- ・ 教職員との交流

参加企業一覧(順不同)

1. 産興株式会社 代表者: 田中 昭彦(代表取締役社長) 住所: 880-8308 熊本県西上里字3-9-1 Tel: 096-355-1111 Fax: 096-352-0227 E-mail: kanda@kinnco.com.jp URL: http://www.kinnco.com.jp	2. 株式会社野田電子 代表者: 野田 修典(代表取締役社長) 住所: 880-0823 熊本県中央区西宮町325 Tel: 096-322-0050 Fax: 096-322-0056 E-mail: info@nodai-kogyo.co.jp URL: http://www.nodai.co.jp
3. 株式会社 RKK工業メーカーサービス 代表者: 藤原 裕明(代表取締役社長) 住所: 882-0976 熊本県中央区九品寺1-6-11 Tel: 096-364-8121 Fax: 096-364-8479 E-mail: info@rkk.co.jp URL: http://www.rkkcs.co.jp	4. 五木食品株式会社 代表者: 住田 浩二(代表取締役社長) 住所: 881-4201 熊本県西原町南町448 Tel: 096-428-7000 Fax: 096-428-7007 URL: http://www.itsukifoods.jp
5. 株式会社 MEDICEX 熊本研究所 代表者: 野口 浩一(研究部長) 住所: 889-0425 宇土市南町1285 Tel: 0964-23-8111 Fax: 0964-23-8122 URL: http://www.medicex.co.jp	6. 株式会社 阿仁化学研究所 代表者: 上野 昌一(代表取締役社長) 住所: 881-2302 熊本県上益城郡益城町2025-5 Tel: 096-206-1515 Fax: 096-206-1525 E-mail: info@ajino.co.jp URL: http://www.ajino.co.jp
7. 株式会社 各地探検センター 代表者: 松岡 孝輔(取締役社長) 住所: 880-8882 熊本県中央区御膳町1-2-2 Tel: 096-359-6866 Fax: 096-326-4387 URL: http://www.kumamoto-katei.co.jp	8. 西日本技術開発株式会社 代表者: 村島 正康(代表取締役社長) 住所: 810-0004 福岡市中央区渡辺1-1-1 Tel: 092-781-2831 Fax: 092-781-1418 URL: http://www.wjtec.co.jp
9. 高橋製成株式会社 代表者: 高橋 圭吾(代表取締役社長) 住所: 889-8806 人吉市谷ノ原町488 Tel: 0969-24-8155 Fax: 0969-24-8115 E-mail: office@hatake.co.jp URL: http://www.hatake.co.jp	10. 一般財団法人 化学冶金産業技術研究所 代表者: 赤下 健輔(理事長・所長) 住所: 880-8568 熊本県北區大塚1-6-1 Tel: 096-344-1211 Fax: 096-345-1348 URL: http://www.kaketsuken.or.jp
	11. 熊本県農産物販促協会 代表者: 小崎 隆一(会長) 住所: 880-0840 熊本県中央区南千夜通町 2-9 Tel: 096-328-1000 Fax: 096-311-2023 E-mail: somu@kumamotop.or.jp URL: http://www.kumamotop.or.jp

Copyright (C) 2018 Faculty of Science, Kumamoto University. All Rights Reserved. 熊本県中央区東区2-15-1 熊本大学理学部

<http://www.sci.kumamoto-u.ac.jp/etc/support.html>

[出典: 理学部 Web ページ]

熊本大学理学部特定地域教育支援室に関する申し合わせ

平成19年4月2日

理学部運営会議承認

平成21年4月1日 改正

平成24年4月1日 改正

平成28年4月1日 改正

(設置)

第1条 熊本大学理学部運営基本規則第3条に基づき、熊本大学理学部特定地域教育支援室(以下「支援室」という。)を置く。

(任務)

第2条 支援室は、特定地域の教育力、基礎学力の強化による基盤整備を支援する。

2 支援室は、特定地域教育支援に関する窓口になるとともに、実施に当たって各講座や他学部との連絡・調整を行う。

(組織)

第3条 支援室に室長として理学部長を置き、理学部長が指名した教員を委員として組織する。

(任期)

第4条 前条の委員の任期は1年とし、再任は妨げない。

2 前項の規定にかかわらず、前条の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(室長)

第5条 室長は、支援室を招集しその議長となるとともに、支援室を統括・指導する。

(地域)

第6条 特定地域は、活動状況に応じて別途定めるものとする。

[理学部特定地域教育支援室申合せ]

改善事項	意見やニーズを 収集する対象	収集方法
自修室の開放時間帯の変更(安全のための夜間の閉鎖)	学生	学生への聞き取り
就職情報の公開	学生	アンケート結果
委員会の見直し(安全委員会の設置など)	教員	理学部運営会議
運営会議のメンバーの見直し	教員	理学部運営会議

[出典：独自作成]

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 意見収集のために多くの窓口を用意し、管理運営に反映している。

観点 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上のための取り組みが組織的に行われているか。

(観点に係る状況)

事務職員の研修については、全学で実施されているものに参加している。学部独自の対応としては、学部の教務及び学生支援に関係する職員と学部長室とが密接に連携することにより対応している。

教職員に対する研修としては、情報セキュリティ研修(資料 E-I-1-3-1)、ハラスメント研修(資料 E-I-1-3-2)、科学研究費補助金(科研費)獲得のための研修(資料 E-I-1-3-3)、科研費執行および研究費不正使用防止のための説明会(資料 E-I-1-3-4)など多岐にわたった研修が全学で実施されている。また、技術職員に関しても全学でスキルアップ研究が実施されている。

特定の対象に向けた研修(情報管理者向けのセキュリティ研修など)を除いて、電子メールでの呼びかけだけでは、参加者が集まらないことがあり、適宜会議体において参加を呼びかけている。また、P2Pソフトの禁止事項については(前掲資料 E-I-1-1-11)、実例も含めて理学科会議で全教員が情報を共有するとともに、非常勤教員に対しても事前に説明書を送付して協力を依頼している。

(中期計画番号 64)

平成30年 7月20日

各部局等の長 殿

最高情報セキュリティ責任者
 情報ガバナンス担当理事・副学長
 松本 泰道
 全学システム管理責任者
 総合情報統括センター長
 杉谷 賢一

部局システム管理責任者等研修（情報セキュリティ指導コース）の開催について（依頼）

平素より、情報セキュリティ対策にご協力いただき感謝申し上げます。

さて、新聞報道でも取り上げられておりますとおり、6月27日付けで、文部科学省は6つの国公立大が、今年4月から6月にかけて、偽サイトに誘導してID、パスワードを盗む「フィッシング」メールの被害に遭い、結果として大量の個人情報流出につながったとして、全国の大学に対して対策を強化するよう注意喚起を行いました。「窃取したアカウント情報を用いて、先端技術情報を狙った標的型攻撃が行われるなど、重大な情報漏洩（ろうえい）につながる可能性がある」と警告しています。

平成29年10月4日

教職員各位

最高情報セキュリティ責任者
 情報ガバナンス担当理事・副学長
 松本 泰道

平成29年度「情報セキュリティ研修」の実施について（通知）

今年度上半期、世界中で感染が拡大したランサムウェア（身代金要求型ウイルス）「WannaCry」は、Microsoft Windows の脆弱性を悪用して感染するマルウェアでした。また、近年、標的型攻撃等の新たなサイバー攻撃は、ますます巧妙化する傾向にあり、機密情報の漏えい等の被害は甚大なものとなっています。

このような中で、本学においては、教職員や学生の個々の被害を防ぐことはもとより、大学組織の利益が損なわれることのないよう、大学の構成員一人ひとりの情報セキュリティに対する意識を向上させる継続的な取り組みが重要であり、この取り組みの一環として、平成29年度も教職員や学生に対する情報セキュリティ研修を実施します。

[出典：情報セキュリティ研修の案内]

熊本大学 男女共同参画推進フォーラム

テーマ

環境ストレスからくる弱者への ハラスメント

演者 友田 明美 氏
福井大学 子どものこころの発達研究センター 教授

プロフィール
福井大学子どものこころの発達研究センター教授・副センター長、医学博士。29年間にわたって、子どもの発達（小児発達学）に関する臨床研究に従事。福井大学附属病院子どものこころ診療部長、五大学連合大学院小児発達学研究所福井校教授・生理学研究所多次元共同脳科学推進センター客員教授を兼任。2009～2011年および2017年～日米科学技術協力事業「脳研究」分野グループ共同研究・日本側代表。



日時 2017年 **11月30日** (木) 13:30-16:30 (受付13:00～)

場所 熊本大学 黒髪キャンパス 工学部百周年記念館
〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目39番1号

プログラム

13:30～13:45	開会挨拶	原田信志 (熊本大学学長)
	趣旨説明	宮瀬美津子 (熊本大学学長特別補佐) 梅澤彩 (熊本大学男女共同参画コーディネーター)
13:45～14:45	講演	「虐待やDVにより傷つく脳と回復へのアプローチ」 友田明美氏 (福井大学子どものこころの発達研究センター教授)
14:45～15:00	質疑応答	
15:00～15:10	休憩	
15:10～16:20	パネルディスカッション	「環境ストレスからくる弱者へのハラスメント」 パネリスト： 東原福美氏 (熊本市市民局市民生活部男女共同参画課課長) 中島眞一郎氏 (コムスタカ-外国人と共に生きる会) 竹内裕希子氏 (熊本大学大学院先端科学研究部准教授) アドバイザー：友田明美氏 (福井大学子どものこころの発達研究センター教授) コーディネーター：梅澤彩 (熊本大学男女共同参画コーディネーター)
16:20～16:30	閉会挨拶	山崎広道 (熊本大学理事)

お問い合わせ
熊本大学 男女共同参画推進室
〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目39番1号 TEL/FAX: (096)342-3281



[出典：ハラスメント研修案内]



平成29年度
採択初心者向け
科研費獲得セミナー

自然 平成29年**8月23日(水)** 16:10-17:10
工学部会議室A (仮設D棟 1階)

生命 平成29年**8月24日(木)** 16:10-17:10
臨床医学研究棟 1Fカンファレンスルーム 2

科研費になかなか採択されない、科研費に応募したことがない、
科研費採択初心者の方へ

科研費の審査のしくみはどういったもの？ 調書を読みやすくする工夫は？
科研費審査の基本事項から、平成30年度公募の変更点、ポイントを押さえて
読みやすさを考慮した書き方まで、これまでたくさんの調書を見てきたURA
の視点から、良い調書・悪い調書の特徴などをお話します。

[出典：研究支援担当資料]

平成30年6月22日

科学研究費助成事業に関わる研究者及び事務担当者 殿

研究・社会連携担当理事
(副学長) 松本 泰道

科学研究費助成事業の執行等に関する説明会の開催について (通知)

このことについて、科学研究費助成事業（以下「科研費」という。）の適正な実施・執行についての理解を深めるため、下記のとおり説明会を開催しますのでお知らせします。特に、平成30年度の科研費に採択された研究者（継続課題を含む。）及び科研費に関する事務担当者については説明会に出席していただきたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

なお、出席の際は、別紙「説明会出席票」にあらかじめ必要事項を記入の上、説明会当日、会場の受付にご提出ください。

記

○ 黒髪地区

日 時：平成30年7月26日（木） 16：15～17：15

場 所：放送大学熊本学習センター（附属図書館南棟3F）大講義室

<https://www.kumamoto-u.ac.jp/campusjouhou/kurokamikitaku>

黒髪北20番です。

○ 本荘地区

日 時：平成30年7月30日（月） 16：15～17：15

場 所：医学教育図書棟3階 第1講義室

<https://www.kumamoto-u.ac.jp/campusjouhou/honjyo-kita>

本荘北12番です。

◇ 説明会の主な内容（予定）

1. 科研費の手続き・使用ルールについて
2. 国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(A),(B)）及び研究成果公開促進費について
3. 研究費の不正使用、研究における不正行為の防止について

[出典：科研費執行等に関する説明会案内]

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）職員に関しては、大学で責任をもって行われているので、問題ないとする。教員に対しても、種々の研修が実施されており、会議体での呼びかけなど、参加者数拡大のために努力している。

分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

観点 活動の総合的な状況について、根拠となる資料・データ等に基づいて、自己点検・評価が行われているか。

(観点に係る状況)

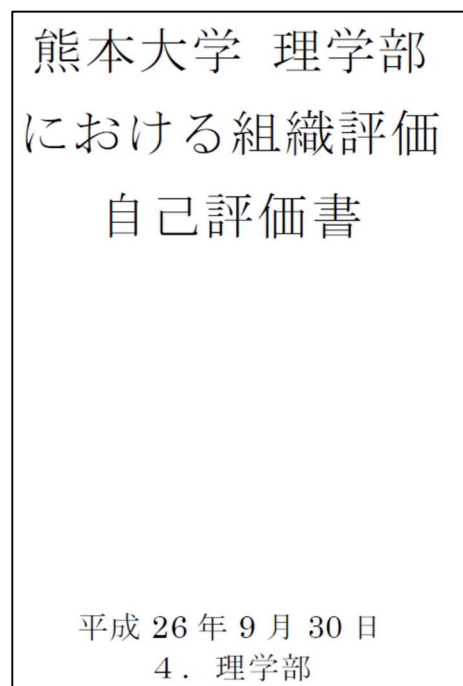
理学部の活動の活性化を目的として、根拠となる資料・データに基づき、活動の自己点検・評価を行う全学的な「組織評価」を定期的（第1回：平成19年度、第2回：平成26年度）に実施しており、実施後の自己評価書は、熊本大学のWebページに掲載している（資料E-II-2-1-1）。

また、前回の組織評価以降も自己点検評価のために、4年生アンケート・M2アンケートの実施（前掲資料A-II-2-1-3：64頁）や講座・委員会の年次報告書（資料E-II-2-1-2）を提出してもらい、これらのデータをもとに、独自に自己点検・評価を実施しており、アンケート結果の報告書や理学部年報としてまとめている。

教員の個人活動に対しても「教員の個人活動評価」を実施しており（資料E-II-2-1-3）、毎年度自己評価するとともに、3年毎に部局長が評価し、統計結果は公表される（資料E-II-2-1-4）。

(中期計画番号70)

資料E-II-2-1-1 組織評価自己評価書



<https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/kihonjoho/hyouka/hyouka-h26>

[出典：平成26年度実施熊本大学理学部における組織評価自己評価書]

<p>平成 26 年度(2014 年度)活動報告</p> <p>熊本大学理学部 熊本大学大学院自然科学研究科(理学系)</p> <p>2014 年 月 日</p> <p style="text-align: center;">1</p>	<p>目次</p> <p>1. 平成 22 年度(2010 年度)年報の作成にあたって..... 5</p> <p>2. 沿革と組織..... 6</p> <p>2.1. 理学部の沿革..... 6</p> <p>2.2. 大学院(理学研究科、自然科学研究科)の沿革..... 7</p> <p>2.3. 組織..... 8</p> <p>3. 平成 22 年度(2010 年度)組織運営..... 9</p> <p>4. 理学部学務関係行事予定表..... 11</p> <p>5. 開講科目数..... 12</p> <p>5.1. 開講科目数(理学部)..... 12</p> <p>5.2. 教養科目担当科目数(理学系教員)..... 12</p> <p>5.3. 大学院自然科学研究科開講科目数..... 13</p> <p>6. 教務委員会活動報告(学部・大学院)..... 14</p> <p>7. 在学生数、卒業生数など..... 17</p> <p>8. 学位の授与(H21 年度)..... 18</p> <p>9. 学生委員会活動報告(学部・大学院)..... 20</p> <p>10. インターンシップ実施状況..... 22</p> <p>11. 学生の国際交流(学部・大学院)..... 22</p> <p>12. 学生の受賞..... 23</p> <p>13. 取得資格..... 24</p> <p>14. 入試関係(学部・大学院)..... 25</p> <p>14.1. 学部入試..... 25</p> <p>14.2. 大学院入試(H22 年 4 月入学)..... 26</p> <p>15. 入試委員会活動報告(学部・大学院)..... 29</p> <p>16. 就職委員会活動報告(学部・大学院)..... 32</p> <p style="text-align: center;">2</p>
--	---

[出典：平成 26 年度理学部年報]

理学部の教員の個人活動評価実施要領

〔平成 30 年 3 月 6 日〕
理学部教授会 承認

この要領は、「教員の個人活動評価実施要項」に基づき、理学部において教員の個人活動評価を実施するために必要な事項を定める。

1 評価領域
理学部の評価項目を以下の 4 項目とする。

① 教育
② 研究
③ 社会貢献
④ 管理運営

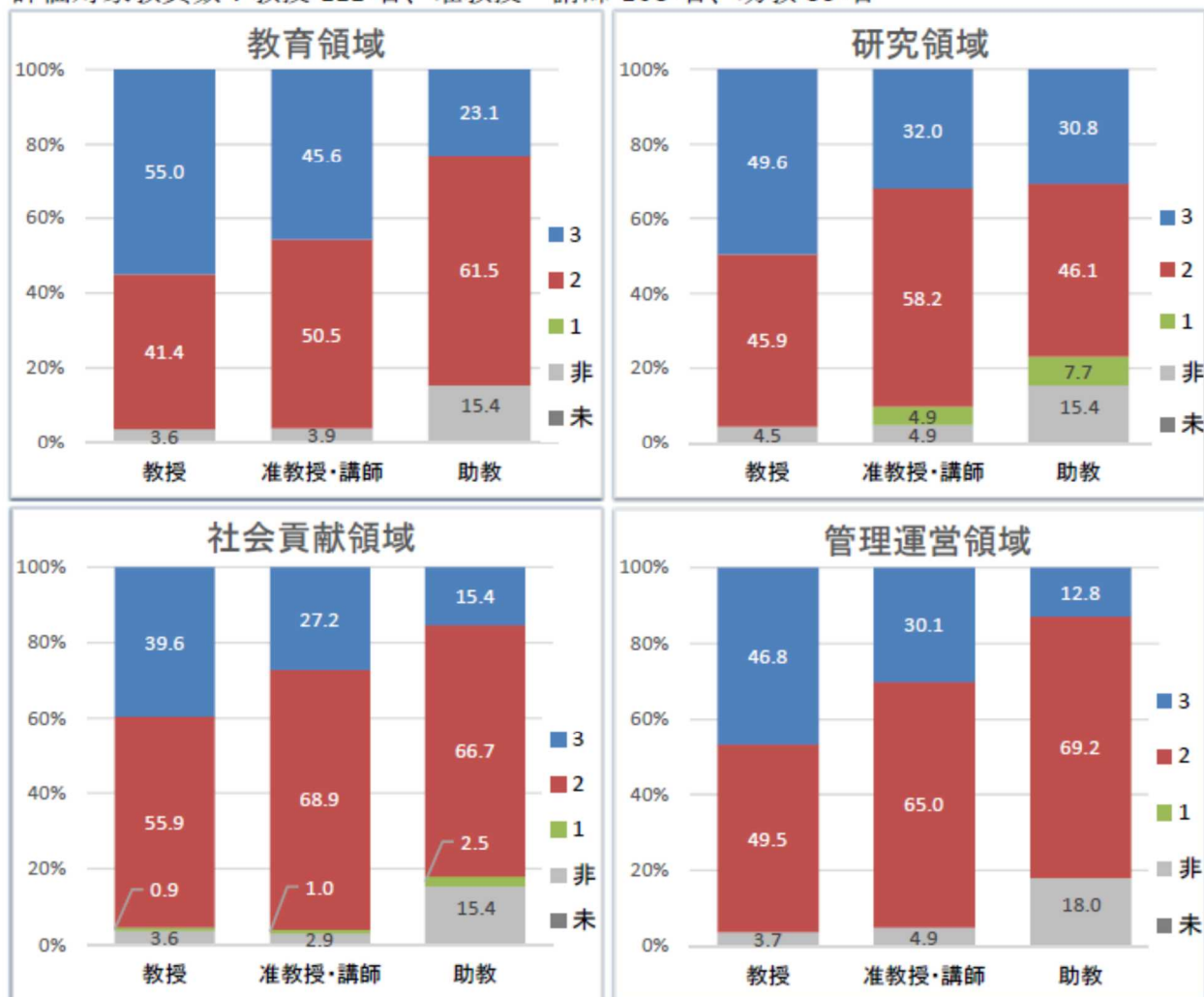
2 目標の提示
部局長等は、適切な時期に、教員に組織の目標を提示する。(組織の目標は別紙参照)

[出典：理学部の教員の個人活動実施要領]

資料 E-II-2-1-4 個人活動評価結果

5) 大学院自然科学研究科（工学部、沿岸域環境科学教育研究センター、
先進マグネシウム国際研究センター、パルスパワー科学研究所を含む。）

評価対象教員数：教授 111 名、准教授・講師 103 名、助教 39 名



[出典：第3期（平成24～26年度）個人活動評価結果]

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）組織評価に加えて、4年生、M2アンケートや活動報告書を毎年実施している。

観点 活動の状況について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による評価が行われているか。

（観点到係る状況）

理学部では、全学的に実施される法人評価、認証評価の自己評価を実施し、法人評価は国立大学法人評価委員会（毎年度及び第1期：平成21年度、第2期：平成28年度）に、認証評価（第1回：平成21年度、第2回平成27年度）は認証評価機関に定期的に評価を受けている（資料 E-II-2-2-1,2）。また、平成26年度に実施した組織評価は、学長室や経営協議会で検証を受けた。

（中期計画番号 70）

資料 E-II-2-2-1 法人評価結果

熊本大学 理学部

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）**分析項目Ⅰ 教育活動の状況****【判定】 期待される水準を上回る****【判断理由】**

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 入学者選抜試験時は学科全体で学生を募集し、各コースには定員を設けずに3年次進級時に学生の希望に応じて5コースから専門分野を決定することとしており、基礎学力（理系基礎科目と理学共通科目）を身に付けた上で確かな専門性の積上げが可能な体制となっている。
- 平成22年度から平成26年度に実施した卒業前4年次生への満足度に関するアンケート調査（回収率90%以上）において、毎年度90%以上が「選択したコースが自分にとって良かった」と回答している。
- 平成24年度に実施した卒業生・修了生及び進路先・就職先等に対するアンケート調査結果では、理工系の学生に身に付けてほしい資質能力として、独創性や想像力があげられたことにより、平成22年度入学生から卒業研究を必修化するなど、ステークホルダーの要望に応じている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 平成24年度から理学部ジュニア・リサーチ・フェローを開始し、学部教育の初期段階から理学専門に特化した教育によって、将来の研究者を養成しており、平成27年度までに8名を採択し、大学院への飛び入学者1名、長期留学者2名を輩出している。
- 学生の主体的な学修を支援するため、学生3名に対しチューター教員1名を配置し、クラス担任と連携しながら学生に対応しており、著しい成績不振者に対しては、学部長面談を行っている。また、留学生全員に学生チューターを配置し、学修及び学生生活の支援を行っている。
- 学生が国際学会等に参加するため国際奨学金制度による、旅費の支援を行っており、第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の実績は2名から5名の間となっている。
- 社会人に授業開放を行っており、開放している科目数は平成22年度の12科目から平成27年度の20科目へ増加しており、また、年1回のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の体験学習や（年1回）、公開学習の開催など、地域社会のニーズにこたえる取組を行っている。

[出典：平成28年度法人評価結果]

熊本大学

Ⅱ 基準ごとの評価

基準1 大学の目的

1-1 大学の目的（使命、教育研究活動を展開する上での基本的な方針、達成しようとしている基本的な成果等）が明確に定められており、その内容が学校教育法に規定されている、大学一般に求められる目的に適合するものであること。

【評価結果】

基準1を満たしている。

(評価結果の根拠・理由)

1-1-① 大学の目的（学部、学科又は課程等の目的を含む。）が、学則等に明確に定められ、その目的が、学校教育法第83条に規定された、大学一般に求められる目的に適合しているか。

当該大学は学則第1条において、「教育基本法及び学校教育法の精神に則り、総合大学として、知の創造、継承及び発展に努め、知的、道徳的及び応用的能力を備えた人材を育成することにより、地域と国際社会に貢献すること」を教育研究上の目的として定めている。さらに、当該大学の目的・目標として、教育においては、一般・専門教育の充実と創造性豊かな高度専門職業人や国際化に対応できる人材養成、研究においては、国際的に卓越した先導的研究や独創的な学術研究の推進、地域・国際貢献においては、学術文化の発信・交流を通じた地域の産業・文化の振興・向上と国際交流の推進を掲げている。

各学部・学科等は、これらの教育研究上の目的、教育における目的・目標を踏まえた上で、それぞれの特性に応じた教育研究上の目的を各学部規則において定めている。例えば、教育学部では、学部規則第1条の2において「広い視野と深い教養をもった豊かな人間性を基盤とした教員の養成と地域社会における生涯学習等の指導者の養成のため、教員や地域社会の指導者として必要な基礎的・専門的な知識・技術を修得させ、併せて主体的な課題探究能力を育成すること」を目的として定めている。

これらのことから、目的が明確に定められ、その目的が、学校教育法に規定された大学一般に求められる目的に適合していると判断する。

[出典：平成27年度実施認証評価報告書]

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 法人評価、認証評価を実施した。

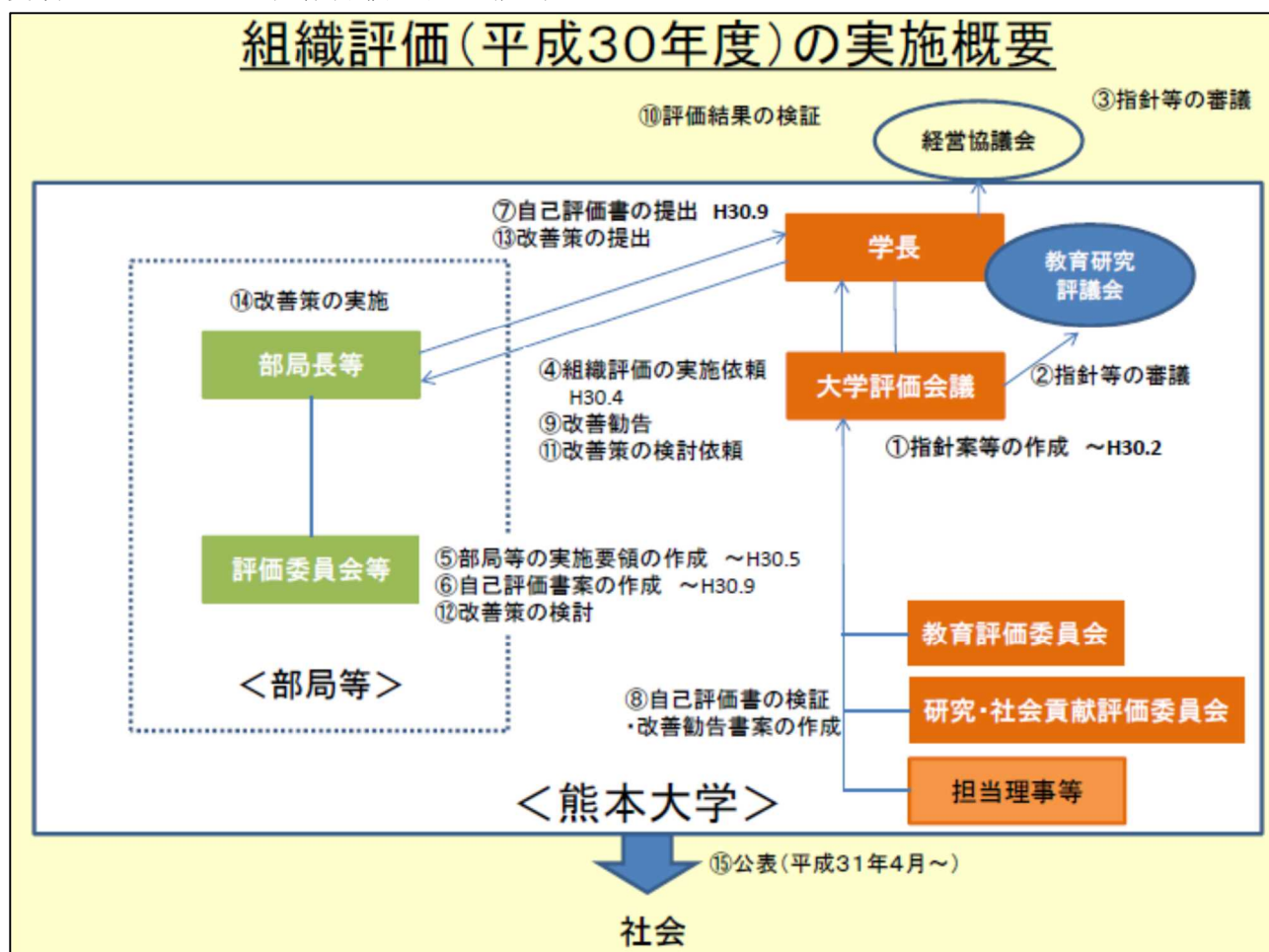
観点 評価結果がフィードバックされ、改善のための取り組みが行われているか。

(観点到に係る状況)

組織評価による自己点検を通して改善を要する点を明らかにし、学部長室が改善の方向を示し、適切な審議体において随時検討し改善してきた(資料E-Ⅱ-2-3-1)。平成27年3月の改善計画(資料E-Ⅱ-2-3-2)に対する実施状況としては、

- 教育：4年次進級要件を設定・変更するとともに、授業科目の見直しをおこなった（資料 A-I-1-1-14：18 頁）。卒業研究では評価基準を共有し、全てのコースで発表会を導入することとした。グローバルリーダーコースを設置し、国際性豊かな人材の育成を推進することとした。
- 社会貢献：組織的に出前授業を受け入れ、理系の授業を増やしてほしいという高校の要望に答えた。
- 男女共同参画：進学に対する意識調査を実施した。
- 管理運営：理学部の委員会を見直し、図書委員会を廃止し、安全委員会を設置した。理学部運営会議のメンバーを講座主任と教務、入試委員長としてスリム化を図った。
(中期計画番号 71)

資料 E-II-2-3-1 組織評価の実施概要



[出典：組織評価説明会資料]

4. 熊本大学理学部改善計画書	
領域	改善計画(H27.3.31現在)
教育	(次の組織評価までに改善する計画) 理学士の質保証は卒業研究の成績評価が直接関係している。各コースで卒業研究の成績評価基準を検討し、理学部で共有することにより、教員間の共通認識の構築や学生への周知を徹底する。結果は、4年生アンケートなどを通して検証する。 新学習指導要領による教育を受けた学生への授業や指導、および大学卒業時の成績や達成度をもとに、PDCAサイクルを通して、教育内容の改善を行う。 全学の教育改革と整合性を取りながら、4年生アンケートなどを活用し、学修意欲を向上させる教育制度の改善策を作成する。
社会貢献	(次の組織評価までに改善する計画) 特定地域教育支援事業など、これまで理学部で取り組んできた社会貢献活動も含めて、全学における社会貢献活動と連携して高度化および効率的な実施に向けて、不断の改善に取り組む。具体的には、地域の数学や理科の教員との研修会を開くことなどが考えられる。
その他 (男女共同参画)	(次の組織評価までに改善する計画) 学部および大学院の女子学生を対象にした進学に関する意識調査を実施し、結果を分析し、理学部学生対象の男女共同参画に関する事業を企画・実施する。
管理運営	(次の組織評価までに改善する計画) 現在、大学院改組計画が進行中であり、改組後は教員および教育組織をシンプルにして、更なる迅速な意思決定とそれを周知する体制を整える。

[出典：組織評価改善計画書]

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由) 評価結果を受けて、観点に記載したように4年間で非常に多くの改善を実施してきた。

分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。(教育情報の公表)

観点 目的 (学士課程であれば学部、学科または課程ごと、大学院であれば研究科または専攻等ごとを含む。)が適切に公表されるとともに、構成員(教職員及び学生)に周知されているか。

(観点に係る状況)

教育研究上の目的は熊本大学及び理学部のホームページで公表するとともに、理学部案内にも記載されており、広く一般に周知されている。(資料 E-Ⅲ-3-1-1) また、学生便覧、履修の手引きにも記載し構成員に周知している。

(中期計画番号 72)

資料 E-Ⅲ-3-1-1 理学部の教育研究上の目的

理学部	
理学部は、自然科学に対する幅広い知識と理解、および、豊かな創造性と国際性を持ち、課題探求能力を備え、科学立国及び地域文化の創造に貢献できる人材を養成することを目的とします。	
学科(課程)名	目的
理学科	一学科制の特色を活かして、自然科学に対する幅広い知識と理解、および、豊かな創造性と国際性を持ち、課題探求能力を備え、科学立国及び地域文化の創造に貢献できる人材を養成することを目的とします。

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/gaiyo/mokuteki/index#rigakubu>

[出典：熊本大学 Web ページ]

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 考えられる全ての方法で周知につとめており、かつ、ホームページではアクセス制限を設けていないのでいつでもどこからでも確認することができ、想定している関係者の期待に込んでいる。

観点 入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針が適切に公表・周知されているか。

(観点に係る状況)

入学者受入方針は熊本大学ホームページや理学部ホームページ(資料 E-Ⅲ-3-2-1)、及び、入学者選抜要項や理学部案内にも掲載し、受験生や高校生を含め広く一般に広報・周知している。

教育課程の編成・実施方針および学位授与方針は熊本大学ホームページ(資料 E-Ⅲ-3-2-2)で広報・周知している。更に、カリキュラムの全体的な構成を理学部ホームページや学生便覧・履修の手引きにも掲載し、周知を図っている。更に、学位授与方針を補完するものとして卒業までのロードマップ(資料 E-Ⅲ-3-2-3)や履修の流れ(前掲資料 A-I-1-2-14:40 頁)を掲載して、分かりやすく周知している。

(中期計画番号 72)

資料 E-Ⅲ-3-2-1 入学者受入方針（アドミッションポリシー）

<p>理学部</p>
<p>理学部が求める人材像</p> <p>理学部では数学と理科の各分野について幅広い興味と理解を有し、自然科学の諸課題に対し意欲的にチャレンジでき、多角的な視点から忍耐強く真理の探究ができる次のような人を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 物事の本質を見極めたいという強い意志を持った人 2. 論理的思考ができる人 3. 豊かな感性と洞察力を有する人 4. 野外調査や長時間に及ぶ実験等に対し、忍耐強く取り組める人 5. 広い視野をもち、応用力、実践力のある人 6. わが国の理学研究の発展に貢献したいという意志をもった人 7. 複数の学問にまたがる学問領域にも失敗を恐れず果敢に挑戦できる人 8. 国際的に活躍する意欲のある人 <p>理学部への入学に際して求められる学力</p> <p>数学</p> <p>数学I、数学II、数学III、数学A、数学B（「数列」および「ベクトル」）について、個々の項目の内容をよく理解し、知識と技能を十分身につけておくこと。項目間のつながりを意識し、数学的思考方法を習得しておくこと。また、数学のみならず理科においても、数学的に考察して処理する能力を身につけておくこと。</p> <p>理科</p> <p>物理、化学、地学、生物から2科目以上を習得しておくこと。</p> <p>事物や自然現象についての観察や実験などを行い、自然や科学に対する関心を高め、探究する能力と態度を身につけておくこと。</p> <p>基本的な概念や原理・法則を理解して、科学的な自然観を養っておくこと。</p>

https://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/gakubunyushi/admission_policy#rigakubu

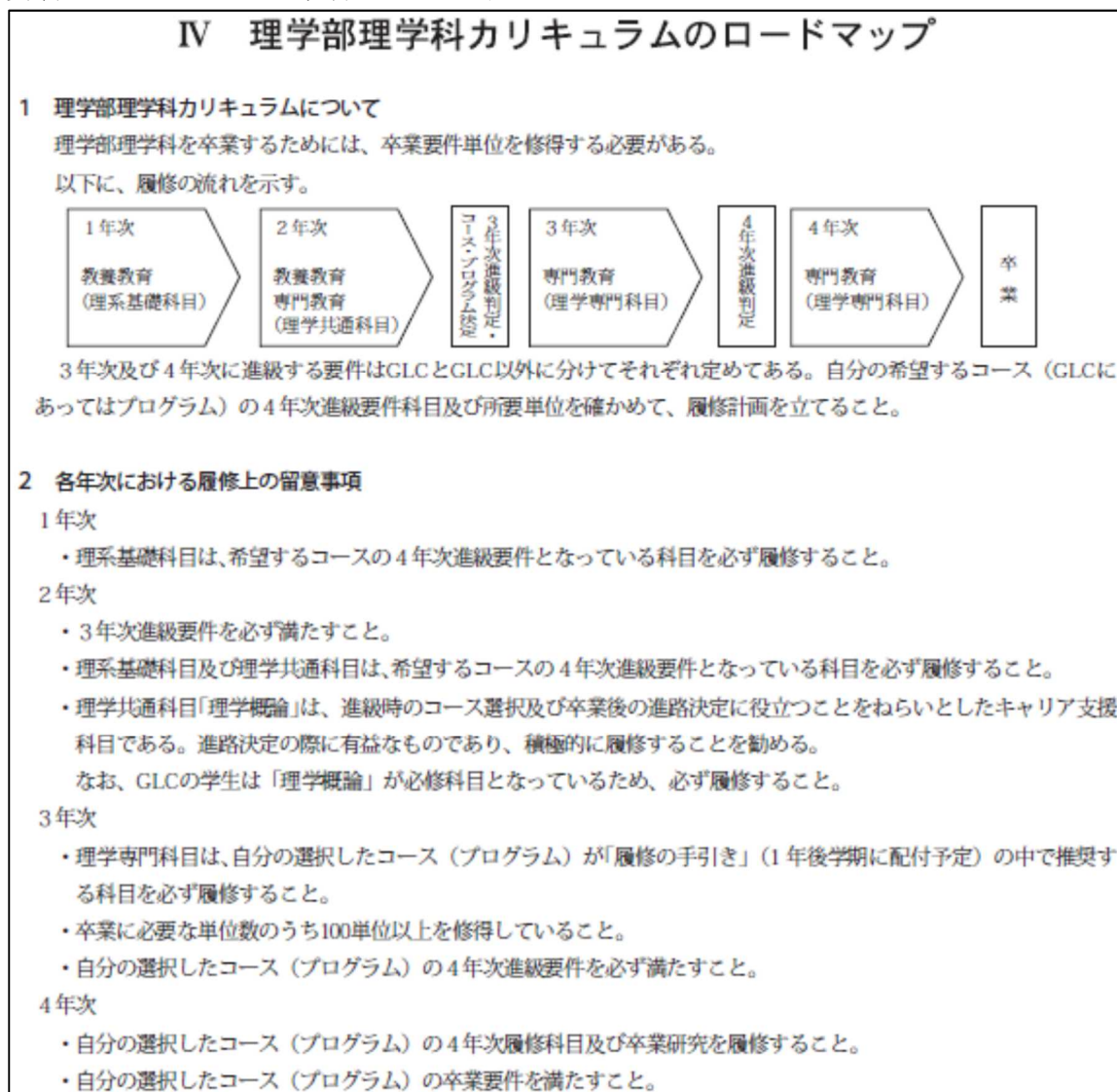
[出典：ホームページ]

資料 E-Ⅲ-3-2-2 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針

	卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)
<p>学部全体</p>	<p>理学部理学部</p> <p>理学部は、学士課程教育において、「自然科学に対する幅広い知識と理解および豊かな創造性と国際性を持ち、課題探求能力を備え、科学立国及び地域文化の創造に貢献できる」人材の育成を目的としています。この目的を達成するため、主に1、2年次で実施される学部共通教育および5分野の特性を活かした専門教育を実施しています。さらに、各分野での教育では、「自然科学の特定分野への深い専門性を持ち、導かれた真理を堅固かつ多岐に表現できる人材の育成」を目標としています。このことを踏まえ、本学が定める卒業成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学習し、所定の単位を修得した者に、本学部の学位を授与します。</p>	<p>理学部理学部</p> <p>理学部理学部のディプロマ・ポリシーを踏まえて、次のような人材の育成を目指しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然科学に関して広くバランスのとれた知識や思考法および実験・観察の技能を身につけた有能な人材 2. 国際社会における新しいさまざまな課題に積極的に立ち向かうことのできる人材 3. 高い学修意欲を持って理学におけるスペシャリストをめざす人材 <p>そのため、以下に挙げる体系的性、段階性、個別化(進路への対応)をもとにカリキュラムを構成しています。</p> <p>体系的性: 自然科学の特定分野への深い専門性のための各分野(コース)の学修体系、および、自然科学に対する幅広い知識と理解のための1-2年次(学士前期)に実施する共通カリキュラムを基盤に構成しています。</p> <p>段階性: 基礎的な科目から学年進行に沿って発展的な科目を学修するよう構成しています。また、人間力、コミュニケーション能力、自己管理能力、他領域を身につけることを目的とした、「教養科目」、「外国語科目」、「情報科目」などは1-2年次に履修し、3年次以降の各分野での専門教育の礎になるようにしています。</p> <p>個別化(進路への対応): 学年に依り学修を深化させるように、履修科目を配置し、個々の履修コースの目的である将来の進路に照した科目履修を促すよう構成しています。豊かな創造性や課題探求能力の涵養のため実験や実習、演習など能動的な授業を重視します。更に、国際性や表現力なども含め、人材育成の質保証のために卒業研究を必修としています。</p>

https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/curriculum/curriculum/ri_policy.pdf

[出典：熊本大学 Web ページ]



[出典：学生便覧]

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）多くの方法で周知につとめており、かつ、ホームページではアクセス制限を設けていないのでいつでもどこからでも確認することができ、想定している関係者の期待に応えている。

観点 教育研究活動等についての情報（学校教育法施行規則第172条に規定される事項を含む。）が公表されているか。

（観点に係る状況）

学校教育法施行規則第172条に規定される事項については、全学委員会である教育会議から教育情報公表のスケジュールが示され、それに従って、必要な情報の収集および作成を行い、熊本大学のホームページで公表されている（資料 E-Ⅲ-3-3-1）。

その他に、学部の教育プログラムや個々の教員の教育研究活動についての情報は、理学部 web ページからリンクが張られている（資料 E-Ⅲ-3-3-2）。また、理学部通信を年1回発行し（資料 E-Ⅲ-3-3-3）、大学での学生の様子を在学生の保護者等に送付している。

（中期計画番号 72）

教育情報の公表

◆教育組織ごと（学士課程、大学院課程、専攻科・別科）に閲覧したい場合は [こちら](#) から

1. 大学の教育研究上の目的に関すること

[[学士課程](#)] [[大学院課程](#)] [[専攻科・別科](#)]

2. 教育研究上の基本組織に関すること

学科・課程等の名称、収容定員数 [[学士課程](#)] [[大学院課程](#)] [[専攻科・別科](#)]

3. 教育組織等に関する情報

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/kyoikujoyoho>

[出典：熊本大学 Web ページ]

資料 E-Ⅲ-3-3-2 理学部の教育プログラム

熊本大学理学部
Faculty of Science, Kumamoto University

HOME 熊本大学理学部広報委員会 サイトマップ

理学部について カリキュラム 教育プログラム 入試情報 教職員組織表 セミナー・講演 進路情報 教職員向け資料

HOME >> 教育プログラム

教育プログラム Program

1年次における基盤科目、2年次における共通科目の修得の後、3年次における展開科目から、以下に掲げる5つの教育プログラムのいずれかを学生は選択することになります。それぞれのプログラムは、さらにいくつかの履修モデルに分かれ、その履修モデルに沿って履修計画が作成されます。

- 1) 数学コース [履修モデル] 数学**
- 2) 物理学コース [履修モデル] 物理学**
- 3) 化学コース [履修モデル] 化学**
- 4) 地球環境科学コース [履修モデル] 地球物質科学 地球環境変遷学 地球惑星物理学**
- 5) 生物学コース [履修モデル] 細胞生物学 生物多様性学**

<http://www.sci.kumamoto-u.ac.jp/program/index.html>
[出典：理学部 Web ページ]

資料 E-Ⅲ-3-3-3 理学部通信

Kumamoto University

理学部通信

Faculty of Science, Kumamoto University

第8号
2017年3月
編集・発行
熊本大学理学部

ご挨拶

理学部長 市川 聡夫

この通信は、ご子息ご息女の熊本大学理学部での学生生活を簡単にご報告するものです。まず始めに、平成28年度熊本地震に被災された方にお見舞い申し上げます。3週間の休講期間後の授業再開時にほとんどの学生が大学に戻ってきました。彼らの元気な姿に教員として本当にうれしく思いました。時間がかかる部分もありますが、教育研究環境は地震以前の状態に戻ってきています。学生諸君には地震での経験を糧に、更に大きく飛躍してもらいたいと節に願います。

[出典：理学部通信第8号]

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 全学で公表される学校教育法施行規則第172条に規定される事項に加え、種々の方法で教育研究活動についての情報が公表されている。

分析項目VI 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。(施設・設備)

観点 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備における耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面について、それぞれ配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

1 学年全員を収容できる教室が無いため、複数の授業科目において、2クラス開講や、離れたキャンパスで開講するなどの工夫をして対応している。

時間外施設利用申請システムを導入し火災や災害に備えている(資料 E-IV-4-1-1)。授業時間外の小講義室を自修室として確保するとともに、利用時間を設定し、安全・防犯面の配慮を行っている(前掲資料 A-I-1-2-28:50 頁)。安全委員会を設置するとともに、理学部安全週間(年2回)を設けて、理学部構成員の安全に対する意識向上を図った(資料 E-I-1-1-6)。

平成26年熊本地震で施設・設備が大きな被害を受けたが、地震後2年以上を経過し、地震前の状況にほぼ戻った。平成30年度末でPFI事業が終了し、施設・設備の老朽化への対策が近々の課題である。

(中期計画番号 75、76、78、79)

資料 E-IV-4-1-1 時間外施設利用申請システム

時間外施設利用申請システム

※複数をする際は、必ず2人以上で行ってください。

申請者氏名	<input type="text"/>
共同申請者氏名	<input type="text"/> (複数人の場合は“.”で区切ってください。例:熊本太郎,熊大花子) <small>社会人学生など指導教員が認められた者は「許可者」と記載してください。</small>
申請人数	<input type="text" value="2"/> (自分含め)
申請者身分	<input type="radio"/> 学部生 <input type="radio"/> 院生
指導教員	学科 <input type="text" value="学科を選択してください。"/> 教員名 <input type="text"/>
作業場所	<input type="text" value="理学部1-2号館"/> 部屋名 <input type="text"/> (例:総合研究棟300)
申請者メールアドレス	<input type="text"/>
教員メールアドレス	<input type="text"/> (複数入力する場合は“.”で区切ってください)
開始日時	<input type="text" value="2018/7/17"/> <input type="text" value="22"/> : <input type="text" value="00"/>
終了日時	<input type="text" value="2018/7/17"/> <input type="text" value="22"/> : <input type="text" value="00"/> <small>開始日・終了日はカレンダーから選択してください。</small>
備考	<div style="border: 1px solid gray; height: 40px; width: 100%;"></div> <small>(作業内容や、場所が複数になる場合その旨を記述してください。)</small>

このページは、Windows版Google Chrome 110にて動作確認を行っております。
本ページは、JavaScriptを使用しております。ブラウザ及びバージョンによっては、正実に表示されない場合があります。

<http://www.sci.kumamoto-u.ac.jp/yakan/index2.html>

[出典：理学部 Web ページ]

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 安全面には配慮し、施設・設備が十分に整備されている。

観点 教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されているか。

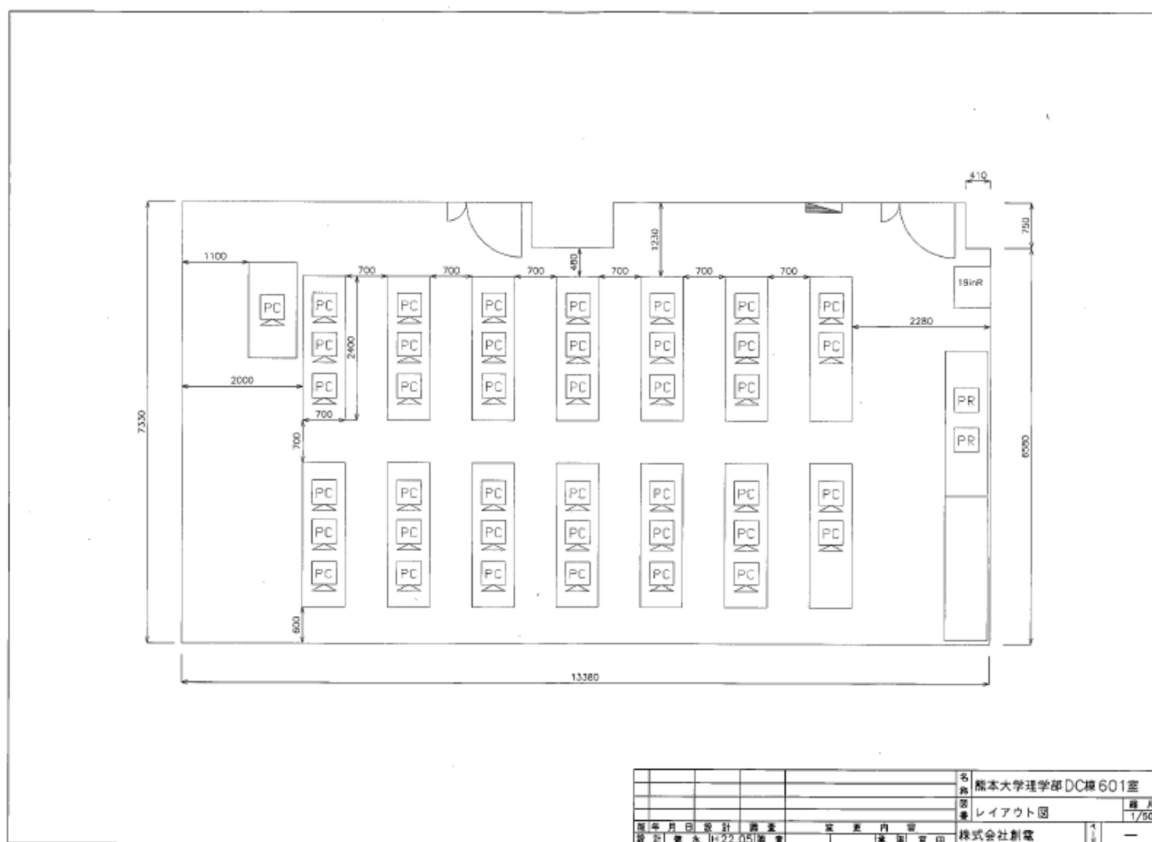
(観点に係る状況)

全学的に整備された ICT 環境を利用するためのパソコン室を一部屋だけ理学部で管理し、資料 E-IV-4-2-1 に示すように PC を 40 台設置し、有効に活用されている。つながりにくい場所がいくらかあるが、全学無線 LAN が設置されており、教育研究活動に利用されている。

グローバル IP アドレスが不足する状況になりつつあるため、研究室毎にルーターを設置して対応している。理学部独自のサーバーの維持管理は人的に難しくなっている。総合情報統括センターへの移管を検討している。

(中期計画番号 82)

資料 E-IV-4-2-1 パソコン室の配置図



[出典：教務担当資料]

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) パソコン室や全学無線 LAN が活用されている。

観点 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

理学部において、閲覧室、書庫 1、書庫 2、数学分野書庫を設置し、学年・コース毎に利用規則を制定し、理学部学生及び教職員の教育研究に有効に活用している（前掲資料 A-

I-1-2-29:51頁)。なお、数学分野書庫では五高時代の貴重図書も所蔵している。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 閲覧室、書庫1、書庫2、数学分野書庫を有効に活用している。

観点 自主学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

小講義室を自修室として提供している。データはとっていないが、頻繁に利用されている(資料A-I-1-2-28:50頁)。また、自修室として利用時間の設定や教室の可視化を行い、安全・防犯面の配慮も行っている。また、3年生以上は各コースでの研究室や学生控室などが使われている。

(中期計画番号14)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 学生が利用できる環境が整っており、効果的に利用されていると判断する。安全・防犯面への配慮も行っている。

4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目Ⅰ 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること。

重要な質の変化あり。

改善、向上している。

理学部長室を中心とした意思決定システムや管理運営のための組織は構築されており、規則や細則にその所掌が明記されていることで、適切に運営されている。

安全の手引きを作成し、年2回理学部安全週間を実施している。平成28年度熊本地震にも適切に対応した。

以上のような状況の中で、各教職員の努力により、第2期中期目標期間終了時点の水準より向上している。

(2) 分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに、継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

重要な質の変化あり。

質を維持している。

組織評価後も毎年年報を作成し自己点検・評価を実施した。また、学部長のリーダーシップのもと、理学部長室（設置は前回の組織評価期間の最終年度）で改善すべき点を抽出し、各種委員会で改善方法を検討し適切に対応してきた。

根拠資料は各観点の中で掲載した。

(3) 分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。（教育情報の公表）

質を維持している。

大学に協力し法律に従って情報を公表している。

(4) 分析項目Ⅳ 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。（施設・設備）

質を維持している。

施設面では解決されていない問題点もあり、PFI事業が終わった今後は検討事項となる。

Ⅶ 男女共同参画に関する自己評価書

1. 男女共同参画の目的と特徴

(目的)

本学では、「男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会」の実現を目指し「男女共同参画推進基本計画」を第一期として平成19年に、さらに第二期を平成29年に策定した。大学院先端科学研究部はこの基本計画の推進を図るために、男女の機会均等の実現と男女共同参画を推進するための啓発活動を基本方針として男女共同参画に取り組んでいる。本学部は、本学における男女共同参画の活動に、主に大学院先端科学研究部を通して協力・貢献しており、その目的と特徴は本学及び研究部及び自然科学教育部と同様である。これらの活動とも関連して、本学部への女子中高生志願者増加を目指す。

理学部の教育を担当している教員は全て大学院先端科学研究部に所属しており、教員採用は先端科学研究部として行っている。従って、教員採用に関する男女共同参画に関する取り組みは、熊本大学男女共同参画推進基本計画に沿って適切に実施するとともに、女性研究者養成システム改革加速など本学が採択された事業にも参画している。また、先端科学研究部に設置されている男女共同参画推進委員会を通して具体的な活動も行われている。このように、理学部の男女共同参画に関する活動は、主に教員の所属部局である先端科学研究部を通じたものであり、その内容は先端科学研究部の自己評価書に記載されている。

(特徴)

先端科学研究部において行われている女子中高生の理系進路選択支援事業 JST 女子中高生の理系進路選択支援プログラム「はばたけ！熊本サイエンスガールズ」は、広く理系分野への女性の進学を促すものであり、現在半数に満たない本学部への入学志願者の女性比率の増加を期待したものである。以下では、本事業において理学部に関連する部分を、特に学部学生が貢献した活動を抽出して記載する。

教育研究において性別による差別を加えることはないが、男女を問わず学生及び教職員に対し差別等につながる事例が発生した場合には、迅速に対応する体制を整えている。さらに、学修及び教育研究環境の整備に関する意見や要望に対応する体制も構築している。

[想定する関係者とその期待]

学生・入学志願者およびその保護者：講演会、相談会や体験学習等による啓発活動により、理系進路選択の可能性を広げる。また、学修環境における男女共同参画の適切な推進。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

女子中高生の理系進路選択支援事業に積極的に関与し、同事業に参加している学生を支援している。女子中高生に対し理系進路選択について啓発するには、本学部において女子学生がどのような学修を行い、その環境や進路がどのようなものかを示すことが極めて効果的である。

【改善を要する点】

女性進学者の増加は、短期的に成果を上げることは困難である。今後も息長く取組を継続していく必要がある。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 男女共同参画の状況

観点 男女共同参画に準ずる環境整備の取り組みを実施しているか。

(観点に係る状況)

女子学生及び女性教職員が安心安全に学修ならびに教育研究を行えるよう環境整備を進めており、問題が明らかとなった場合は学部長のもと迅速に対応する体制を整えている。また、全学の体制に沿ってセクシャルハラスメント相談員を配置し、規則に沿って対応している。

平成 29 年度より「はばたけ！熊本サイエンスガールズ」として実施している女子中高生の理系進路選択支援事業（資料 F-I-1-1）に関しては、理学系教職員が企画運営に関係するとともに、先端科学研究部からの依頼に応じて理学部及び理学専攻等の女子大学生・大学院生が各種企画に協力している。特に、理系ロールモデルについての講演会（資料 F-I-1-2）は、理系学部進学希望を持つ中高生が具体的な将来像を知ることが出来る機会として効果を上げている。また、オープンキャンパスに合わせて開かれる進学相談会は、高校生の興味に応じて現役学生と個別に相談する機会として多くの参加者を得ている（資料 F-I-1-3）。これら行事の参加者からは、極めて高い評価を得ており（資料 F-I-1-4）、理系学部に進学する女子高校生及び大学院に進学する女子学生の割合を増やし、将来の女性教員・研究者増加につなげるという意味で、優れた取組と考えている。

理学部学生に占める女子学生の比率は 26%程度で推移しており、この 4 年間はほぼ一定である（資料 F-I-1-5）。また、自然科学研究科（教育部）の理学系専攻博士前期課程への進学者の男女比は、理学部学生の男女比とほぼ等しい（資料 F-I-1-6）。一方、博士後期課程進学者は少数であり変動が大きい（資料 F-I-1-7）。男女を問わず、進学者の増加を図る必要がある。

(中期計画番号 54、55)

資料：F-I-1-1 はばたけ！熊本サイエンスガールズ web ページ

はばたけ！熊本サイエンスガールズ
熊本大学・熊本県をはじめ九州各地に活動しています！

ABOUT EVENTS VOICE

Girls Enjoy Science

NEWS ▶ 2018.8.3 第4オープンキャンパスにてオールズ研修会（理・生・工、熊本県）を行います

実は理系が得意かも？な女子のみなさん

2017年度から2年間、熊本大学は、熊本県を共同実施機関として国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の助成による「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択されました。好きな科目や興味ある分野を問わず、多くの方が理系分野に興味を持つような企画をたくさん用意しました。

新しい発見や、ワクワクドキドキする体験と同時に、理系で活躍されている女性の先輩方の話を聞いて、どんな仕事があり、どんな未来があるのかを具体的にイメージできるようにしました。ちょっと高い存在と感じていた研究者や技術者を身近に感じる機会になればと思います。

もっと知りたい！

聞いてみんね、みつけんね！
理系のロールモデル

企業の女性技術者・研究者や女子学生が講師となって、理系に進んだ理由や理系の仕事の楽しさ・やりがいなどを講演します。また、理工系の研究室を見学し、雰囲気を感じることが出来ます。

女子ならではの話を聞いてお
ワクワクする？

親子ガールズスクール

理工学系技術の見学会・実習を体験できます。「産学ふれる実践・実習」を通して理工学系への興味・関心を醸成するイベントです。モノづくりの現場を見てみよう！

サテライトセミナー

あなたの学校に熊本大学教員、現役女子大学生、企業で働く人が伺います！最新の科学や技術の最新話をやさしく解説。また、女子大学生があなたの質問に答えます！

理系ガールズ相談室

現役女子大学生・女子高生による進路相談会。いろいろ知りたいキャンパスライフ、受験勉強などパンフレットに載っていない話を直接にたくさん聞けますよ！

熊本大学 工学部理系情報推進機構
〒860-0855 熊本市中4-23-68(第2丁)第410号
TEL/FAX: 096-342-2846
E-Mail: girls_kci@kumamoto-u.ac.jp
熊本大学ホームページ、kumamoto-u.ac.jp等
頁にリンクしてあります

はばたけ！熊本サイエンスガールズ
Girls Enjoy Science
JST「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」

(出典：熊本大学ホームページ [http://hqac.kumamoto-u.ac.jp/GIRLS/index.html] より抜粋)

はばたけ! 熊本サイエンスガールズ 2017

熊本大学はあなたの夢創りを応援します!

Girls♪ Enjoy Science

女子中高生
8 保護者・
教員の皆様へ





聞いてみんな! みつけんね!
理系のロールモデル

親子で進路を考えるチャンスです!
あなたの知らない理系の世界が
見えてくるかも!?

申込締切: 7月12日(水) 研究室訪問は先着順です!

参加ご希望の方は下記の申込書で、郵送またはFAXでお申込みください。
(受付13:00~)

7月22日(土) 13:30~16:00

ふりがな		
氏名		
<input checked="" type="checkbox"/> 研究室訪問を	<input type="checkbox"/> 希望する	<input type="checkbox"/> 希望しない
同伴者	いる () 人	いない
学校名		
学年		

※天候などによりイベントが中止になる場合がございます。中止の場合はホームページでご確認ください。
※E-mailでお申込みの場合は、上記必要事項を記載し下記メールアドレスまで送信してください。
※当日参加もできますが、できるだけ事前のお申込みをお願いします。

第1部

理系の魅力って何だろう?
社会に出てどんな仕事をするんだろう?

毎年多くの女子生徒が参加しています

- 熊本大学理学部卒業生に聞く!
進路決定のプロセスから現在、そして未来へ、同仁化学研究所、ART女性クリニック、西松建設に勤務の3人のお話です。
- 理系の現役女子大学生が語る!
大学受験、研究活動紹介、キャンパス生活…等理学・工学・薬学部出身の大学生です。

第2部

15:30~16:00
研究室訪問
[工学部/理学部] 先着30名
希望者はお早め!

会場 熊本大学工学部2号館 (会場は鳥髪南キャンパス)

お問い 

※熊本地震の影響もあり大学敷地内の駐車スペースが限られます。できるだけ公共交通機関をご利用ください。公共交通機関の詳しい情報は熊本大学のホームページよりご確認ください。
<http://www.kumamoto-u.ac.jp/campus/oi/ohau/access>

お問い合わせ・お申込み先

熊本大学 大学教育統括管理運営機構
〒860-8555 熊本市中中央区黒髪2丁目40番1号
TEL/FAX: 096-342-2846
E-mail: girls_sci@kumamoto-u.ac.jp
<http://hqac.kumamoto-u.ac.jp/GIRLS/>

はばたけ! 熊本サイエンスガールズ 2017

Girls♪ Enjoy Science

平成29年度JST「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」
共同機関: 熊本高等専門学校
運営機関: 熊本県教育委員会 ほか



[出典: 女子中高生理系進路選択支援プログラム事務局]

137

はばたけ！熊本サイエンスガールズ

平成 29 年度 JST「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」

Girls Enjoy Science

理系ガールズ相談会

熊本大学 オープンキャンパス

女子高校生のための進路相談会

8月5日(土) 午前の部 11:00 ~ 12:30
 午後の部 13:30 ~ 15:00
 <*1組 10分~15分程度>

場 理学部・・・理学部2号館 3階 C330
所 工学部・・・工学部2号館 1階 214

現役女子大生による進路相談会です。
 キャンパスライフ、受験勉強などパンフレットには載っていない話も
 たくさん聞けますよ！

Kumamoto University

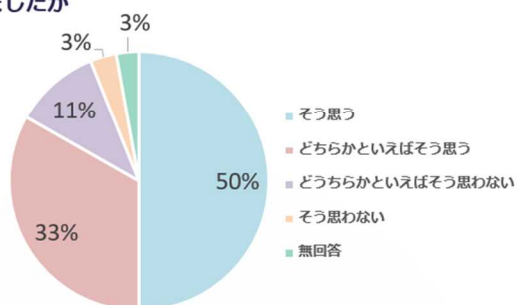
[出典：女子中高生理系進路選択支援プログラム事務局]

現在までの実績(アンケート結果)

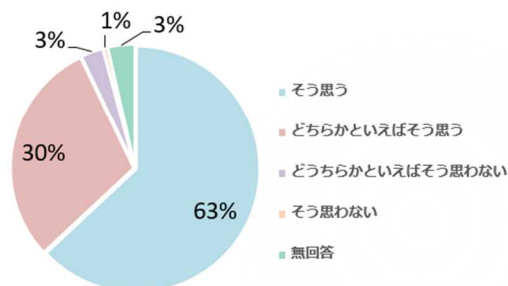


6

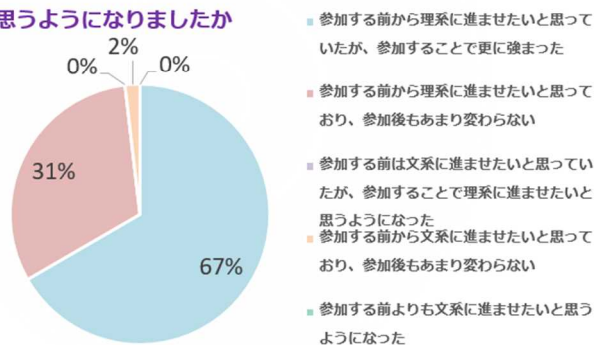
生徒 今後、理系の進路を前向きに選択しようと思うようになりましたか



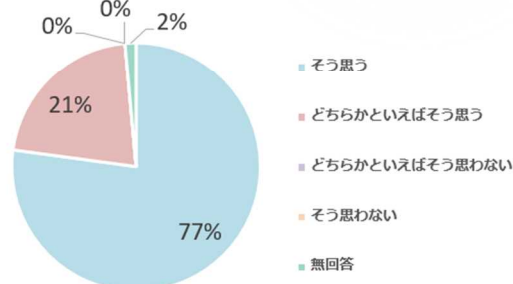
生徒 今回の取り組みは面白かったですか



保護者 今回の取り組みに参加したことで、お子様を理系に進ませたいと思うようになりましたか



保護者 参加された取り組みは面白かったですか



(出典：平成 29 年度女子中高生の理系進路選択支援プログラム全体報告会 実施報告 (熊本大学) 資料より抜粋)

資料 F-I-1-1-5 理学部男女別入学者数

入学年度	定員	入学者数	内訳				備考
			男	(%)	女	(%)	
H26(2014)	190	193	143	(74.1)	50	(25.9)	
H27(2015)	190	193	148	(76.7)	45	(23.3)	
H28(2016)	190	194	144	(74.2)	50	(25.8)	
H29(2017)	200	203	148	(72.9)	55	(27.1)	GLCコース設置

[出典：理学部教務担当資料]

資料 F-I-1-1-6 自然科学研究科（教育部）理学専攻，数学専攻博士前期課程男女別入学者数

入学年度	入学者数	内訳			
		男	(%)	女	(%)
H26(2014)	108	76	(70.4)	32	(29.6)
H27(2015)	99	75	(75.8)	24	(24.2)
H28(2016)	99	77	(77.8)	22	(22.2)
H29(2017)	88	64	(72.7)	24	(27.3)

[出典：自然科学教育部教務担当資料]

資料 F-I-1-1-7 自然科学研究科（教育部）理学専攻博士後期課程男女別入学者数

入学年度	入学者数	内訳			
		男	(%)	女	(%)
H26(2014)	14	14	(100.0)	0	(0.0)
H27(2015)	12	8	(66.7)	4	(33.3)
H28(2016)	9	6	(66.7)	3	(33.3)
H29(2017)	14	12	(85.7)	2	(14.3)

[出典：自然科学教育部教務担当資料]

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

学部として積極的かつ適切に対応している。

4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目 I 男女共同参画の状況

質を維持している。

全学の目標に沿って、引き続き継続的に先端科学研究部の評価書に示されている各種事業に協力・貢献している。加えて、構成員からの意見・要望に迅速に対応する状況も維持しているため、質を維持していると判定する。